

令和5年度 本部事業報告書

社会福祉法人 ささゆり会

当法人は、令和5年度の運営スローガンとして『足腰・頭を鍛え、健康で楽しく暮らせるように介護支援する』を掲げました。

令和5年度は、災害や非常事態に備えて介護サービスの継続性を確保するため、介護事業者にBCP(事業継続計画)策定が義務付けられました。これは、高齢者の安全と健康を一層守ることを目的とした重要な取り組みです。

当法人では、サンライフ土山、サンライフひろみねで虐待事件が発生し、家族様、入居者様に大変なご迷惑とご心配をおかけしたことを深くお詫び申し上げます。この件を受けて、法人全体で虐待研修を定期的 to 実施し、虐待防止に万全を期しています。

令和5年度には、姫路市名古山町に社員寮の建設を行いました。9月1日に7社からの入札を受け付け、株式会社坪田工務店が落札しました。落札額は165,300,000円でした。2024年2月29日に竣工しました。また、フレール魚崎中町(認知症対応型共同生活介護)では、7月から増床工事を行い、2床増やして運営しています。工事費用は7,400,000円でした。

子ども食堂については、サンライフ田寺は開催曜日を水曜日から日曜日に変更しました。しかし、10月以降は予約者がいなかったため開催を見合わせました。サンライフ西庄は、引き続き開催しています。

サンライフ御立では、介護ソフトの導入先を別の会社に変更しました。これは、iPadを使って介護記録を行うなど、業務改善のために必要だと判断したためです。

特定技能生の受け入れは、ミャンマーからケアハウス魚崎2名、サンライフ魚崎2名、インドネシアから御立2名、土山6名、西庄2名の計14名が入職しました。介護福祉士の合格者は、9名でした。そのうち、外国人の合格者は6名でした。

感染対策として、面会に際しては、人数制限と時間制限を設けており、ワクチン接種証明の提示を確認した家族様のみ面会を承諾しています。緊急事態宣言が解除された場合には、人数制限はありますが、積極的に面会をご希望の方に可能な限り応じます。面会の方法としては、Zoomを使ったオンライン面会も可能です。画面と音声がりとりできます。また、飛沫感染のリスクを回避するため、机の上にはアクリル板を設置しています。さらに、アルコール、手袋、マスクなどは十分に備蓄して対応しています。ワクチン接種は、職員、ご入居様共に行っています。

令和5年度ささゆり会重点課題は、事業計画に挙げた下記3つの重点項目である。

- I. 施設運営の改革に不可欠な諸事業の充実
 - ・新型コロナ感染対策
 - ・外国人技能実習生受け入れ
- II. 主体的経営の基盤強化に不可欠なシステム及び仕組みの構築
 - ・ICT導入による業務改善
- III. 施設の運営や活動に不可欠な人材育成と確保
 - ・新卒者、中途者採用促進の為、専門担当者の配置推進
 - ・EPA(経済連携協定)、技能実習生、特定技能生の採用と育成

以下、令和5年度の事業推進結果を主要運営の経緯・施設経営と介護サービス・会議と大別して、その概要を報告する。

1. 主要運営の経緯

- I. 定款の変更と諸規程の改正
 - R5.6.9 社会福祉法人ささゆり会諸規定の改定について
 - R5.8.9 社会福祉法人ささゆり会諸規定の改定について
 - R5.12.10 社会福祉法人ささゆり会諸規定の改定について
 - R6.2.1 社会福祉法人ささゆり会諸規定の改定について
 - R6.3.12 社会福祉法人ささゆり会諸規定の改定について

2. 施設経営と介護サービス

- I. 施設運営の改革に不可欠な諸事業の充実
 - 姫路市名古屋山町に社員寮の建設
 - フレール魚崎の2床増床
- II. 主体的経営の基盤強化に不可欠なシステム及び仕組みの構築
 - サンライフ御立に介護ソフトの変更及びICTのシステム構築
- III. 施設の運営や活動に不可欠な人材育成と確保
 - 外国人職員の確保
 - 虐待研修

IV. 地域貢献事業等の推進（介護実習等）

姫路事業所

受入先	人数
関西福祉大学	3
兵庫県立大学	4
姫路保育専門学校	7
兵庫徳誠会歯科衛生士学校	11
龍野北高等学校	2

合計 27

魚崎事業所

受入先	人数
総合衛生学園（歯科）	2
甲子園短期大学	1
総合衛生学院（介護）	6
大原学園	1

合計 10

ふれあい子供食堂（レストランテ・ヴォーノ西庄）

開催日	4/13	5/11	6/8	7/13	8/10	9/14	10/12	11/9	12/26	1/11	2/8	3/14
子ども利用者	11	13	16	15	3	12	17	11	21	10	14	12
ボランティア	10	7	8	7	8	9	8	8	4	10	11	11

ふれあい子供食堂（レストランテ・ヴォーノ田寺）

開催日	4/16	5/21	6/18	8/20	9/17
子ども利用者	13	6	6	12	7
ボランティア	5	2	2	3	3

7月：職員コロナにより中止、10月以降は予約者がいなかったため開催なし。

V. 職員の資格取得への取組について

・介護福祉士

サンライフ御立	グエン ティ モン
サンライフ土山	アニタ ラタユ
サンライフ土山	松崎 真奈美
サンライフ魚崎	今田 健太郎
サンライフ魚崎	グエン ティ タインヒエン
サンライフ魚崎	チャンデラ ボンガラン
サンライフ魚崎	チャンドウックアイン
サンライフ魚崎	ファムティズン
サンライフ魚崎	安原 久美子
合計	9名（内外国人 6名）

・ケアマネージャー

介護型ケアハウスサ ンライフ魚崎	壇浦 加奈子
合計	1名

3. 会議

定款の変更、規定の改正、事業計画及び事業報告、会計予算及び決算、介護に関する業務の執行状況や財産状況の整理のため、以下の会議を行った。

I. 監事会・理事会・評議員会

会議名	内 容	期 日	場 所
第1回理事会（書面決議）	1. 正社員特別退職金規定の一部追加について	R5.4.7	
第2回理事会	1. 上田氏特別退職金の支給金額について 2. 社会福祉法人ささゆり会諸規定の改訂について 3. 職員寮新築工事、監査・管理業者及び入札方法の決定について	R5.5.18	御立 2F 会議室
第1回監事会	1. 令和4年度事業報告・決算などの監査	R5.6.2	御立 2F 会議室
第3回理事会	1. 令和4年度事業報告承認について 2. 令和4年度会計決算承認について 3. 福祉充実残額、充実計画の上程議案について 4. 会計監査人の報酬額について 5. 新理事・監事の推薦について 6. 定時評議委員会の開催日時、場所、議題等について 7. 社会福祉法人ささゆり会諸規程の制定について 8. 特別退職金の取り扱いについて	R5.6.9	御立 2F 会議室
第4回理事会	1. 理事長、業務執行理事の選定について 2. 資産運用委員の選任について 3. 社会福祉法人ささゆり会諸規定の改訂について 4. 職員寮 入札公告事項の決定について 5. 顧問の再任について	R5.6.27	御立 2F 会議室

定時評議員会	<ol style="list-style-type: none"> 1. 福祉充実残額、社会福祉充実計画の承認について 2. 役員の選任について 	R5. 6. 27	御立 2 F 会議室
第 5 回理事会（書面決議）	<ol style="list-style-type: none"> 1. サンライフ御立職員寮土地付建物購入について 	R5. 7. 12	
第 6 回理事会	<ol style="list-style-type: none"> 1. 職員寮新築工事入札参加業者の選定について 2. 姫路市辻井 9 丁目 320 番 8 不動産（土地・建物）売買契約について 3. 社会福祉法人ささゆり会諸規定の改定について 	R5. 8. 9	御立 2 F 会議室
第 7 回理事会	<ol style="list-style-type: none"> 1. 職員寮新築工事入札落札予定価格の決定について 2. 管理者の変更について 3. 社会福祉法人ささゆり会諸規程の改訂について 4. 職員寮新築工事の入札 	R5. 9. 1	御立 2 F 会議室
第 8 回理事会（書面決議）	<ol style="list-style-type: none"> 1. 資産運用について 2. 債権の利息を V00 投資への意向について 	R5. 11. 6	
第 9 回理事会	<ol style="list-style-type: none"> 1. 特別養護老人ホームサンライフ土山の虐待事件処分について 2. 社会福祉法人ささゆり会諸規程の改訂について 3. 管理者の変更について 4. 法人指導監査の結果について 	R5. 12. 4	御立 2 F 会議室
第 2 回監事会	<ol style="list-style-type: none"> 1. 上半期事業推進状況の監査 2. 事業計画に基づく諸事業の実施状況と課題 	R5. 11. 22	御立 2 F 会議室
第 10 回理事会	<ol style="list-style-type: none"> 1. 令和 5 年度上半期事業報告について 令和 5 年度上半期会計決算報告について 令和 5 年度上半期監事監査報告について 2. 令和 5 年度第 1 次補正予算(案)承認について 3. 資産運用について 	R5. 12. 8	御立 2 F 会議室

	<ul style="list-style-type: none"> 4. 第1回臨時評議委員会の議案承認について 5. 社会福祉法人ささゆり会諸規程の改定について 		
第1回臨時評議員会	<ul style="list-style-type: none"> 1. 令和5年度第一次補正予算(案)承認について 	R5.12.18	御立 2F 会議室
第11回理事会	<ul style="list-style-type: none"> 1. 懲戒委員会の決定事項の内容について 2. 死亡された家族様より施設料の開示について 3. 社会福祉法人ささゆり会諸規程の改訂について 	R6.2.1	御立 2F 会議室
第12回理事会	<ul style="list-style-type: none"> 1. ひろみね虐待事件の経過報告等について 2. 施設長の懲戒処分について 3. 令和5年度法人・拠点区分会計第2次補正予算(案)承認について 4. 令和6年度事業計画案・会計予算案承認について 5. 第2回臨時評議員会の招集の件 日時、議案承認について 6. 資産運用委員の任命について 7. 管理者の変更について 8. 社会福祉法人ささゆり会諸規定について 	R6.3.12	御立 2F 会議室
第2回臨時評議員会	<ul style="list-style-type: none"> 1. 令和5年度法人・拠点区分会計補正予算(案)について 2. 令和6年度法人・拠点区分会計予算(案)承認について 3. ひろみね虐待事件の経過報告・役員の報酬減額等について 	R6.3.27	御立 2F 会議室
第13回理事会	<ul style="list-style-type: none"> 1. 役員賠償責任保険の契約について 2. 定款施行細則の第7章(理事長の専決)第31条第5項の条文の改正について 	R6.3.29	御立 2F 会議室

II. 介護保険推進委員会

会 議 名	内 容	期 日	場 所
第1回介護保険推進委員会	令和5年度上半期事業推進状況報告と課題検討	コロナにより中止	
第2回介護保険推進委員会	令和6年度事業計画の策定案について	R5.2.21	サンライフ御立

特別養護老人ホームサンライフ御立

令和5年度 事業報告書

令和5年度のささゆり会経営スローガンである「足腰頭と心を鍛えて、いつまでも元気に楽しく過ごす」を基に介護の原点に立ち返りADLの維持・向上を念頭におき、医務、リハビリ職員、歯科衛生士と連携を図り、レクリエーション・リハビリの強化を目指した。また、人員配置を全国基準（1：2.13）に合わせ、生産性向上・業務の標準化を図り、その中でも質の高いサービス提供に向け、外国人スタッフの教育体制の確保と共に人材育成に向け研修を拡充し、指導者にあたる日本人スタッフのスキルアップにも努めた。

引き続き感染対策にも尽力し、第5類移行後社会全体が規制緩和される中でご利用者の安全面に配慮しながら、面会を継続した。職員の生活状況、行動範囲も変わってきているため、適宜感染症対策の内容を状況に応じ改定しながら、徹底していきたい。

職員の介護技術および資質向上への取り組みとして、オンライン研修や対面研修にも積極的に参加するよう努め、施設内研修としても、来年度4月から虐待防止研修として事例検討を2ヶ月に1度実施するにあたり、3月に初回研修として理事長による講義を実施した。また、実践として、歯科衛生士や機能訓練士、看護師の協力を得て、随時気になることがあれば、技術指導を仰ぎ実践に活かせるよう取り組んだ。専門職も含め各研修への参加を促し、研修で得た知識を現場にて伝達研修を行い、指導、助言するなどに役立てていきたい。

R4年度より取り入れたOJT活動において業務の効率化に向け、5S活動を継続して実施し、今年度は新たに各班から職員を選任し業務改善に向けた取り組みを実施した。OJT担当者だけでなく、各職員が意識的に整理整頓や安全が担保されるよう環境整備に取り組む姿が確認できている。しかし、まだまだ様々な場面で「余裕をもって置いておこう」という考え方が抜けきらず、在庫管理が十分でない部分があるため、ムダを徹底的に省けるよう取り組んでいきたい。

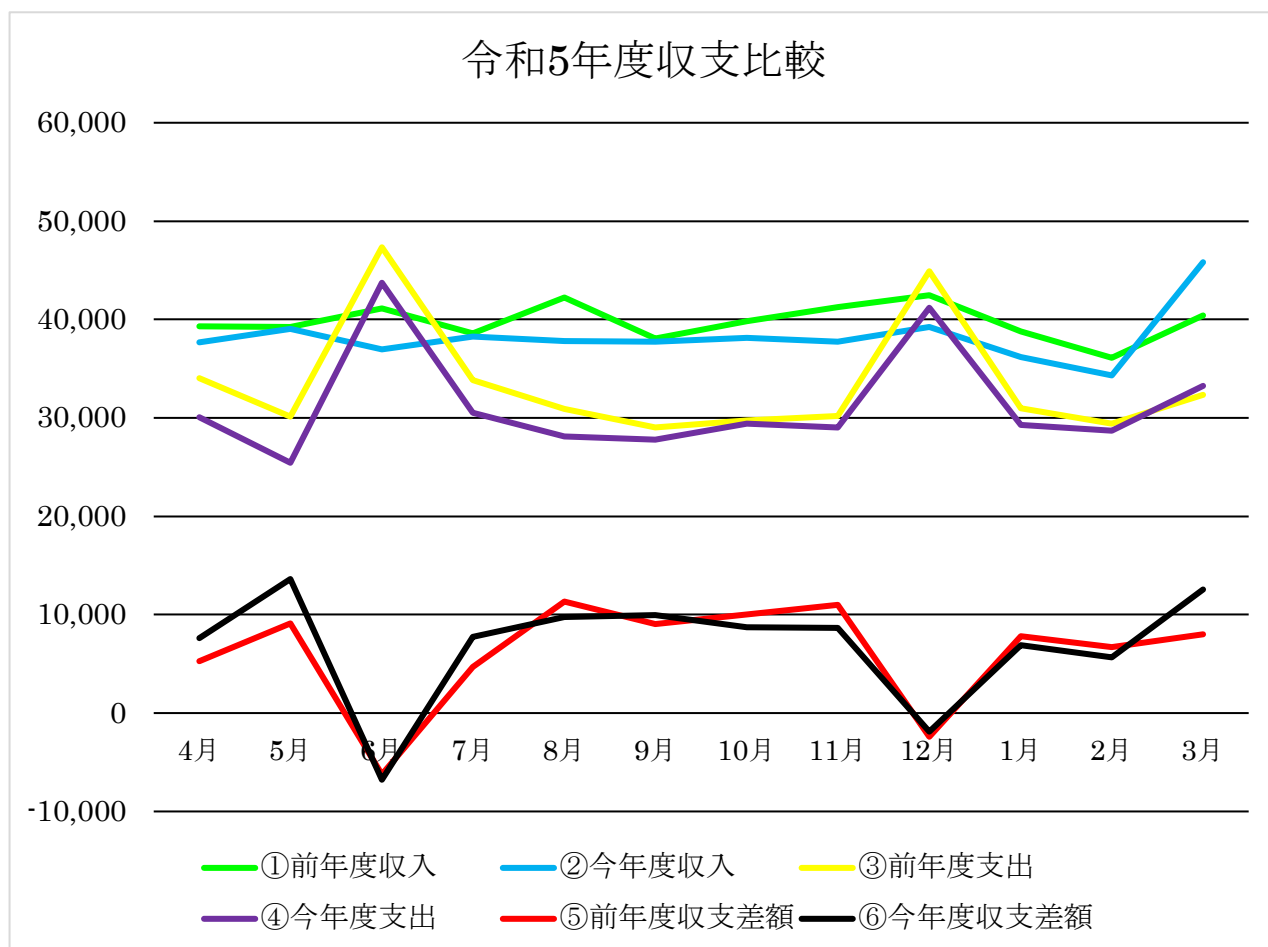
外国人職員の退職が今年度も歯止めがきかず、特定技能生5名の退職があった。また、今年5月より入職している技能実習生6名についても、3年後の特定技能生への移行や介護福祉士受験について明確な返答が得られている者は1名のみである現状がある。その他、EPA介護福祉士や特定技能生についても、時期は未定であるが結婚等含め退職の意向を聞いている職員が数名いる。継続的に働きたいと思える環境整備に努めながら、今後の動向見ていきたい。日本人職員においては、常勤1名、非常勤1名の退職があった。若い職員も多く、結婚・出産等による退職や産休・育休取得も今後も大いに考えられるため、外国人職員の育成は急務である。

収入としては、クラスター発生による影響は少なかったものの、上半期、下半期とも入院者数が多く、昨年度の1.5倍の人数となり、年間平均97.41%と目標を大きく下回った。入院者数のコントロールはなかなか難しい部分はあるが、医務と連携し、状態変化の早期発見、早期入院、早期退院を目指したい。支出としては、人件費の上昇、物価高騰による食材費や光熱費等の上昇はあったが、昨年度比93.44%に抑えることができ、収支差額は前年比110.93%となった。今後の昇給等人件費確保のためにも、適正人員でサービス提供ができるよう、介護技術の向上に向けた研修を実施し、業務の効率化・標準化に努めたい。

1. 年間収支比較

(単位:千円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	合計	比率
①前年度収入	39,304	39,216	41,107	38,564	42,237	38,067	238,495	—
②今年度収入	37,668	39,063	36,959	38,270	37,841	37,762	227,563	95.42%
③前年度支出	34,044	30,104	47,343	33,858	30,905	29,032	205,286	
④今年度支出	30,065	25,441	43,735	30,507	28,105	27,785	185,638	90.43%
⑤前年度収支差額	5,260	9,112	-6,236	4,706	11,332	9,035	33,209	—
⑥今年度収支差額	7,603	13,622	-6,776	7,763	9,736	9,977	41,925	126.25%
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	比率
①前年度収入	39,798	41,228	42,470	38,805	36,110	40,392	477,298	—
②今年度収入	38,121	37,717	39,273	36,202	34,320	45,825	459,021	96.17%
③前年度支出	29,756	30,223	44,895	30,978	29,390	32,375	402,903	—
④今年度支出	29,422	29,042	41,164	29,294	28,674	33,257	376,491	93.44%
⑤前年度収支差額	10,042	11,005	-2,425	7,827	6,720	8,017	74,395	—
⑥今年度収支差額	8,699	8,675	-1,891	6,908	5,646	12,568	82,530	110.93%



2. 利用者数

(単位:人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	合計
令和4年度	2,784	3,039	2,935	3,038	3,036	2,964	17,796
令和5年度	2,954	3,043	2,870	3,002	3,012	2,963	17,844
前年度差	170	4	-65	-36	-24	-1	48
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和4年度	3,077	2,969	3,034	3,028	2,768	3,076	35,748
令和5年度	3,015	2,872	2,953	3,030	2,880	2,063	34,657
前年度差	-62	-97	-81	2	112	-1013	-1091

3. 稼働率

(単位:%)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
R4年度実績	92.80	98.10	97.80	97.00	97.90	98.80	97.07
R5年度実績	98.16	98.16	95.67	96.84	97.16	98.77	97.46
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R4年度実績	99.26	98.97	97.87	97.68	98.86	99.23	97.86
R5年度実績	97.26	95.73	95.26	97.74	99.31	98.81	97.41

4. 入院日数

(単位:日)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	合計
令和4年度	97	92	45	96	63	35	428
令和5年度	39	57	133	113	90	33	465
前年度差	-58	-35	88	17	27	-2	37
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和4年度	6	30	80	55	28	23	650
令和5年度	86	147	146	73	15	43	975
前年度差	80	117	66	18	-13	20	325

5. 特養空床数

(単位:床)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	合計
令和4年度	91	89	40	95	59	32	406
令和5年度	37	53	125	101	86	32	434
前年度差	-54	-36	85	6	27	0	28
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和4年度	6	27	78	54	28	22	621
令和5年度	81	139	138	68	13	41	914
前年度差	75	112	60	14	-15	19	293

6. 事故分類別発生数 (単位:件)

	A	B	C	合計
合計	5	7	140	152

A:入院加療を要する事故 B:受診・通院を要する事故 C:受診・通院を要さない事故

Aランク内容:左大腿骨頸部骨折、左大腿骨転子部骨折、右大腿骨頸部骨折、右大腿骨転子部骨折、胸椎圧迫骨折…各1件

Bランク内容(骨折のみ):腰部圧迫骨折…2件

7. 退所者数

(単位:人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	合計
看取り介護		2	1	1	2	3	9
病院	1	1	3	2			7
急死	1					1	2
その他							0
合計	2	3	4	3	2	4	18
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
看取り介護	2	4	2	2	2	0	21
病院		1	3	1			12
急死							2
その他							0
合計	2	5	5	3	2	0	35

サンライフ御立ショートステイ

令和5年度 事業報告書

令和5年度経営スローガンである「足腰頭と心を鍛えていつまでも元気に楽しく過ごす」を基盤とし、期間にかかわらずご利用される方全員が機能維持をしながら楽しく過ごすことができ「また利用したい」と思っていたいただけるようなサービスを目指して取り組んだ。

1. 利用者様の健康維持と安心できる環境

- YouTubeを使用した体操は午前中に実施することが定着している。流すだけになっていたり時間を区切らずいつまでも流していたりすることも目立ったため、興味のあるものを新規開拓するなどの工夫がさらに必要である。おやつレクなど月に一度の大きなレクリエーションは毎回事故もなく実施できており利用者様からも「楽しかったよ」と言葉を多く頂けた。長期利用の方にはその際に撮った写真を手紙にして毎月送付し喜んでいただいている。
- 忘れものや、ケアの抜けがあり、どのように徹底するか模索している。1年で数名のスタッフの入れ替わりがあり、誰もが間違いや抜けなく実施できる仕組み作り、情報共有の為にコミュニケーションがうまく出来ていない。
- 業務の遂行に手いっぱい余裕がなく、新規利用の方によりそうこともなかなかできていなかった。今後は各々に対策を打つというよりも、職員全員がコミュニケーションをとり、チーム力をつけることに取り組み、すべきことが円滑に回るようにしていくことが最優先事項である。

2. 継続した感染症対策

換気、手洗い消毒など基本の徹底、送迎時の検温と体調確認を継続しておこなった。体調不良により途中退所して頂く、状況を伺ってキャンセルをして頂くことはあったがフロア内でコロナ感染が拡がることはなかった。

3. 事故防止の取り組みを継続していく

8月に1か月で18件という多量の事故が発生してしまった。移動が自立している方の転倒が目立ったが、自立の方の離設事故もあり無事に帰宅されていて事なきを得た。どんな方が利用しているかで多少は事故件数は変わってくるが、あまりにも多い数であった。これ以降も、対策のし難い同じ方の転倒が続くなど年間では昨年よりも14件多い78件（うち入院加療を要するAの事故2件）となった。ヒヤリハットの記入やポスターによる注意喚起など意識を高め、防止できる事故はなかったか振り返りをおこない、対策の実施についても周知徹底し抜けのないように、事故数減を目指して全員で取り組んでいく。

4. 生産性向上・業務の標準化への取組み

昨年度から開始した OJT 活動の一環として今期は現場職員を中心メンバーとし、5S 活動、業務完全活動に取り組んだ。メンバーの働きかけにより各職員に整理整頓の意識の高まり、環境整備への取り組みが見られた。オムツの在庫管理についても、少ない数で出来るという意識が徐々に定着しているためさらに無駄を省けるよう継続して取り組んでいきたい。

7. 収入の確保について

収入に関しては昨年度を上回ったものの、経年劣化による修理等やで支出増があり全体としては昨年より 10%減となった。12 月より、居室かぶりの是正をおこない定員超過とならないように調整をおこなったため、稼働率は例年よりも下回った。今後も入院ベッドが出ている時にタイミング良く利用が叶った場合以外は稼働率は常に 90%程度になると思われる。来年度介護報酬のアップやサービス提供強化加算の算定などがあっても全体を通して収入減となることを見込まれる。短期利用者のリピーター確保に力を入れること、これまで以上にロングから特養入所後の空床をできるだけ出さないよう待機者の確保に努め、特養相談員、主任、医務と連携を図っていきたい。

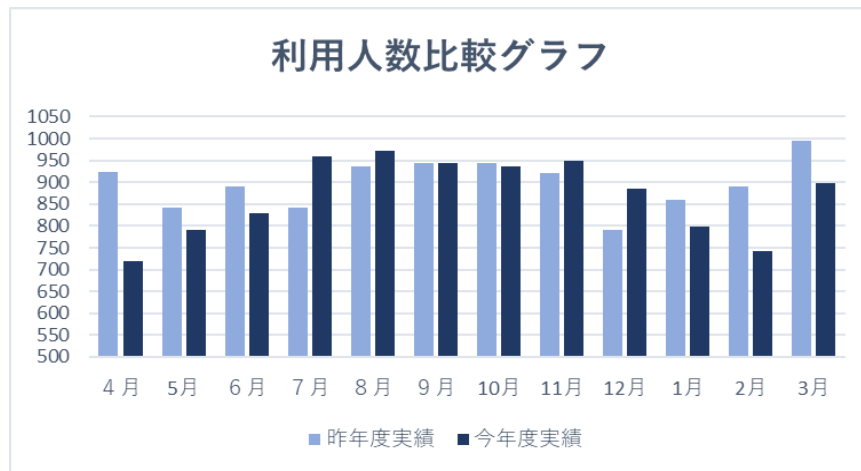
●年度別収支比較

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	合計	比率
①前年度収入	9,998	10,588	9,594	11,932	11,141	10,313	63,566	
②今年度収入	11,502	11,002	10,924	10,294	10,315	12,214	66,251	104.22%
③前年度支出	8,742	7,494	11,688	8,852	8,373	8,146	53,295	
④今年度支出	10,186	7,442	13,801	8,125	9,528	7,730	56,812	106.60%
⑤前年度収支差額	1,256	3,094	▲ 2,094	3,080	2,768	2,167	10,271	
⑥今年度収支差額	1,316	3,560	▲ 2,877	2,169	787	4,484	9,439	92%
	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計	比率
①前年度収入	11,540	10,659	8,883	9,357	9,905	12,018	125,928	
②今年度収入	10,772	10,667	10,122	9,432	8,682	11,014	126,940	100.8%
③前年度支出	8,135	11,300	11,865	7,665	7,817	7,640	107,717	
④今年度支出	8,218	7,239	11,851	7,780	8,285	10,323	110,508	102.6%
⑤前年度収支差額	3,405	▲ 641	▲ 2,982	1,692	2,088	4,378	18,211	
⑥今年度収支差額	2,554	3,428	▲ 1,729	1,652	397	691	16,432	90%

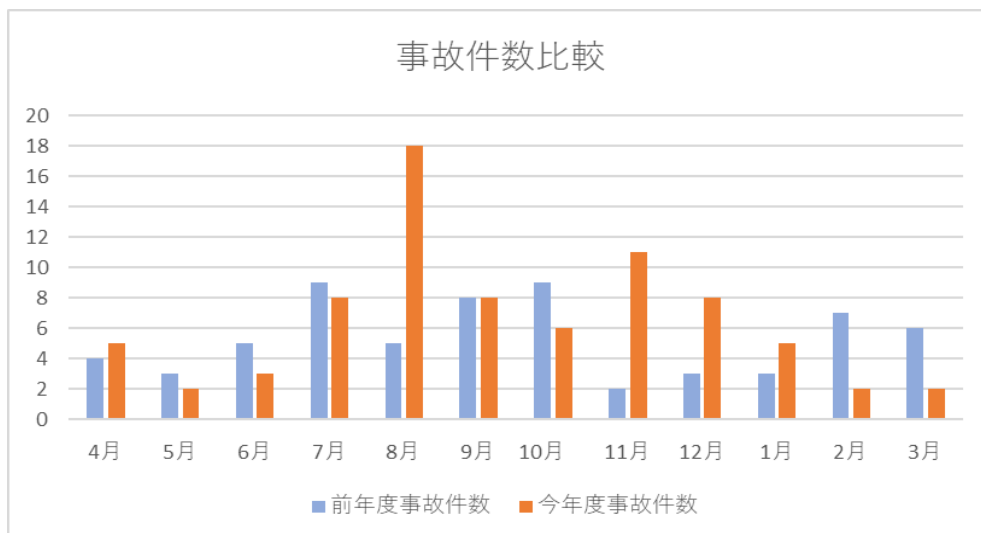
利用人数比較

単位：人

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
昨年度実績	924	842	890	841	937	943	5,377
今年度実績	719	791	828	960	972	944	5,214
人数比較	-205	-51	-62	119	35	1	-163
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
昨年度実績	945	921	790	859	891	994	10,777
今年度実績	936	949	884	799	742	899	10,423
人数比較	▲ 9	28	94	▲ 60	▲ 149	-95	▲ 354



年度別事故件数比較							
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
前年度事故件数	4	3	5	9	5	8	34
今年度事故件数	5	2	3	8	18	8	44
前年度比較	1	▲ 1	▲ 2	▲ 1	13	0	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
前年度事故件数	9	2	3	3	7	6	64
今年度事故件数	6	11	8	5	2	2	78
前年度比較	▲ 3	9	5	2	▲ 5	▲ 4	14



特別養護老人ホームサンライフ御立（医務）

令和5年度 事業報告

今年度の経営スローガン「足腰頭と心を鍛えて、いつまでも元気に楽しく過ごす」に沿って、ベッド稼働率の安定に向けて残存機能の維持・向上を図り、健康寿命を延伸していくことを目標に、各種健康診断やワクチン接種の準備・実施に勤しみ、早期発見・受診に取り組んだ。結果的に、受診件数や入院件数は昨年より増加することになったが、早期受診の甲斐あってか、1人あたりの入院日数は減少した。また、状態変化が激しい利用者については、看取り介護を積極的に推奨していった結果、新規看取り者も昨年に比べ大幅に増加し、ベッド稼働の維持に寄与することができた。

1. 各委員会活動

I. 褥瘡

今年度の褥瘡対象者件数として、年間発生件数が29件、月平均2.4人であった。詳細としては、5月～9月の初夏から夏季にかけて褥瘡発生件数が増加する傾向にあった。件数のピークは8～9月頃で褥瘡対象者が4件/月に、そこから冬季にかけては1～2件/月と減少した。前年度の年間・月間件数で比較すると、R4年度は月平均2.6人であったのに対して、今年度は月平均2.4人と減少した。

毎年夏季は、汗による皮膚の湿潤で褥瘡発生に繋がりがやすいため、来年度以降も褥瘡発生に注意しながら、多職種で連携を取りながら褥瘡発生予防に取り組む必要がある。

今年度よりパットの種類が変更され、パット交換の回数が減少となった。陰部清潔保持の観点からすると改悪方向となり、事実変更後では、例年に比べ発赤や剥離件数が増加している印象がある。次年度以降、介護職員とも話し合いながら皮膚トラブルの予防・改善に努めていきたい。

II. 感染症

コロナ禍となって以降、継続的に感染予防策を講じているが、8/23に4階利用者にコロナウイルス陽性者が発覚した。利用者のADLや認知機能低下を防止するべく、必要以上の隔離対応は行わなかったが、結果的に感染者は2名、症状が悪化することなく17日間で終息することができた。事後の職員アンケート結果でも、ポジティブな言葉が多く見られ、徐々に対策方法が浸透してきている印象を受けた。

また、1/15より新型コロナウイルス陽性者3名・濃厚接触者19名が確認された際には、隔離期間と検査キットの使用方法を再考しマニュアルを変更した。隔離期間については、陽性者の10日間隔離に準じて、発熱者も10日間の隔離。但し症状消失後では、消失した日を0日として、5日目までに症状の再燃が無ければ6日目以降は隔離解除と

した。

嘱託医と相談していく中で、ラゲブリオやゾコーバなどのコロナウイルス治療薬は、副作用のデメリットも大きいため、解熱剤や感冒薬等を使用し対症療法を行った。このことから、コロナの陽性・陰性スクリーニングをするメリットが薄れ、またコストカットの側面からも、検査キットは陽性者発生以降では基本的に使用しない方向とした。

これら対応を変更した結果、施設内感染は 14 日程度で終息し、これまでと大きな差はなかった。

III. 看取り

上半期間にて、新規看取り同意者は 26 名（昨年 15 名）、看取りケア実施者は 21 名（昨年 14 名）とそれぞれ大幅に増加した。新規ロングショートを受け入れの際、介護度や医療介入度の高い利用者では、特養入所と同時に看取り介護開始の提案を行うよう努めた。次年度以降では、より一層家族理解を促すためにパンフレット等の資料作成を検討している。

今年度より、死亡診断時担当医への連絡先が時間帯によって変更となったため、各班に改定した看取り手順マニュアルを配布した。

2. ベッド稼働率の維持（経営力強化）について

今年度上半期の平均ベッド稼働率は 97.41%、入院件数は 37 件、入院延べ日数は 975 日であった。入院日数は平均 26.3 日/人（昨年度 29.6 日/人）と昨年より減少しているが、厚生病院に限定して算出すると 38.4 日/人だった。下半期以降は、コスモクリニックとも相談し、紹介・受診先の再選考を行った。年間の受診件数は 263 件だった。

入院内容については、肺炎関係 15 名、骨折関係 5 名が目立つ形となった。誤嚥性肺炎や骨折、脳卒中関係では、同じ利用者が同様の理由で複数回入院している傾向にある。例年誤嚥性肺炎や転倒・骨折のリスク軽減に向けて努めているが、不可逆的な持病や認知症、麻痺等により、限界があるように感じている。そのため、発症の際の受診先の選定や早期看取り同意を進めることも並行して尽力していきたい。

大西メディカルクリニック協力の下、利用者の健康診断を 8/17、8/24 に実施した。診断結果を大西 Dr と確認し、内服薬の調整や受診の相談をするなど、潜在的な疾患に対して早期対応を心掛けた。

ワクチン接種については、5/10、5/24 に職員・利用者の通算 6 回目のコロナワクチン接種を 10/18、10/25 に 7 回目を敢行した。ワクチン接種後に発熱や疼痛などの副反応を来す職員も多く、予防策として施設購入分のカロナールを配布した。また、11/15、11/22 にはインフルエンザの予防接種を行った。

3. 職員の健康増進

事務所協働にて各オプション健診を呼びかけた結果、婦人科オプションは 16 名（昨年 9 名）、人間ドックは 22 名（昨年 14 名）の希望があった。これらより、職員の健康意識については向上が見られていると考えられる。

今年度も医師会協力下で職員の健康診断の調整を行い、11/13 に実施した。要精査、要受診と診断あった職員に対しては、受診を勧めている。今年度では、各オプション健診希望者の増加や人件費削減による職員数減少に伴い、御立での一斉健診者数が無料圏外の危険性があったため、次年度では、出張費用（100 名未満で 50,000 円追加）の削減のためにも関係部署の拡大を予定している。

特別養護老人ホームサンライフ御立(厨房)

令和5年度 事業報告書

1. 人材の定着・育成

今年度は2名の入職があり、職員全体の残業時間は減少しつつある。また、マニュアル作成にも力を入れたことで、引継ぎ等にかかる時間は減少し、正確な引き継ぎが可能になった。誤配膳やショートの入退所の間違いも改善された。しかし、食器やトレーの汚れ等を指摘されることがあったため、定期的に食器は漂白し、綺麗な状態を保てるようにしたい。

2. 献立の充実

現在も既製品等を取り入れてはいるが、人員不足がやや解消されたことで、カレーを月に1度実施したり、リクエスト献立も少しずつ可能になった。焼きそばやうどんなどの麺類も今後取り入れていくようにシフトを作る段階で、計画していきたい。

3. 衛生管理

今年度は、食中毒や異物の混入などの報告はなかった。今後も職員1人1人が意識し、防いでいきたい。食器等を新しくしたことで、破損している食器での提供の報告はなかった。

4. 栄養マネジメント

人員不足のため、厨房の業務に手いっぱいになっており、ミールラウンドや会議への参加が出来ない状況が続いている。少しでも早く人材を確保し、ミールラウンドを行える時間を十分に確保し、利用者により満足していただける食事の提供に努めていく。

デイサービスセンター サンライフ御立

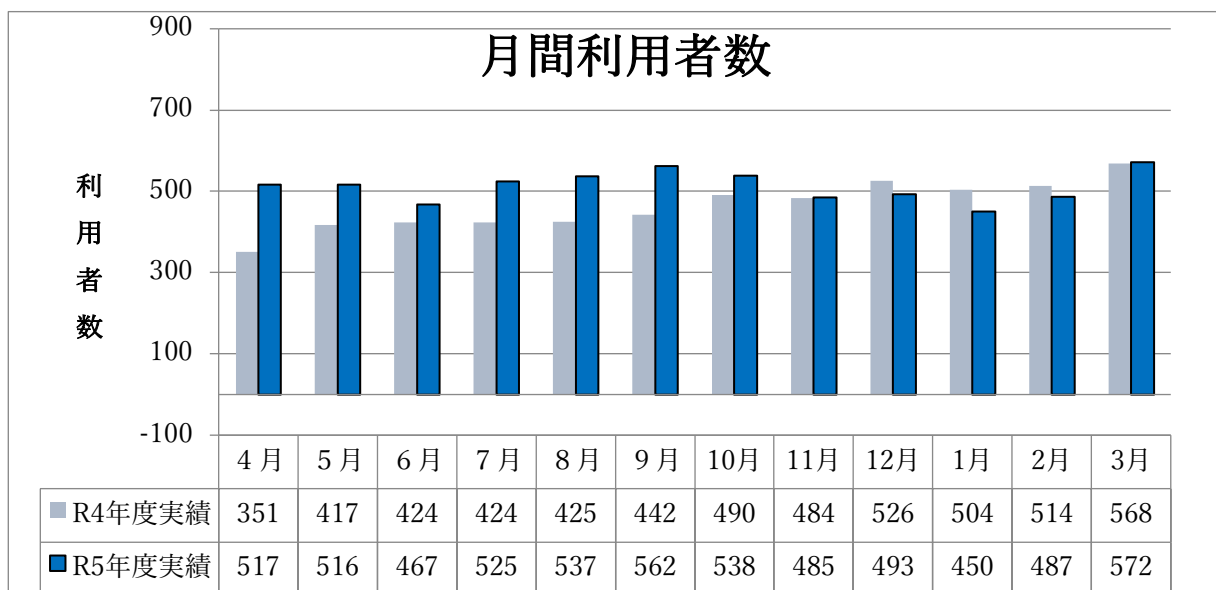
令和5年度 事業報告書

令和5年度上半期は、理学療法士を新たに採用したことで、機能訓練に力を入れることが出来た。理学療法士が在籍する事でリハビリを希望される方も多く、新規利用者の獲得や個別機能訓練加算の算定につながり収入の増加につながった。同時に新規利用者の定着もあり黒字へつなげることができた。

営業活動に力をいれながら、事業所のウリを前面にだしたアピール方法を新たに考え、新規利用者の確保や定着に繋げていきたい。利用者の方との関わる時間を増やし喜んでいただけるようなサービスを引き続き提供していきたい。

施設内研修にも力を入れ、職員の質や介護技術の向上を目指し安定したサービスを提供しデイサービスの質の向上に努めていきたい。

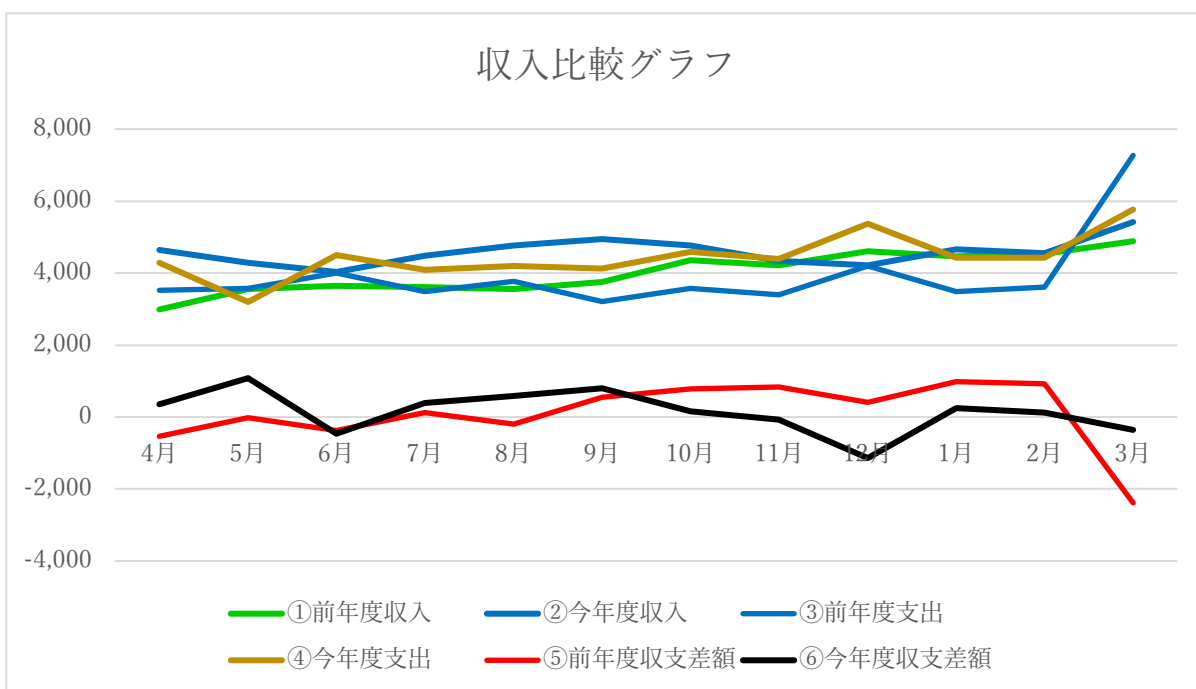
1. 利用者数



2. 年間収支比較

(千円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計	比率
①前年度収入	2,988	3,564	3,639	3,603	3,559	3,753	21,106	-
②今年度収入	4,643	4,279	4,032	4,481	4,770	4,937	27,142	128%
③前年度支出	3,528	3,580	4,010	3,484	3,763	3,209	21,574	-
④今年度支出	4,281	3,197	4,498	4,096	4,191	4,129	24,892	115%
⑤前年度収支差額	-540	-16	-371	119	-204	544	-468	-
⑥今年度収支差額	362	1,082	-966	385	579	808	2,250	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	比率
①前年度収入	4,366	4,224	4,604	4,472	4,537	4,886	48,195	-
②今年度収入	4,759	4,334	4,224	4,660	4,550	5,419	55,088	114%
③前年度支出	3,576	3,391	4,191	3,488	3,616	7,269	47,105	-
④今年度支出	4,594	4,402	5,364	4,420	4,420	5,767	53,859	114%
⑤前年度収支差額	790	833	413	984	921	-2,383	1,090	-
⑥今年度収支差額	165	-68	-1140	240	130	-348	1,229	



3. 介護度別平均年齢及び利用者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均 (合計)
事業 対象者	94.17 (1)	94.25 (1)	94.33 (1)	94.42 (1)	94.50 (1)								94.33 (5)
要支援 1	87.54 (2)	84.22 (3)	84.31 (3)	84.39 (3)	84.47 (3)	84.56 (3)	84.58 (2)	84.67 (2)	91.14 (3)	86.33 (4)	84.92 (2)	80.67 (3)	85.15 (33)
要支援 2	86.71 (10)	86.79 (10)	86.94 (8)	86.78 (12)	86.64 (11)	88.20 (8)	88.28 (8)	87.69 (8)	87.43 (6)	88.75 (4)	88.83 (4)	88.21 (6)	87.39 (95)
要介護 1	84.97 (15)	85.06 (15)	85.48 (15)	85.52 (14)	85.73 (17)	87.19 (20)	86.75 (19)	87.08 (18)	86.26 (20)	86.40 (22)	85.87 (22)	85.47 (22)	86.04 (219)
要介護 2	85.84 (9)	84.89 (6)	84.97 (6)	83.51 (7)	83.48 (8)	84.58 (10)	84.67 (10)	83.65 (8)	85.02 (7)	83.81 (8)	83.90 (8)	84.28 (8)	84.39 (95)
要介護 3	84.68 (6)	81.70 (5)	82.47 (5)	84.25 (5)	81.99 (7)	82.80 (9)	81.43 (7)	81.51 (7)	81.60 (7)	81.68 (6)	81.85 (7)	81.26 (8)	82.20 (79)
要介護 4	90.73 (4)	89.22 (3)	89.46 (4)	89.54 (4)	89.63 (4)	89.71 (4)	90.35 (4)	90.02 (4)	90.10 (5)	90.18 (5)	87.01 (7)	85.56 (7)	89.00 (55)
要介護 5	69.38 (2)	69.46 (2)	75.83 (1)	69.63 (2)	69.71 (2)	63.50 (1)	63.58 (1)	76.25 (2)	63.75 (1)	63.83 (1)	63.92 (1)	64.00 (1)	68.66 (17)
合計	85.58 (49)	84.78 (45)	85.60 (43)	85.20 (48)	84.87 (53)	85.75 (55)	85.59 (51)	85.52 (49)	85.79 (49)	85.53 (50)	84.93 (51)	84.34 (55)	85.28 (598)

上段の数字は平均年齢、()内の数字は実利用者人数を示しています。

4. 職員充足度(令和6年3月現在)

(職員15名) 正職員3名(内理学療法士1名) 非常勤看護師2名 非常勤介護職員10名(内入浴介助職員4名)

個別機能指導員を
含まない

	営業 日数	利用者/月	職員総時間数/月	利用者/日	職員 /日	職員 一人対	職員/日	職員一人対
4月	25	517	1,535	20.7	9.1	2.3	8.6	2.4
5月	27	516	1,613	19.1	9.6	2.0	8.8	2.2
6月	26	467	1,689	18.0	10.1	1.8	8.8	2.0
7月	27	525	1,674	20.2	10.0	2.0	8.6	2.4
8月	26	537	1,716	19.9	10.2	1.9	9.1	2.2
9月	26	562	1,556	21.6	9.3	2.3	7.7	2.8
10月	26	538	1,794	20.7	10.7	1.9	9.2	2.3
11月	26	485	1,603	18.7	9.5	2.0	7.9	2.4
12月	26	493	1,656	19.0	9.9	1.9	8.5	2.2
1月	25	450	1,599	18.0	9.5	1.9	8.1	2.2
2月	25	487	1,502	19.5	8.9	2.2	7.5	2.6
3月	25	572	1,579	22.9	9.4	2.4	7.9	2.9

ケアハウスサンライフ御立

令和5年度 事業報告書

今年度のスローガンとして「足腰頭と心を鍛えて、いつまでも元気に楽しく過ごす」を掲げスタートした。いつまでも元気に活力ある毎日を送る為のサポートをどうすればいいのか？を考える一年だった。

1. 人生100年時代をどう生きるか

100年時代をどうやって豊かに生きていくのか。健康上の問題に制限されることなく日常生活を送れる「健康寿命」の延伸が、大きなポイントである。加えて、「寿命の質」も大切な事柄となる。医療分野が発達したことによって世界的に寿命が伸びている中、単純に生命を維持させるのではなく、健康で自立した時間を伸ばそうという考えはとても大切だ。

超高齢社会に突入した我が国は、医療・介護保険料が問題になっている。健康寿命の延伸に取り組むことで高齢者一人ひとりが介護・医療サービスを使う機会が減り、日本全体の保険料問題の解決にもつながる。

又、入居者間のADLの格差が来期も問題になると思う。将来の自分自身の姿かもしれない・・・とは、決して考えない。自分とは違うみたいな意識、偏見・・・そこに共存という言葉は生まれえないのか。意識改革を推し進めたい。

ケアハウスにおいてのコロナ罹患状況は、8月入居者1名が入院中にコロナ陽性と判明。1月職員1名と入院中の入居者1名及び3日後に同室の入居者1名がコロナ陽性と判明。2月入居者1名が罹患した。何れも重症化は免れ、回復することができた。

2. 各種行事・クラブ活動

実施項目一覧

健康チェック	月1回実施 チェック後、コーヒーサービス
バスハイク、外食の日	4/2,4 お花見 11/10,24 紅葉狩り(バスハイク)
誕生日会(年4回)	4,7,10,1月に実施 3年ぶり食堂で実施 但し、ビンゴでなくクジ引
ふれあい喫茶	誕生日会のない月8回/年 実施(30分間の時間制限)
いきいき百歳体操	6月～ 再開
ラジオ体操	週4回実施 (但し、1/24～2/4, 3/19～25は中止)
新規 カラオケ教室	1月～ 月1回実施
新規 体操教室	未実施
フレイルチェック	11月「健康イベント」で、ぼうしや薬局主催で実施
学習療法	持ち帰りの形で継続(週1回)
手作り教室	12月クリスマスの飾り、3月ぜんざい作り(兼 ふれあい喫茶)

入居者1人ひとりが、今現在の身体状況を把握してもらう為「骨密度測定」「フレイルチェック」の実施。「口腔内チェック」は未実施。

3. 入居者状況

入居者の年齢は、90才以上が11名、全体の30.6%を占める。又、介護保険非認定者が全体の30.6%で、介護が必要・不必要の格差が大きくなった。生活する上で家族様等、訪問介護、訪問看護のサポートが必要となり入室制限の中、許可を得て継続実施となった。

介護認定状況 (R6. 3. 31 現在)

単位：人

	非認定	支援1	支援2	介護1	介護2以上	合計
5階	5	1	3	7	1	17
6階	6	5	3	4	1	19
合計	11	6	6	11	2	36

サービス利用状況 (R6. 3. 31 現在)

単位：人

	ヘルパー	訪問看護	デイサービス	訪問リハビリ	福祉用具貸与
5階	9	1	10	0	6
6階	5	0	4	0	5
合計	14	1	14	0	11

入居者年齢・性別状況 (R6. 3. 31 現在)

単位：人

	～69才	～74才	～79才	～89才	～99才	合計	平均年齢
男性	2	1	2	5	1	11	80.4才
女性	1	3	2	9	10	25	85.9才
合計	3	4	4	14	11	36	84.2才

最高年齢：99才(女性)

最低年齢：66才(男性)

4. 空室ゼロの対策

この一年間で新規入居者は6名、退去者は6名だった。満室となったのは、11月のみだった。入居者累計実績数は、前年度12,114名、今年度12,255名で141名の増加となった。

コロナ感染予防の為、見学者の対応は1階ホールのみの実施となった。入居に関する問合せ及び見学は順調だったが、入居に至らないケースもあった。

如何に退去からその後の入居を短期間でやり遂げるかがポイントだったが、やはり退去者の荷物の搬出、リフォームに時間を要した。

年間収支比較

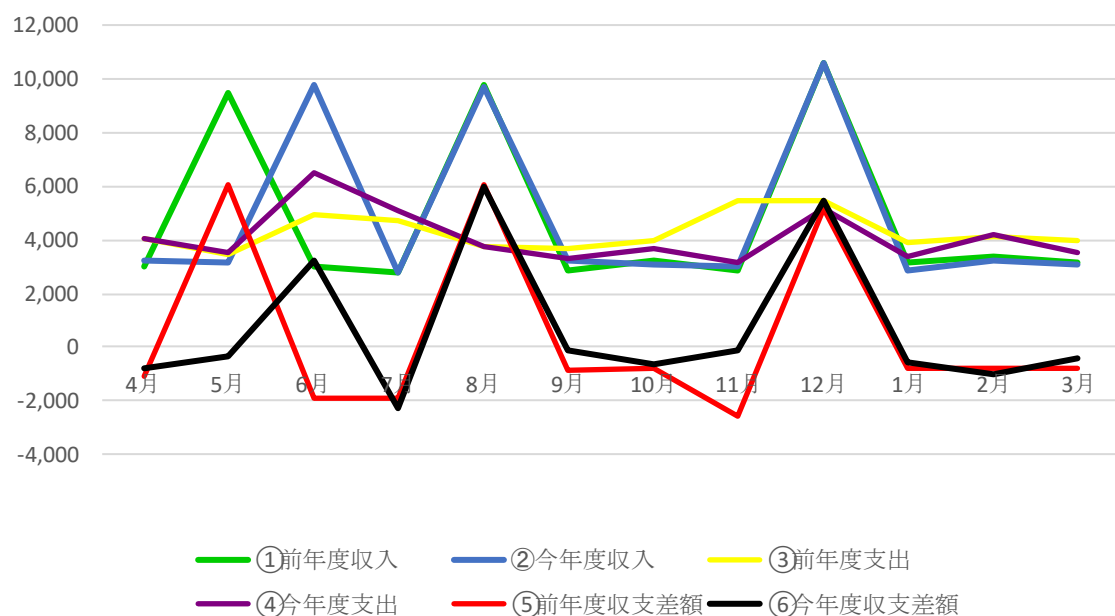
(千円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計	比率
① 前年度収入	3,009	9,465	3,029	2,814	9,826	2,839	30,982	—
② 今年度収入	3,248	3,174	9,775	2,804	9,745	3,262	32,008	103.2
③ 前年度支出	4,078	3,422	4,950	4,713	3,753	3,672	24,588	—
④ 今年度支出	4,049	3,551	6,536	5,118	3,775	3,330	26,359	107.2
⑤前年度収支差額	-1,069	6,043	-1,921	-1,899	6,073	-833	6,394	—
⑥今年度収支差額	-801	-377	3,239	-2,314	5,970	-88	5,649	88.3

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	比率
① 前年度収入	3,227	2,887	10,622	3,145	3,347	3,184	57,394	—
② 今年度収入	3,051	3,031	10,603	2,885	3,211	3,121	57,910	100.8
③ 前年度支出	3,993	5,460	5,461	3,935	4,142	3,957	51,536	—
④ 今年度支出	3,664	3,181	5,168	3,419	4,212	3,525	49,528	96.1
⑤前年度収支差額	-766	-2,573	5,161	-790	-795	-773	5,858	—
⑥今年度収支差額	-613	-150	5,435	-534	-1,001	-404	8,382	143.0

(千円)

収支比較グラフ



ユニット老人ホームサンライフひろみね

令和5年度 事業報告書

今年度ささゆり会経営スローガンである事業計画の目標「足腰と心を鍛えて、いつまでも元気に楽しく過ごす」を基に介護の原点に立ち返り ADL の維持又は向上を念頭におき取り組んでいる。新型コロナウイルスには引き続き最大限の注意を払い持ち込まないことと早期対応・対策を心掛け安心して過ごせる場の提供に努めた。

1. 科学的介護の実践について

科学的根拠に基づきながら質の向上に努める。

I. ささゆり会で取り組んでいる日中おむつ外しを継続して取り組んだ。しかし、下半期は職員の介護負担軽減及びパッド類の納入業者の変更より、効果的な排泄介助へ見直しを行った。また、個別機能訓練も全員見直し、個々の有存機能が維持できるようにすると共に食事に関しては自助具などを検討し自力摂取が少しでもできるようにし、食事介助時間の減少にも努めると共に、入居者様の個別のリハビリを見直し、個別リハビリの強化・徹底に取り組み次年度は ADL 維持加算が算定できるようになった。

II. 管理栄養士の配置によりミールラウンドや栄養マネジメント加算の算定し、常食率や個々に合わせた食形態の見直し、また自助具を購入することで入居者様の食べる能力の維持・向上ができた。

III. OJT 研修では「食事準備・食事介助時間の減少」に取り組み現状値 1 ユニット夕食が 135 分を要していたが目標 90 分に対し 72 分を実現。また、「入居者様に合わせた排泄介助の確立」では 1 日 153 回の排泄介助目標値 128 回に対し 128 回を実現し、生産性の向上及び職員の負担軽減・経費削減が行えた。

2. 看取り介護について

ひろみねに入居できて良かったと思って頂けるように質の高い看取り介護を目指し、施設内研修を実施し、日頃から入居者様・家族様との面談や情報を共有することで信頼関係の構築と家族様との協働での介護を目指し、令和5年度は 2 名中 2 名の方の看取りが行えた。

3. 職員の労働環境の整備

慢性的な人員不足の介護業界において、サンライフひろみねでは平均すると 1.29 : 1 と高い配置でサービスを提供してきたが、全国平均に向けて ICT・介護機器の導入や QC サークル活動を通し、3 月末時点で全国平均 1.55 : 1 に対しひろみねでは 1.58 : 1 を実施できた。

また、ガス乾燥機の導入、シーツ交換でも BOX シーツへの変更など職員の負担軽減に取り組めた。

I. 連続リフレッシュ休暇もしくは定期的に有休が取得出来るように希望を聞きとり、常勤は

年間 122 回、一人平均 12.2 回。非常勤職員年間 186 回、一人平均 12.4 回を取得している状況だが職員間のバラつきが生じた。

- II.働きがいのある職場づくりのため、ワーク・ライフ・バランスに配慮できるよう。過重労働による健康障害を防止するため、残業時間も少なく対応ができた。只、全国配置基準での業務には慣れていないことにより、職員からの不満も多く出ている為、都度の業務改善をおこなった。
- III.労災事故のゼロを目指す為、腰痛ベルトの支給や体調不良時は休むように随時職員に伝えてコロナ等の入居者への感染もなかった。労働災害は0件となっているものの、1月には入居者様5名への虐待事案が発生し、姫路市監査指導課及び姫路警察署への届出を行うと共に、再発防止の為、①虐待予防の指針・虐待予防マニュアルの見直し。②虐待予防研修の実施。③職員のアンケートの実施。④定期的なカメラチェックを行い継続している。

4. 職員教育・組織体制作りについて

「全スタッフが考える機会を持ち利用者本位の介護を実施し、業務効率を上げていくために」5S活動及びOJTソリューションズを講師に招き、改善方法を学んだ。また、技能実習生・特定技能生については、すぐに課題などを出さなくなる傾向がある為、定期的に指導が必要な状況は継続している。介護福祉士取得に向けサポートする職員は退職の為、サポートは実施していない。

- I.外部研修（オンライン研修含む）への参加機会を増やし介護技術の向上及び職員の意識向上や施設サービスの活性化を図った。
- II.介護福祉士受験対象者1名が今年度末付近に退職予定の為、学習進捗状況の確認や勉強会への参加などは特に実施しなかった。
- III.新入職員は認知症基礎研修の受講は3名全員が受講できた。。
- IV.（特定）技能実習生の日本語学習の進捗状況を確認し相談員を中心に相談などを行いN2合格は3名中1名となった。

5. 地域貢献について

今年度より2ヶ月に1度の運営推進会議を再開し、自治会長・民生委員・地域包括センター職員・家族代表・施設職員での交流の中、施設情報の公開や、地域状況の確認・交流を行っている。また姫路市医師会看護専門学校の看護実習をPCR検査等でコロナに注意しながら6名受け入れることで地域医療の発展や人材育成に貢献出来ている。

6. BCP策定について

コロナBCP及び災害対策BCPを作成した。また、コロナBCP訓練については令和5年7月30日から8月6日を通し実施したが、ゾーニング・外国人の徹底が出来ない問題が出た為、ガウンテクニック等の研修を実施した、その後テストを実施したが合格が出来ていない者もいる。また、12月16日には災害BCPを職員に周知し実施した。

7. 事業運営について

- I. コロナ BCP 策定やコロナ対策訓練を実施してきたが、感染対策は充分には行き届いていない。体調不良者は無理せず休んで貰うようにし、また、感染症対策を引き続き徹底して行い、施設内感染を防ぐと共に面会制限を長期間行っている為、緩和し相談室での15分間の面会を開始。看取りの方については居室内でも実施を開始した。
- II. 入居希望者が少ない為、定期的に待機者への連絡を確認し、待機者が常時10名以上を確保できており、退所後もすぐに次の入居者が入居できる体制を築き稼働率年間平均98.9%確保できた。また、看護体制Ⅱ・栄養マネジメント加算取得ができた。
- III. 介護ロボ・カメラの有効活用で夜勤3名体制から2名体制を目指し人件費の抑制に努めたが、姫路市より2人体制の場合は2ユニットの介護をする職員と1ユニットを介護する職員体制でないと許可できないとのことで、介護負担のばらつきが大きい為、現在も3名体制で実施している。目標の全国人員配置での業務は出来ているものの、来年の法改正を踏まえ日勤帯と夜勤帯での業務負荷の差が大きい為、夜勤帯での虐待事案も発生した為、夜勤帯2人体制の検討も難しく感じている。また、エアコンなどの故障も多くなっている為、来年度の大規模改修の補助金申請を行った。
- IV. 個人情報保護に留意しながらインスタグラムの活用が上半期はできなかったが、下半期はインスタグラムでの施設の情報発信を再開出来ている。

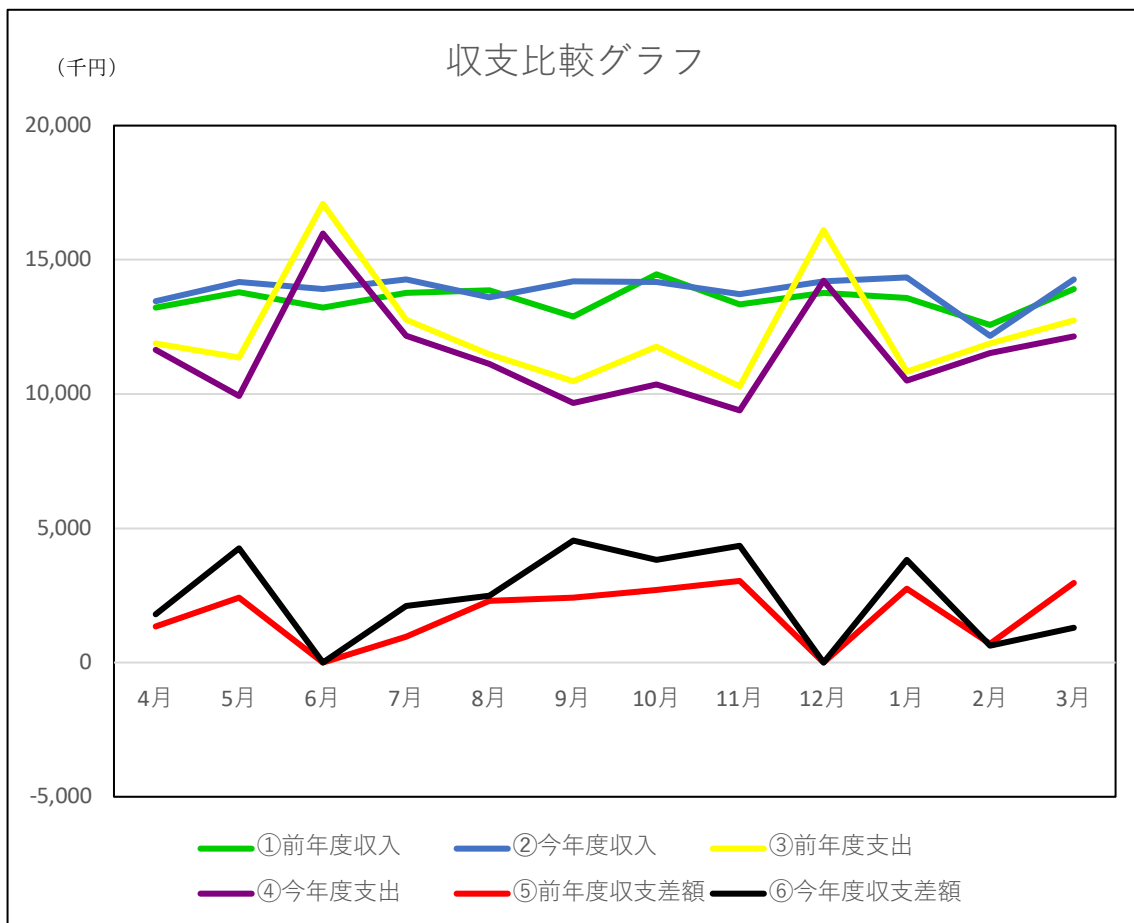
年間収入目標

(単位：千円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計	比率
① 前年度収入	13,230	13,788	13,226	13,760	13,874	12,894	80,628	—
② 今年度収入	13,464	14,173	13,919	14,279	13,597	14,208	83,640	103.7
③ 前年度支出	11,885	11,368	17,087	12,763	11,470	10,487	75,060	—
④ 今年度支出	11,656	9,929	15,981	12,180	11,114	9,665	70,525	94.0
⑤ 前年度収支差額	1,345	2,420	▲3,861	967	2,290	2,407	5,568	—
⑥ 今年度収支差額	1,808	4,244	▲2,062	2,099	2,483	4,543	13,115	235.5
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	比率
① 前年度収入	14,461	13,330	13,775	13,577	12,574	13,904	162,249	—
② 今年度収入	14,183	13,732	14,201	14,345	12,167	14,276	166,544	102.6
③ 前年度支出	11,759	10,290	16,115	10,829	11,878	12,751	148,682	—
④ 今年度支出	10,370	9,392	14,212	10,509	11,529	12,159	138,696	93.3
⑤ 前年度収支差額	2,702	3,040	▲2,340	2,748	696	1,153	13,567	—
⑥ 今年度収支差額	3,813	4,340	▲11	3,836	638	2,117	27,848	205.3

※前年度・今年度支出カメラ等工事費用含まず。

※前年度・今年度収入カメラ等補助金含まず。



令和5年度介護状況目標

項目		令和5年9月末状況	令和6年3月末目標
日中オムツ使用率		3名(10%)	2名(7%)
入浴統計	特浴	2名(7%)	2名(7%)
	リフト付個浴	27名(93%)	27名(93%)
	個浴	0名(0%)	0名(0%)
食事形態	普通食	23名(79%)	15名(54%)
	刻み食	0名(0%)	5名(18%)
	極刻み食	0名(0%)	4名(14%)
	ミキサー食	6名(21%)	4名(14%)
	経管栄養	0名	0名
褥瘡者		0名	1名(3%)
身体拘束		0名	0名
看取り介護実施 ※		1名(100%)	1名(100%)

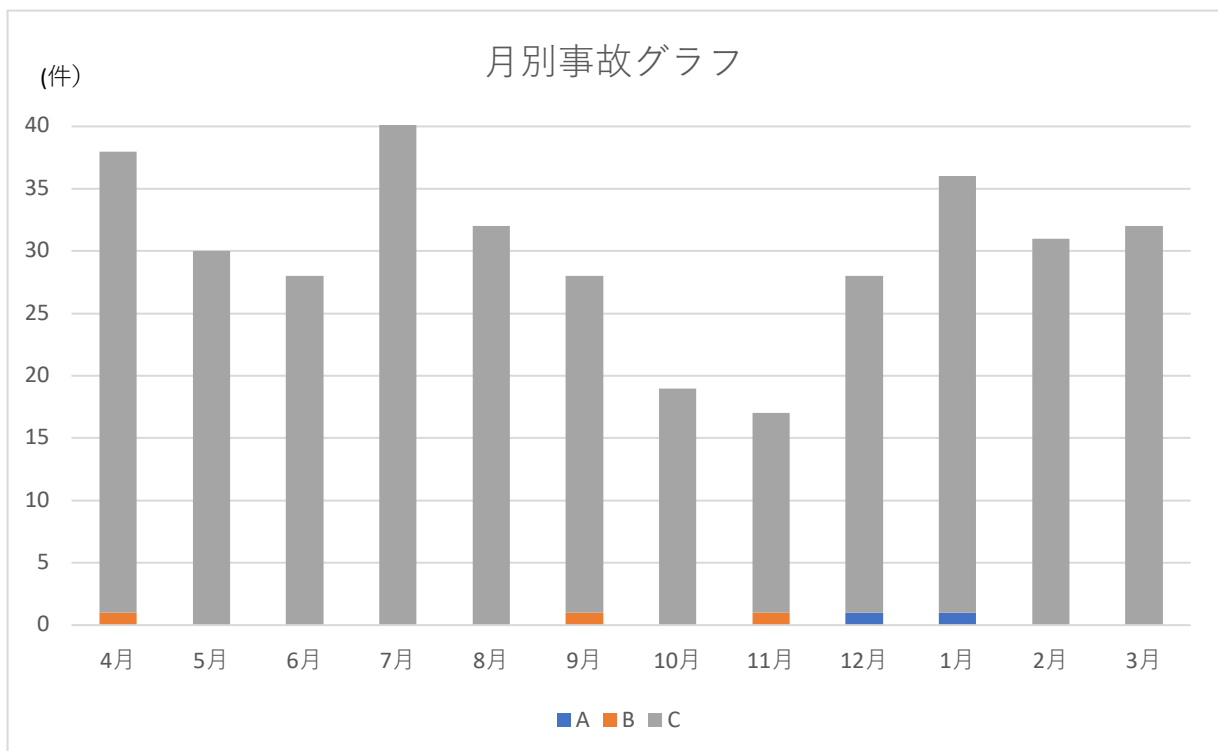
※看取り介護実施率=看取り介護実施者/全退所者(急死を除く)

事故件数

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	合計 (件)
A	0	0	0	0	0	0	0
B	1	0	0	0	0	1	2
C	37	30	28	42	32	27	196
月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計 (件)
A	0	0	1	1	0	0	2
B	0	1	0	0	0	0	3
C	19	16	27	35	31	32	356

A : 入院・加療を要する事故 B : 受診・通院を要する事故 C : 受診・通院を要しない事故

月別事故グラフ



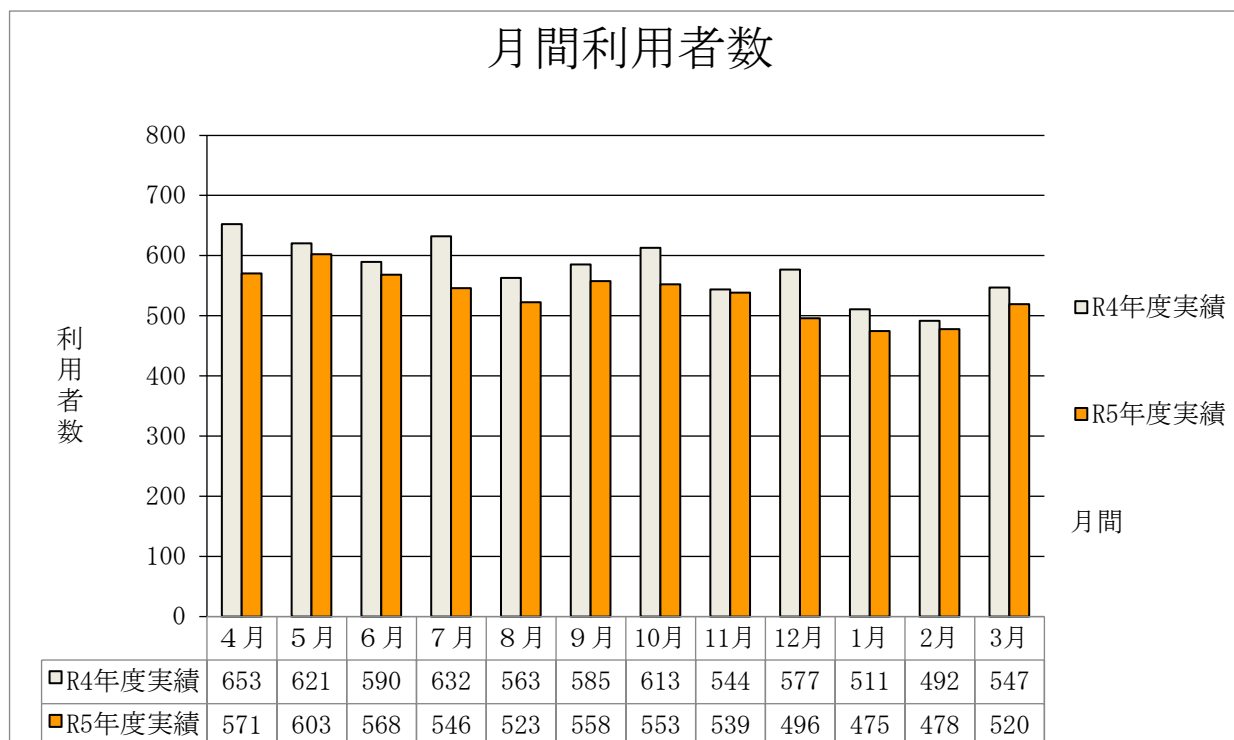
デイサービスサンライフ田寺

令和5年度 事業報告書

令和5年度の実績では利用者数の減少（4年度より－27名・介護度の高い利用者の減少）により収入が前年度に比べて約300万減少し、支出については人件費・修繕費の増加、また車輛の購入等により約1200万増加し収支差額が-1500万となった。6年度介護報酬改定に伴い個別機能訓練加算の単位数の減少や総合事業の運動器加算の廃止等があり基本報酬単価の増加の改定ではあるが大幅な収入増加は見込めない状況である。今後は新規利用者の獲得はもちろんのこと支出削減のため、利用定員を35名→30名に変更し人件費の削減を図りたい。また、理学療法士によるリハビリメニューの変更（プラットフォームの購入）を行い現在個別機能訓練加算を算定していない利用者へのアプローチを実施、新規利用者へ対しても個別のリハビリメニューの充実性をアピールしていきたい。田寺の売りでもある午後からの外出先が恒常化しているため再考し、喫茶・買い物外出の種類を増やし脳の活性化を図り、歩行・起位動作を増やし外出の中に無理なくリハビリを取り入れていきたい。

子供食堂「レストランテヴェーノ田寺」については利用者数の減少により今年度で中止とした。

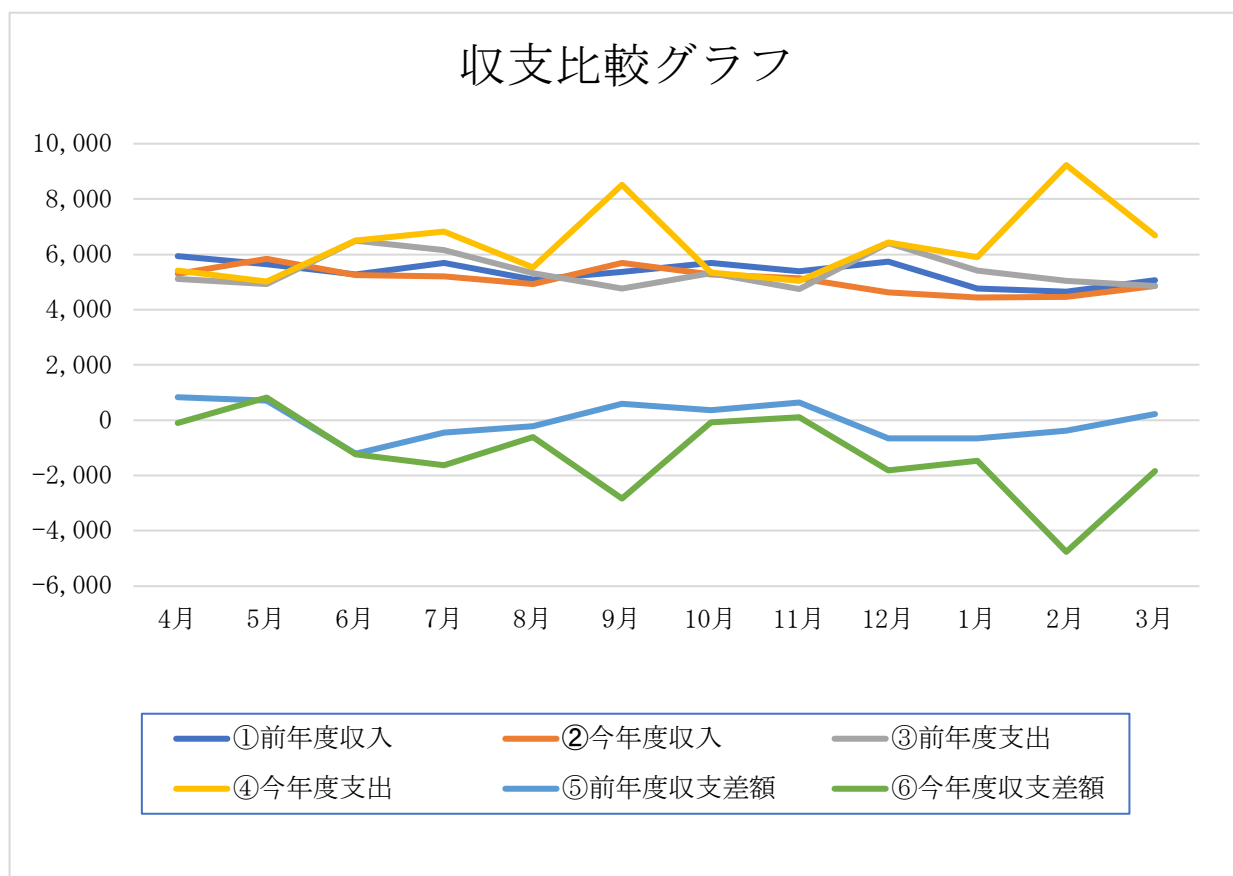
1. 月間利用者数



2. 前年度収支比較

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計	比率
① 前年度収入	5,934	5,647	5,280	5,694	5,083	5,372	33,010	—
② 今年度収入	5,300	6,837	5,258	5,199	4,919	5,686	32,199	97.5%
③ 前年度支出	5,100	4,928	6,492	6,142	5,307	4,771	32,740	—
④ 今年度支出	5,401	5,016	6,488	6,816	5,518	8,513	37,752	115%
⑤ 前年度収支額	833	719	-1,211	-488	-224	601	270	—
⑥ 今年度収支額	-101	821	-1,230	-1,617	-599	-2,827	-5,553	

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	比率
① 前年度収入	5,687	5,380	5,728	4,752	4,649	5,075	64,281	—
② 今年度収入	5,268	5,138	4,620	4,438	4,467	4,861	60,991	94.9%
③ 前年度支出	5,328	4,744	6,395	5,417	5,029	4,861	64,514	—
④ 今年度支出	5,338	5,038	6,441	5,903	9,226	6,695	76,393	118.4%
⑤ 前年度収支額	359	363	-666	-664	-379	214	-230	—
⑥ 今年度収支額	-70	100	-1,821	-1,465	-4,765	-1,834	-15402	%



3. 介護度別平均年齢及び利用者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均 (合計)
要支援 1	84.04 (2)	84.13 (2)	84.21 (2)	82.06 (3)	84.38 (2)	84.46 (2)	84.54 (2)	84.63 (2)	84.71 (2)	84.79 (2)	84.67 (3)	84.75 (2)	84.23 (27)
要支援 2	81.78 (8)	80.86 (7)	80.17 (6)	82.28 (6)	82.85 (7)	82.93 (7)	83.01 (7)	83.90 (7)	83.53 (8)	86.61 (8)	83.69 (8)	84.70 (10)	82.89 (89)
要介護 1	85.99 (30)	86.36 (29)	86.10 (27)	86.39 (29)	86.75 (26)	86.24 (25)	85.88 (26)	86.54 (28)	86.40 (28)	86.55 (29)	86.64 (29)	85.86 (30)	86.31 (336)
要介護 2	86.57 (19)	86.76 (20)	86.93 (21)	87.38 (20)	87.83 (16)	87.91 (16)	87.99 (16)	86.03 (16)	89.09 (13)	88.72 (11)	88.41 (11)	88.60 (10)	87.52 (189)
要介護 3	90.14 (8)	90.22 (8)	90.30 (8)	90.39 (8)	90.47 (8)	86.91 (8)	87.53 (9)	90.08 (7)	89.81 (4)	86.44 (6)	86.42 (5)	88.65 (4)	89.04 (83)
要介護 4	83.56 (3)	83.64 (3)	86.67 (3)	88.75 (2)	89.31 (3)	89.39 (3)	89.47 (3)	89.56 (3)	87.92 (2)	90.67 (1)	90.75 (1)	93.54 (2)	88.16 (29)
要介護 5	89.67 (1)	89.75 (1)	89.83 (1)	89.92 (1)	83.00 (2)	83.08 (2)	76.17 (1)	76.25 (1)	76.33 (1)	76.42 (1)	76.50 (1)	76.58 (1)	82.11 (14)
平均 (合計)	86.03 (71)	86.23 (70)	86.35 (68)	86.71 (69)	86.98 (64)	86.37 (63)	86.30 (64)	86.43 (64)	86.66 (58)	86.38 (58)	86.34 (58)	86.35 (60)	86.43 (767)

上段の数字は平均年齢、()内の数字は実利用者人数を示しています。

4. 職員充足度 (R6年3月現在)

職員 17名 (正職員 3名 非常勤看護師 3名 非常勤理学療法士 1名
非常勤歯科衛生士 1名 非常勤介護職員 9名)

個別機能指導員(看護師) 1名含まない

	営業 日数	利用者/ 月	職員実質時間数 /月	利用者/ 日	職員 /日	職員 一人 対	職員/日	職員一人対
4月	25	547	1,943	22.84	11.6	2.0	10.6	2.2
5月	27	603	1,737	22.33	10.3	2.2	9.3	2.4
6月	26	568	1,905	21.85	11.3	1.9	10.3	2.1
7月	26	546	1,823	21.00	10.9	1.9	9.9	2.1
8月	26	523	1,799	20.12	10.7	1.9	9.7	2.1
9月	26	565	1,682	21.73	10.0	2.2	9.0	2.4
10月	26	560	1,796	21.54	8.2	2.6	7.2	3.0
11月	26	546	1,766	21.00	8.7	2.4	7.7	2.7
12月	26	496	1,892	19.08	8.0	2.4	7.0	2.7
1月	25	475	2,591	19.00	7.5	2.5	6.5	2.9
2月	25	478	2,091	19.12	12.4	1.5	11.4	1.7
3月	26	520	2,267	20.00	13.5	1.5	12.5	1.6

5. リストランテヴォーノ田寺

開催日	4/16	5/21	6/18	8/20	9/17
利用者	13名	6名	6名	12名	7名
ボランティア	5名	2名	2名	3名	3名

7月：職員コロナにより中止、10月以降は予約者がいなかったため開催なし。

ヘルパーステーションサンライフ御立

令和5年度 事業報告書

今年度目標に掲げた「足腰・頭と心を鍛えて、いつまでも元気で楽しく暮らす」を念頭に、利用者様と共に取り組んできた。

まず「利用者様と共に行う」を大切に、ヘルパーは単なる家事代行という概念を拭い、「自立した生活の支援」である事への意識改革。同時に、契約の際にはヘルパーの意味を再度利用者様・家族様に理解頂く為、契約時にも入念な説明に努めた。

先回りしたサービスも重要だが、あくまでも出来ない事を出来る様に支援する＝自立支援が目的である事。残存能力をしっかりと維持し、在宅で自分らしい生活維持の為、事業所全員での周知もしっかり行った。

人材育成・介護力向上に向けての取り組みでは、内部研修や個人研修を引き続き行った。人事考課表にて、自己評価した欠点と事業所内で評価した到達度をしっかりと把握し、一人一人に沿った研修を行う事で、介護力・人間力向上に努めた。まだまだ十分な到達度は得られていない為、ヘルパーの能力のばらつきが少しでも改善されるよう、来年度も継続実施を行う。その結果、事業所全体の強化に繋げて行けたらと思う。

休暇への取り組みでは、今年度10月～、常勤職員を1名増員した為、初めてのリフレッシュ休暇取得が実現した。「ヘルパーは忙しくて休めない」「自分が休むと、訪問調整や代理訪問で迷惑をかける」等、全員が感じながら業務に従事していたが、今後はしっかりと休んでしっかり仕事に向き合う！と意識転換するいい機会になったと感じる。今後も積極的な習得計画を継続するよう努めていきたい。

今年度から義務化された、「アルコールチェック」。何度か研修を行い、現在問題なく行えている。引き続き、法律に沿って実施していきたい。

令和5年度 内部研修内容

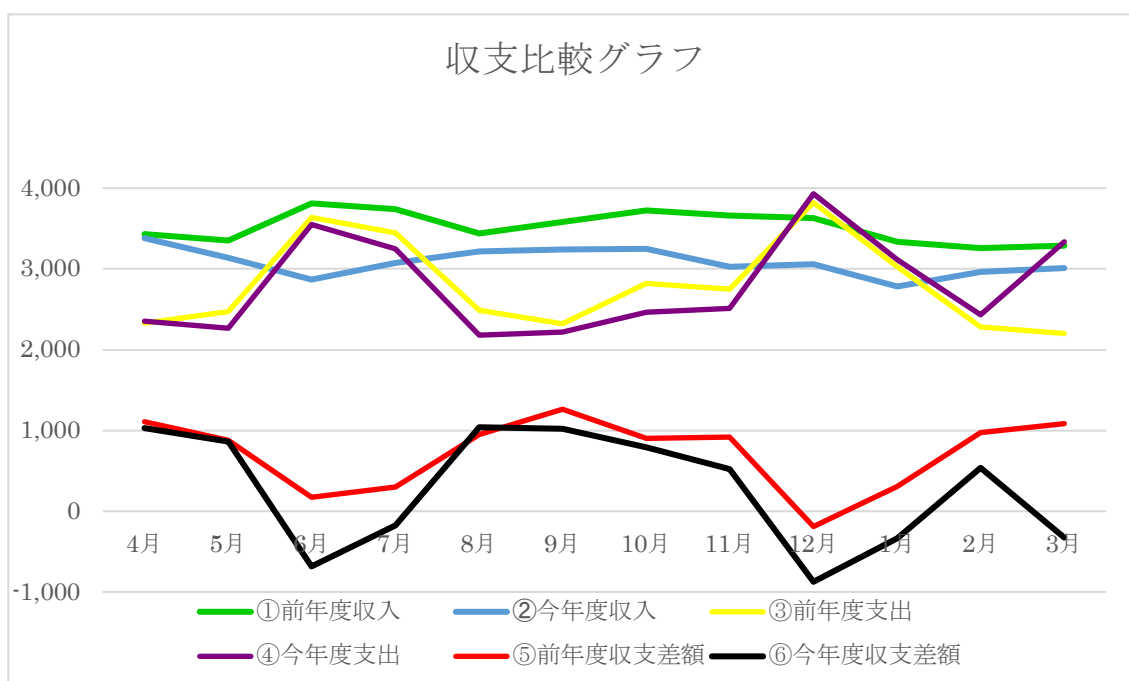
実施月	テーマ	担当者
4月	訪問介護の時事・自分自身と向き合おう！	藤木
5月	プライバシーの保護・ヘルパーが出来る食中毒予防	木村
6月	個人面談	藤木
7月	接遇の基本「言葉遣い」	川上
8月	薬との付き合い方	木村
9月	安全運転管理者制度・アルコールチェックの義務化	川上
10月	利用者宅での困りごと・事例検討会①②	藤木
11月	虐待防止「共依存という視点で考える」	川上
12月	頭と体を元気にするMCIハンドブック	木村
6年1月	介護記録の書き方（記録について）	松永
2月	高齢者虐待について	藤木
3月	個人面談（人事考課表）・BCPについて	藤木

年間収支比較

(千円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計	比率
①前年度収入	3,434	3,355	3,812	3,744	3,437	3,581	21,363	—
②今年度収入	3,381	3,135	2,869	3,073	3,220	3,240	18,918	89
③前年度支出	2,326	2,473	3,637	3,444	2,488	2,318	16,686	—
④今年度支出	2,352	2,269	3,551	3,247	2,180	2,220	15,819	95
⑤前年度収支差額	1,108	882	175	300	949	1,263	4,677	—
⑥今年度収支差額	1,029	866	-682	-174	1,040	1,020	3,099	66

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	比率
①前年度収入	3,721	3,665	3,631	3,339	3,258	3,285	42,262	—
②今年度収入	3,252	3,029	3,057	2,783	2,967	3,013	37,019	88
③前年度支出	2,818	2,750	3,821	3,029	2,285	2,201	33,590	—
④今年度支出	2,464	2,511	3,931	3,114	2,430	3,337	33,606	100
⑤前年度収支差額	903	915	-190	310	973	1,084	8,672	—
⑥今年度収支差額	788	518	-874	-331	537	-324	3,413	40



収入面では、常勤1名増員した為の人員費増・ほのぼの更新に伴う費用が大きく増えた。それに加え、コロナでの影響を大きく受けたとは思わず事業運営してきた昨年度に比べ、ここへ来て利用者様の体調不良からの入院等で、在宅復帰は叶わず、特養・有料・サービス付き高齢者住宅入所等、生活の場が大きく変わる利用者様が増えた事での中止・終了が大きく収入減に繋がった。訪問介護を希望される利用者様も大きく減ってきている事から、今後は、更なる営業活動に力を入れると同時に、事業所発信を最大限行い、ヘルパーステーションサンライフ御立の強みをしっかりお伝えしていこうと考える。

サンライフ御立居宅介護支援事業所

令和5年度 事業報告書

経営スローガン「足腰頭と心を鍛えて、いつまでも元気に楽しく過ごす」に対し、感染症対策を行いながら相談援助や適切なサービスを提案し、元気に在宅生活が継続できるよう支援を行った。

収入については、全体の利用者数は横ばいで、要支援者が増え要介護者が減ったため、やや増加に留まった。支出については、人件費の増加やパソコンの購入、ほのぼのネクストの更新があったが、昨年も支出が大きくやや増加。収支差額としては、収入がやや増加、支出がやや増加であり、ほぼ横ばいとなった。

地域包括ケアシステムの構築を目指し医療との連携を促進し在宅で利用者様に満足して頂けるように提供を行った。

1. 担当利用者・収入の確保

新規獲得件数は116件。特養や老健入所、長期入院、永眠などの終了ケースが多くある。総数は令和5年4月が要介護134件、要支援68件の202件、令和6年3月が要介護121件、要支援80件の201件となった。営業活動も毎月行っている。担当の利用者様からの紹介等も積極的に受け入れるようにし特に地域の方のご相談等も迅速に対応できるよう努めている。

担当人数の増減はあるが、収入については、昨年度と比較しやや増加の結果となった。

2. サービスの質の向上

主任ケアマネジャーの資格取得については、管理者交代や事業所を新たに増やす際に必要な資格であり、要件を満たした職員から順次取得する。

また、援助を進めていくにあたり困難なケースや問題点がでてきた時等、事業所内で一緒に考え、情報共有を行うことで精神面でのケアと援助がスムーズに行えるよう努めた。研修会等にも積極的に参加するよう心がけ最新情報等は事業所内で共有できるよう情報交換共有を行った。感染症対策に勤め自らが感染しないことはもちろんのこと、クラスターが発生しても支援が止まらないように、できる限りの支援を行った。

3. 有給休暇、連続リフレッシュ休暇の確実な取得状況

年次有給休暇の10日以上取得者の5日以上の取得ができていない。連続リフレッシュ休暇は、昨年に続き現状で取得している職員はいない。連続リフレッシュ休暇の支障として考えられることは、長期休暇を取得することで利用者様や家族様からの相談対応に支障が出てしまわないかとの不安がある。今後検討が必要。

4. 特定事業所集中減算の回避

毎月、集計を行い減算にならないように注意した。他事業所の情報等を収集し、紹介を行った。

5. 介護予防支援

令和5年度も、要支援者の地域包括支援センターからの依頼や、更新時に要支援になった方が多く、要支援者の利用者数は増加傾向となった。引き続き、多くの地域包括支援センターとの連携を行い新規獲得に努める。

6. 利用者人数の推移

(人)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
要支援 1.2	R4	42	44	48	46	52	56	57	56	58	59	60	60	638
	R5	68	69	69	74	72	68	70	68	73	73	76	80	860
	差	+26	+25	+21	+28	+20	+12	+13	+12	+15	+14	+16	+20	+222

(人)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
要介護 1~5	R4	122	123	123	121	120	121	124	121	122	121	115	123	1,456
	R5	134	130	128	126	124	126	119	120	125	125	124	121	1,502
	差	+12	+7	+5	+5	+4	+5	-5	-1	+3	+4	+9	-2	+46

7. 収入の確保

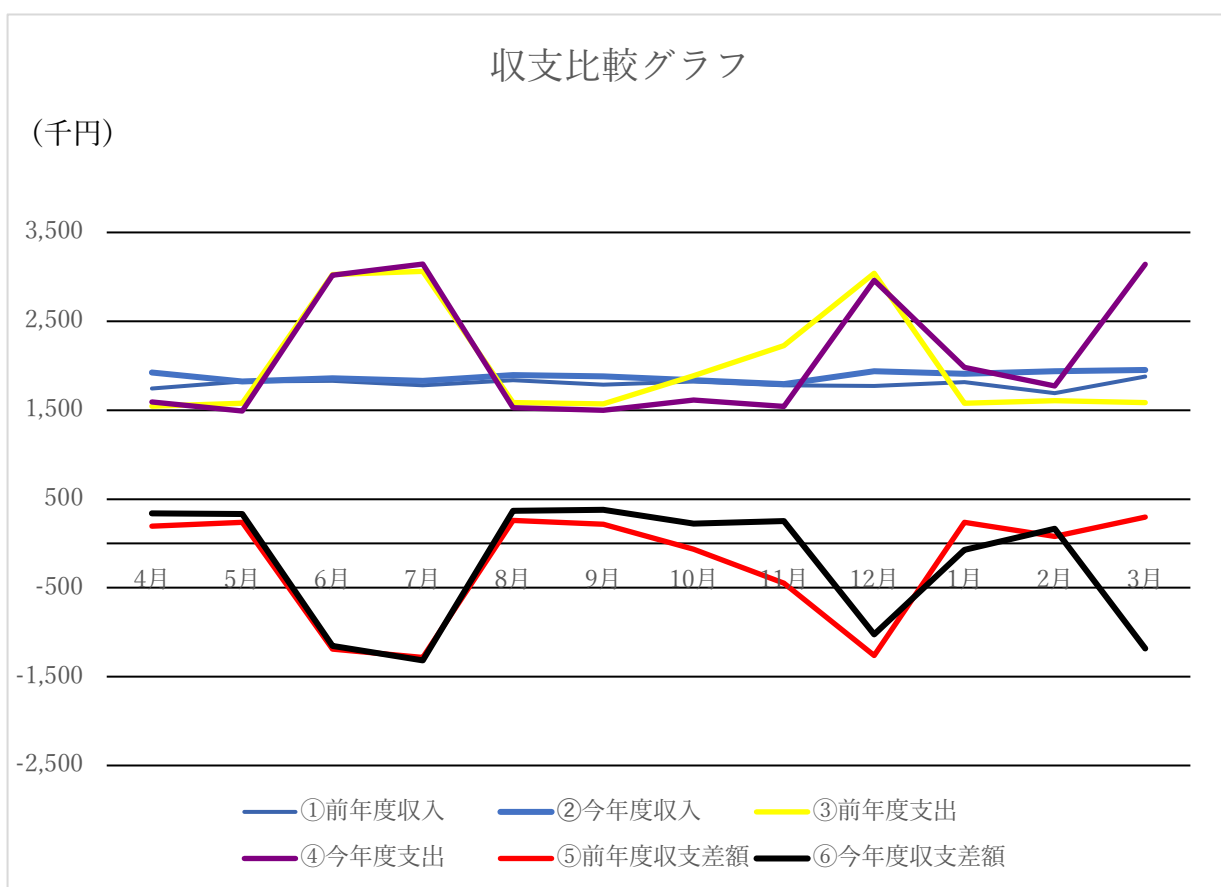
様々な理由で、増減があるため、定員を維持増加できるように営業活動を行った。要介護の利用者の人数増加より、要支援の利用者の増加が多かった。

8. 年間収支比較

(千円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計	比率
①前年度収入	1,740	1,819	1,833	1,778	1,838	1,783	10,791	
②今年度収入	1,925	1,821	1,861	1,827	1,898	1,877	11,209	103.9
③前年度支出	1,544	1,579	3,025	3,062	1,582	1,569	12,361	
④今年度支出	1,589	1,490	3,017	3,144	1,529	1,499	12,268	99.2
⑤前年度収支差額	196	240	-1,192	-1,284	256	214	-1,570	
⑥今年度収支差額	336	331	-1,156	-1,317	369	378	-1,059	67.5

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	比率
①前年度収入	1,821	1,778	1,774	1,812	1,691	1,878	21,545	
②今年度収入	1,838	1,793	1,937	1,908	1,941	1,952	22,578	104.8
③前年度支出	1,885	2,223	3,038	1,574	1,609	1,582	24,272	
④今年度支出	1,614	1,540	2,964	1,978	1,775	3,138	25,277	104.1
⑤前年度収支差額	-64	-445	-1,264	238	82	296	-2,727	
⑥今年度収支差額	224	253	-1,027	-70	166	-1,186	-2,699	99.0



デイサービスサンライフ安室

令和5年度 事業報告書

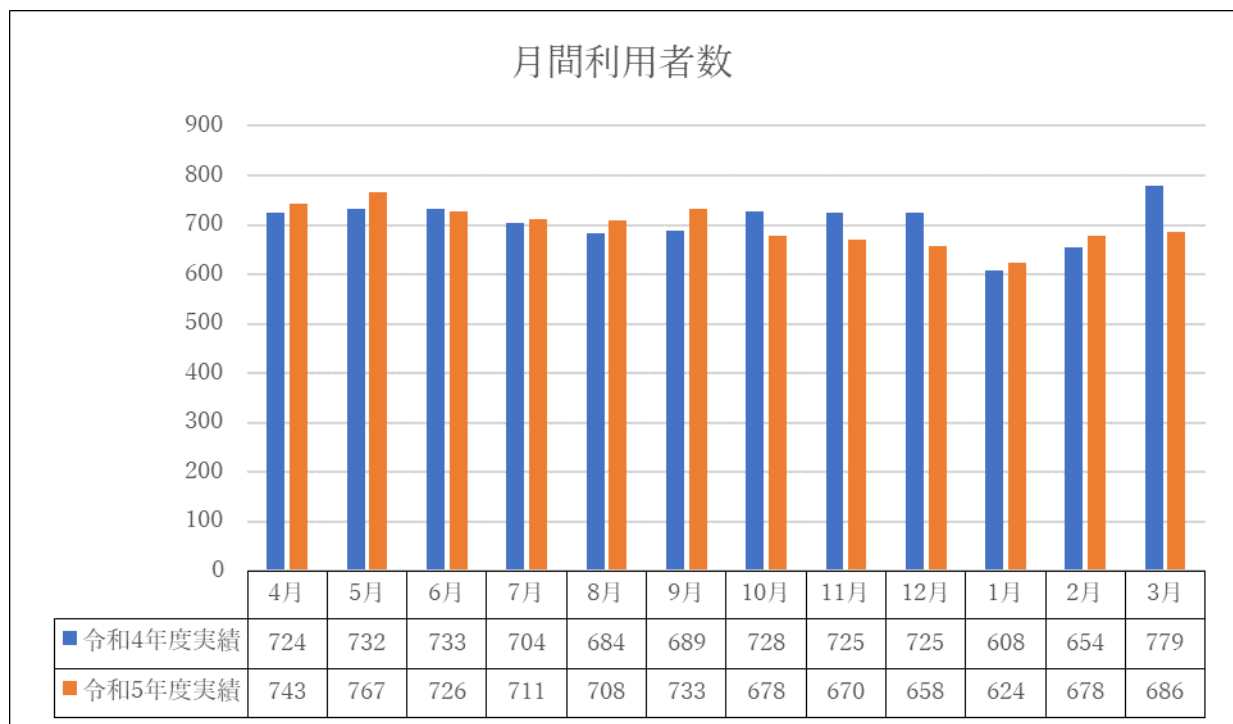
令和5年度は新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴い、カラオケレクリエーションの再開や、買物外出、喫茶外出など一年を通してコロナ禍以前と同様のレクリエーションを実施する事ができた。また月に一度の移動スーパーに加え移動パン屋にも来ていただき、利用者様の好評を得ている。

しかしここ数年の管理者変更による利用者様・御家族・担当ケアマネージャーの不信感により、問い合わせ等も少なく、新規利用者の獲得が出来ていない状況が続いている。今後早急に体制を整え信頼回復に努める必要がある。

また、支出については施設開設から12年が過ぎ、施設設備の修繕、備品等買い替えに加え、送迎車両2台購入も重なり支出増となった。

今後も修繕等の支出が増加する可能性が予測される為、業務の効率化、光熱費等の見直しを図り、可能な限り支出を抑えていきたい。

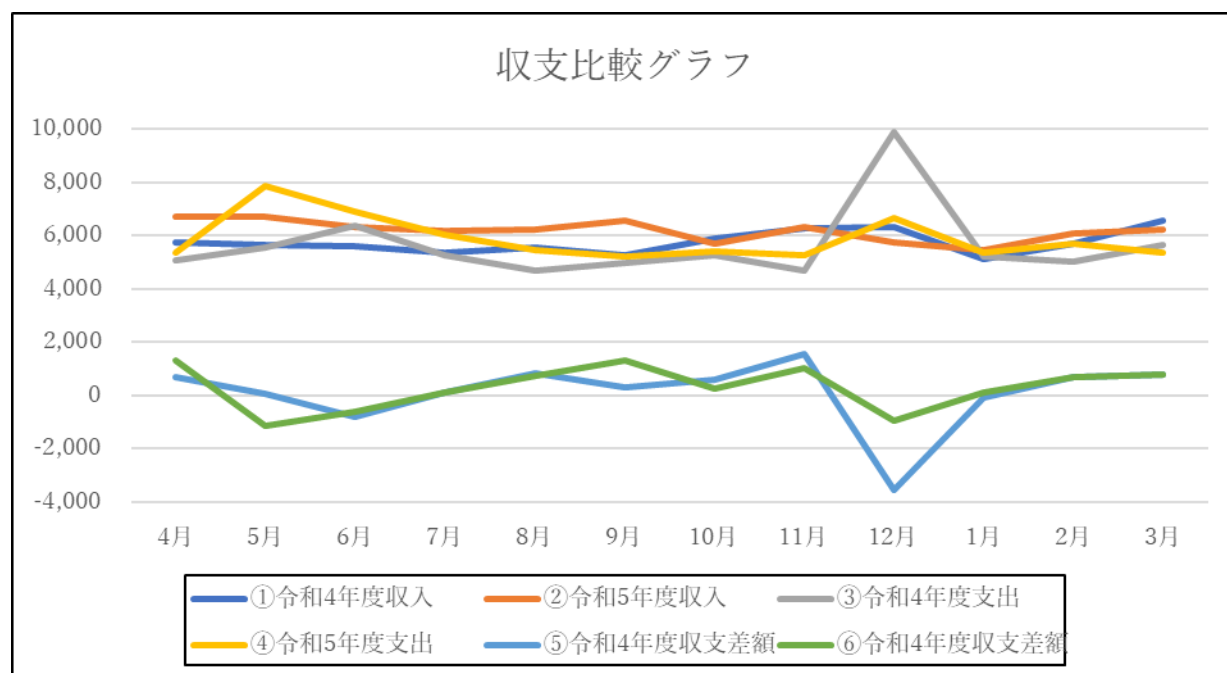
1. 利用者数



2. 年間収支比較

(千円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計	比率
①令和4年度収入	5,782	5,640	5,605	5,387	5,560	5,268	33,242	-
②令和5年度収入	6,713	6,724	6,327	6,181	6,229	6,555	38,729	116.5%
③令和4年度支出	5,082	5,554	6,392	5,285	4,719	4,972	32,004	-
④令和5年度支出	5,365	7,875	6,929	6,056	5,474	5,214	36,913	115.3%
⑤令和4年度収支差額	700	86	-787	102	841	296	1,238	-
⑥令和5年度収支差額	1,348	-1,151	-602	125	755	1,341	1,816	146.7%
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	比率
①令和4年度収入	5,887	6,295	6,347	5,155	5,703	6,556	69,185	-
②令和5年度収入	5,696	6,328	5,747	5,468	6,100	6,226	74,294	107.4%
③令和4年度支出	5,292	4,720	9,880	5,233	5,017	5,672	67,818	-
④令和5年度支出	5,427	5,290	6,697	5,362	5,723	5,366	70,778	104.4%
⑤令和4年度収支差額	595	1,575	-3,533	-78	685	794	1,276	-
⑥令和5年度収支差額	269	1,038	-950	106	685	794	3,758	294.5%



3. 介護度別平均年齢及び利用者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均 (合計)
要支援 1	83.03 (10)	84.19 (9)	84.65 (8)	83.98 (8)	84.06 (8)	84.15 (8)	85.05 (7)	85.13 (7)	83.68 (8)	83.93 (8)	84.44 (8)	84.15 (7)	84.20 (96)
要支援 2	88.10 (17)	87.37 (18)	87.20 (18)	87.64 (19)	87.72 (19)	87.80 (18)	87.88 (18)	88.21 (18)	88.91 (16)	89.05 (14)	89.48 (14)	88.91 (12)	88.19 (201)
要介護 1	85.66 (32)	85.87 (31)	85.95 (29)	85.76 (29)	86.28 (27)	86.49 (28)	86.83 (28)	86.37 (26)	86.60 (28)	86.88 (28)	87.10 (28)	86.97 (27)	86.40 (341)
要介護 2	91.11 (10)	91.19 (10)	90.00 (11)	90.19 (12)	88.84 (13)	88.11 (12)	88.11 (14)	89.40 (11)	88.23 (12)	86.85 (13)	87.40 (14)	88.89 (13)	89.03 (145)
要介護 3	89.26 (9)	89.34 (9)	90.40 (8)	90.48 (8)	90.56 (8)	91.45 (10)	91.53 (10)	92.48 (9)	90.72 (10)	88.99 (10)	89.27 (10)	89.02 (11)	90.29 (112)
要介護 4	83.85 (4)	83.94 (4)	84.02 (4)	83.93 (5)	84.60 (4)	84.10 (5)	84.18 (5)	84.27 (5)	84.35 (5)	84.43 (5)	85.82 (6)	86.30 (5)	84.48 (57)
要介護 5													
平均 (合計)	86.72 (82)	86.69 (81)	86.52 (78)	86.70 (81)	86.73 (79)	86.52 (81)	86.65 (82)	86.80 (76)	86.53 (79)	86.25 (78)	86.69 (80)	86.55 (75)	86.61 (952)

上段の数字は平均年齢、()内の数字は実利用者人数を示しています。

4. 職員充足度 (令和6年3月現在)

職員 14 名 (正職員 2 名 非常勤看護師 3 名 非常勤介護職員 9 名)

機能訓練指導員
を
含まない

	営業 日数	利用者/ 月	職員総時間数/ 月	利用者/ 月	職員/ 月	職員 一人対	職員/ 月	職員 一人対
4月	25	743	1784	29.7	10.6	2.8	7.7	3.9
5月	27	767	2904	28.4	12.5	2.3	9.5	3.0
6月	26	726	1905	27.9	11.3	2.5	9.3	3.0
7月	26	711	1883	27.3	11.2	2.4	9.2	3.0
8月	26	708	1862	27.2	11.1	2.5	9.2	3.0
9月	26	733	1866	28.2	11.1	2.5	9.1	3.1
10月	26	678	1802	26.1	10.7	2.4	10.6	2.5
11月	26	670	1965	25.8	11.7	2.2	9.8	2.6
12月	26	658	1838	25.3	10.9	2.3	10.9	2.3
1月	25	624	1711	25.0	10.2	2.5	8.5	2.9
2月	25	678	1713	27.1	10.2	2.7	9.2	2.9
3月	26	686	1861	26.4	11.1	2.4	10.1	2.6

姫路市安室地域包括支援センター

令和5年度 事業報告書

昨年度、令和5年4月からの地域包括支援センター開設法人の公募があり、令和5年度より5年間、引き続き安室中学校区を担当することとなった。15年間の活動を経て、地域で名称や役割は徐々に広まり、相談場所としての啓発が進み、認知度が上がっており、各機関と連携を図り、継続して安定した運営に努めた。コロナ感染症5類移行後、地域の集いが本格的に活動再開となり、多くの集いの場へ参加し、様々な啓発活動を行った。

姫路市各地区で行われている生活支援体制検討会議については、昨年まで開催していた安室校区で開催が中断となっている。安室校区・安室東校区ともに、城乾・東光準基幹地域包括支援センターや社会福祉協議会と連携し、連合自治会長への働きかけを継続していく。

事業所内連携については、今年度も引き続き毎日朝礼でミーティングを実施し、伝達事項や研修報告、地域役員からの情報、新たな相談者・継続相談者等の報告を行うことで、事業所内での情報共有を確実に行うことができた。また、毎月1人ずつ担当を決め、主催してもらうことで、各職員のスキルアップと職員研修のため、月1回の職員会議開催も継続できた。

外部研修については、今年度も案内を事業所内で回覧し、受講したい研修があれば受けることができるようにしている。オンライン研修を主として受講できており、今後も事業所全体でのスキルアップにつなげていきたい。

認知症カフェについては、2グループが継続して姫路市に登録できている。大池台カフェについては、今年度は月1回の定期開催ができた。コロナ禍以降、長く休止していたオレンジカフェ山田については、11月に再開し、自治会長・お世話役と連携し、以降定期開催できた。

いきいき百歳体操については、いきいき百歳体操を地域へ広めるツールとして始まり、活動を続けていたサンライフ田寺グループが、デイサービスサンライフ田寺の水曜営業開始にともない、昨年度末で閉鎖となった。また、安室東校区で今年度も老人会閉鎖の自治会があり、1グループが閉鎖となった。7月に、有志で個人宅を提供し、1グループが新たに開設となったが、全体としてはグループ数減少となっている。昨年度に続き各グループでフレイルチェックを実施した。コロナ禍で中断していたいきいき百歳体操交流会も実施することができた。

介護予防については、昨年引き続き、安室東公民館での介護予防講座を開催した。安室校区でも毎月開催協力している公民館講座「公民館の保健室」で、介護予防講座を開催できた。また、安室公民館介護予防講座で実施したボッチャ体験会が好評となり、各老人会でも道具を購入したところもあり、新たなつどいの場の広がりの可能性が出てきた。

今年度も、センター便りを3ヶ月に1回、地域役員向け活動報告書を2ヶ月に1回発行し、地域包括支援センターの啓発、地域の実情把握を行うとともに、地域との連携強化に取り組んでいる。また、認知症担当職員を中心に、地域の個人医院や商店に挨拶にまわり、地域包括紹介のリーフレットを置いてもらえるよう依頼しており、引き続き地域回りを継続し、地域との連携強化に努

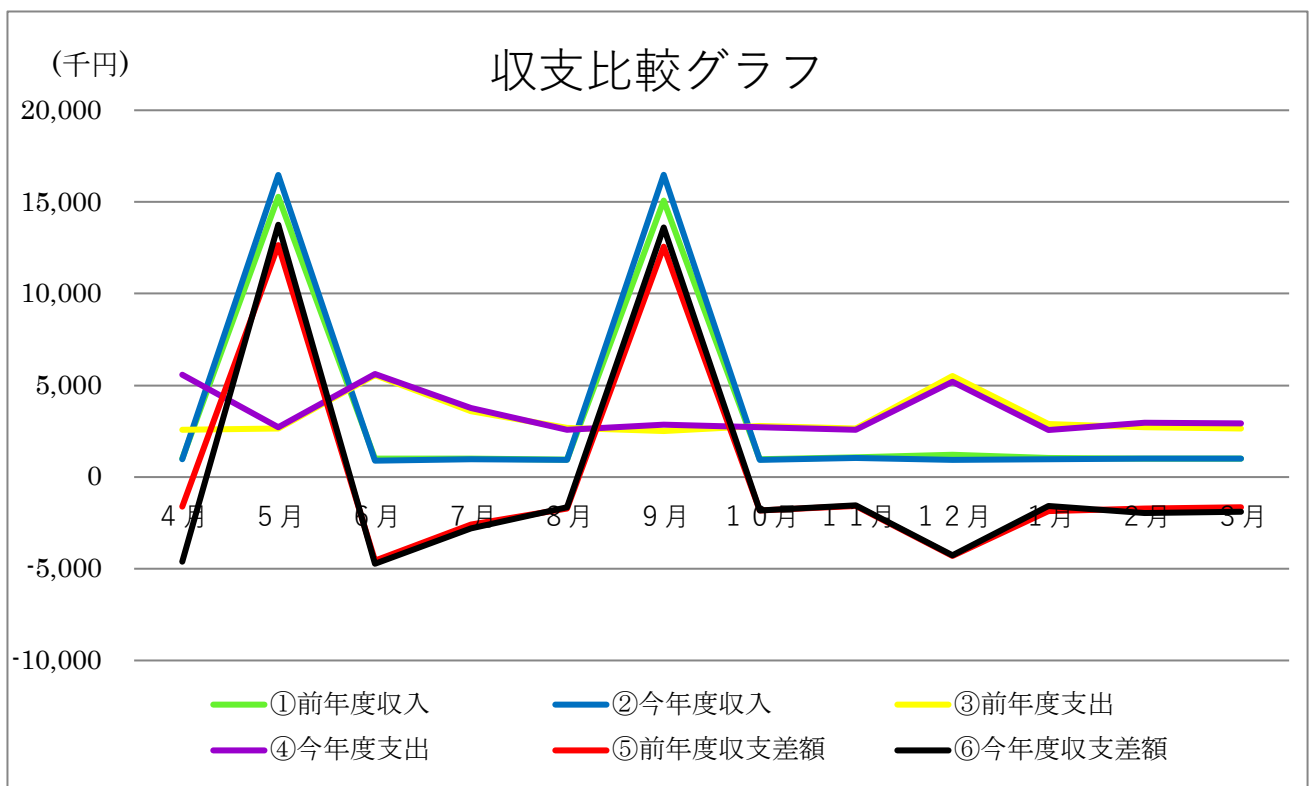
めていく。

年間収支比

(千円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計	比率
①前年度収入	994	15,283	1,001	1,000	951	15,085	34,314	
②今年度収入	975	16,467	894	960	935	16,481	36,712	107
③前年度支出	2,591	2,636	5,557	3,594	2,678	2,510	19,566	
④今年度支出	5,574	2,709	5,620	3,748	2,586	2,858	23,095	118
⑤前年度収支差額	-1,597	12,647	-4,556	-2,594	-1,727	12,575	14,748	
⑥今年度収支差額	-4,599	13,758	-4,726	-2,788	-1,651	13,623	13,617	92
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	比率
①前年度収入	955	1,072	1,221	1,045	1,016	996	40,619	
②今年度収入	930	1,037	951	987	990	1,016	42,623	105
③前年度支出	2,784	2,632	5,504	2,884	2,723	2,640	38,733	
④今年度支出	2,735	2,577	5,210	2,566	2,961	2,915	42,059	109
⑤前年度収支差額	-1,829	-1,560	-4,283	-1,839	-1,707	-1,644	1,886	
⑥今年度収支差額	-1,805	-1,540	-4,259	-1,579	-1,971	-1,899	564	30

※5月・9月 姫路市より委託料収入あり



総合相談支援事業の相談者(重複あり)

(件)

区分	家族・本人	行政 (市役 所)	行政 (警察 等)	ケアマネ ジャー	介護保険 サービス事業者	医療 機関	民生委員	地域団体 等	その他
4月	78	2	0	2	7	4	6	5	3
5月	83	7	0	22	5	9	6	2	4
6月	131	1	0	5	5	7	1	4	5
7月	118	8	0	7	15	17	6	0	2
8月	147	1	0	15	19	8	2	1	4
9月	144	5	0	14	7	7	2	1	0
10月	126	3	4	28	10	29	4	5	4
11月	107	10	0	29	19	8	5	0	5
12月	149	7	2	24	14	30	3	4	4
1月	190	1	4	23	25	19	7	7	1
2月	159	3	3	37	28	26	12	6	12
3月	215	1	0	36	52	29	8	6	11
合計	1,647	49	13	242	206	193	62	41	55

特別養護老人ホームサンライフ土山

令和5年度 事業報告書

前年度と比較し、稼働率は1.6%上げることができたが、99%の目標を達成することは出来なかった。看取り介護を受けてらっしゃる方の退所が下半期に集中し、新規入所者の確保に力を入れた。

また、年間でフルタイムの外国人職員（主にベトナム人職員）14名と日本人職員1名が退職したことにより、急な職員の補充に奔走した。採用しても、入職に至らないケースも多く、常に募集している状態であった。

感染症においては新型コロナウイルスの感染持ち込みは防ぎきれなかったが、他のユニットへ広がることも無く比較的短期間で終息することができた。ただ、下半期にもインフルエンザウイルスの感染も発生し、対応に追われることとなった。

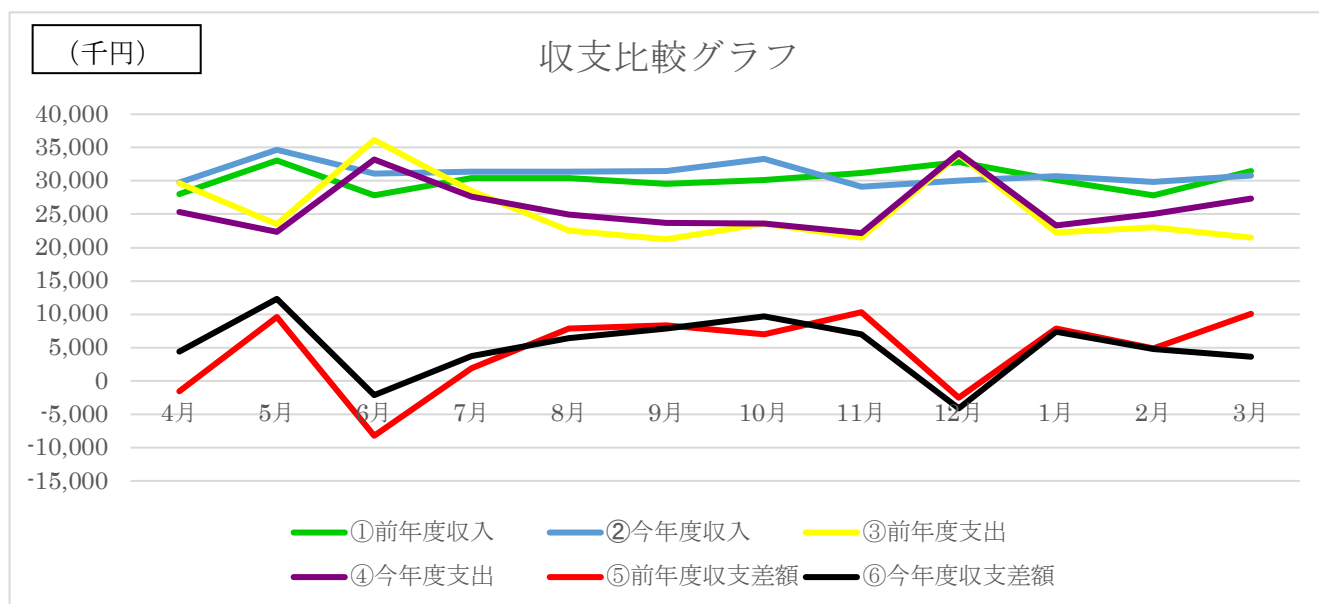
支出に関しては、浴室の床の張り替えや入浴機の修理修繕費が約170万円、16台のパソコン入替費217万円がかかった。今後も設備や機器の老朽化が進むにつれて、費用が発生してくるものと思われる。

OJT研修やQC活動を通じ、無駄のない仕事や業務効率の向上においても常時、取り組んだ。同時に5S活動も継続して労働環境の整備に努めた。

1. 年間収支比較

(千円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計	比率
① 前年度収入	28,007	33,061	27,839	30,437	30,434	29,582	179,431	—
② 今年度収入	29,772	34,664	31,085	31,402	31,357	31,502	189,781	105.8
③ 前年度支出	29,629	23,521	36,138	28,514	22,586	21,248	161,635	—
④ 今年度支出	25,362	22,358	33,231	27,646	24,913	23,687	157,199	97.3
⑤ 前年度収支差額	-1,551	9,540	-8,299	1,924	7,848	8,334	17,796	—
⑥ 今年度収支差額	4,410	12,305	-2,147	3,756	6,444	7,815	32,583	183.1
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	比率
① 前年度収入	30,129	31,210	32,791	30,110	27,869	31,517	363,057	—
② 今年度収入	33,277	29,125	30,059	30,675	29,841	30,823	373,581	102.9
③ 前年度支出	23,570	21,448	33,947	22,263	23,012	21,497	307,754	—
④ 今年度支出	23,638	22,171	34,182	23,337	25,077	27,235	312,839	101.7
⑤ 前年度収支差額	6,981	10,304	-2,479	7,825	4,858	10,019	55,303	—
⑥ 今年度収支差額	9,639	6,953	-4,123	7,338	4,764	3,589	60,743	109.8



2. 利用者数

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
R4 年度実績	1,872	1,971	1,917	2,035	2,076	1,981	11,852
R5 年度実績	1,980	2,100	2,088	2,108	2,104	2,058	12,438
前年度との差異	108	129	171	73	28	77	586
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R4 年度実績	2,009	1,945	2,016	2,010	1,861	2,115	23,808
R5 年度実績	2,107	1,930	1,998	2,069	1,970	2,039	24,551
前年度との差異	98	-15	-18	59	109	-76	743

3. 入院者数

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
R4 年度実績	188	138	53	20	7	50	456
R5 年度実績	116	65	8	62	60	37	348
前年度との差異	-72	-73	-45	42	53	-13	-108
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R4 年度実績	154	147	125	122	57	36	1,097
R5 年度実績	54	127	118	69	17	32	765
前年度との差異	-100	-20	-7	-53	-40	-4	-332

4. 稼働率

(単位：%)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
R4年度実績	89.1	90.8	91.3	93.8	95.7	94.3	92.5
R5年度実績	94.3	96.8	91.3	99.4	97.1	97.0	96.0
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R4年度実績	92.6	92.6	92.9	92.6	95.0	97.5	93.7
R5年度実績	97.1	91.9	92.1	95.3	97.0	94.0	95.3

5. 令和5年度別要介護度別利用者数

	要介護3	要介護4	要介護5	合計
65歳未満	0	0	0	0
65歳以上～75歳未満	717 (25)	454 (16)	93 (4)	1264 (45)
75歳以上～85歳未満	214 (7)	3748 (125)	2028 (68)	5990 (200)
85歳以上～95歳未満	3471 (115)	6851 (231)	3631 (121)	13953 (467)
95歳以上	48 (2)	902 (30)	1768 (58)	2718 (90)
100歳以上	0	762 (25)	629 (23)	1391 (48)
合計	4450 (149)	12717 (427)	8149 (274)	25316 (850)

前半の数字は延べ日数、()内の数字は実人数を示しています。

6. 令和5年度 事故分類別発生者数

	A	B	C	合計
合計	3	4	174	181

・K様 11/1 AM11:30 パッド交換の際に、本人がごろりと転びベッドから転落される。痛み、腸骨の周囲腫れ(一) 頭部は腫れているが特になし、身体を触ると大きな声で「痛いー」と言われる。嘔気(一)。さだとうクリニック受診：CT検査実施し今回の頭部打撲に関しては今の所出血等く問題なしとの事で、田中病院整形受診し左大腿部粉碎骨折、右に関しては陳旧性の大腿頸部骨折との診断。後日、はり姫に入院し、手術となる。

・H様 1/11 PM12:45 右側臥位に転倒され確認時身体が硬直し、両手握られていた。唇が痙攣し呼吸状態が正常では無いようにみられ、意識レベルも薄い。頭部打撲、頸堆捻挫の可能性ある為、長久病院へ救急搬送。右眼瞼部5針縫合。CT検査の結果は、特に異常はない。

・K様 2/17 AM6:00 起床の更衣中、隣の居室の方のセンサーが鳴ったためベッド横にて座位の状態に本人様に少し待っていてほしいことを伝え本人様の側から離れ隣の部屋へ行った。隣の部屋から出できた際にドンと音がしたので訪室すると右側臥位に転倒されているご本人を発見する。痛みと外傷の確認をすると「右肩が痛い」と言われる。少し右まぶたが内出血

になっている様子。入江病院脳神経外科受診、CT実施、頭部内の出血や鼻の打撲等ない。入江病院整形外科受診、レントゲンにて右肩骨折あり、入院され後日再検査により左大腿骨転子部骨折が判明。

7. 令和5年度 退所者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
看取り介護	0	0	0	0	0	0	0
病院	1	1	1	1	1	1	6
急死	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0
合計	1	1	1	1	1	1	6
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
看取り介護	0	2	1	1	4	4	12
病院	0	1	1	3	0	0	11
急死	0	0	0	0	0	1	1
その他	1	0	0	0	0	0	1
合計	1	3	2	4	4	5	25

サンライフ土山ショートステイ

令和5年度 事業報告書

本年度は、新型コロナウイルスの感染の持ち込みは防ぎきれなかったが、最小限に留めることができ、比較的短期間で終息させることができた。ただその間、家族様に事情を説明するとほとんどの方が利用をキャンセルされ、大きく稼働率に影響した。また姫路市の実地指導により、9月から11月の定員超過を指摘されたことにより対応に追われることになり、以降の収入、稼働率の低下と影響があった。

機能訓練や余暇活動については、少しずつ行う頻度が増えてきているので、引き続き取り組んでいき、外出やおやつレクの実施へとつなげていきたい。

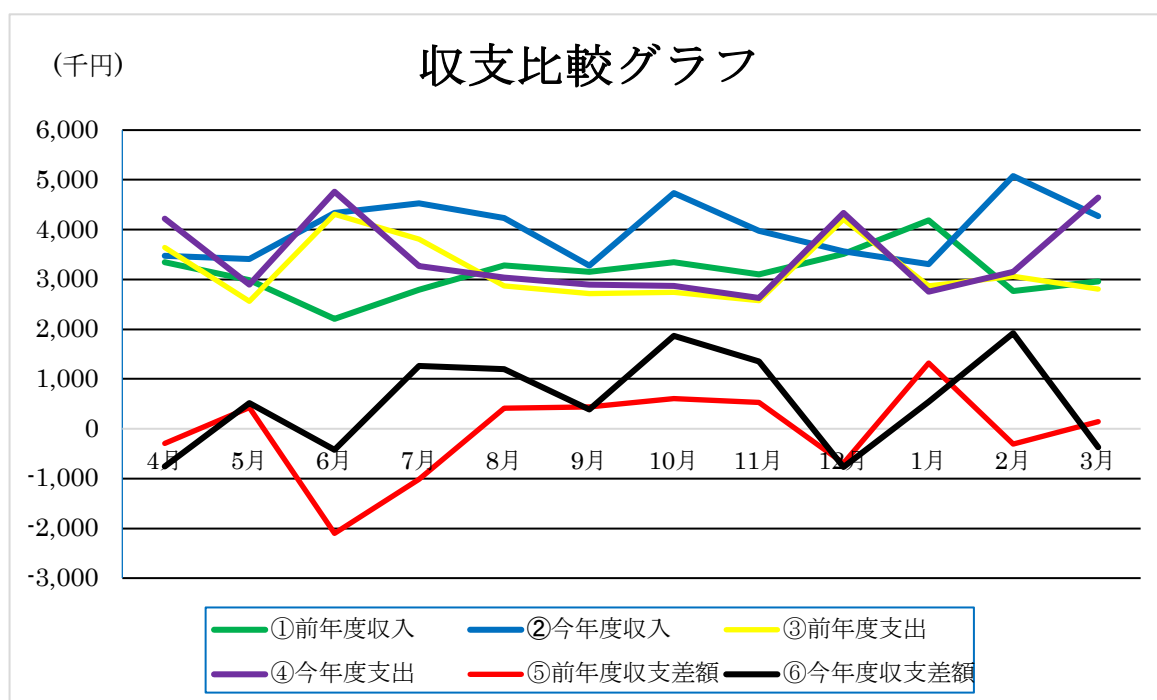
事故については、利用人数が増えたこともあるが、前年度に比べ2倍以上に増加してしまっている。特にロングショートの方の同じ事故を繰り返す傾向がある為、大きな事故につながらないよう、できる範囲での対策が必要である。また事故の際も含め、報告、連絡、相談がおろそかになったままである為、その点も引き続き指導していく。

収入面に関して、目標である稼働率98%は達成することができたが、定員超過分を引くと97.2%と目標を達成できていない。いかに定員超過をせずに稼働率を高く保つかが、次年度以降の課題である。また、上半期同様、短期、ロングともに急なキャンセルの際の穴埋めをスムーズに行うことができるよう努めていく。

1. 年間収支比較

(千円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計	比率
①前年度収入	3,351	2,987	2,208	2,792	3,282	3,151	17,771	—
②今年度収入	3,471	3,410	4,335	4,534	4,230	3,278	23,258	130.8
③前年度支出	3,647	2,561	4,309	3,806	2,874	2,710	19,907	—
④今年度支出	4,223	2,892	4,762	3,274	3,032	2,894	21,077	105.8
⑤前年度収支差額	-296	426	-2,101	-1,014	408	441	-2,136	—
⑥今年度収支差額	-752	518	-427	1,260	1,198	384	2,181	302.1
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	比率
①前年度収入	3,349	3,106	3,519	4,187	2,762	2,955	37,649	—
②今年度収入	4,735	3,975	3,563	3,301	5,077	4,270	48,179	127.9
③前年度支出	2,740	2,576	4,206	2,867	3,068	2,806	38,170	—
④今年度支出	2,868	2,628	4,331	2,760	3,157	4,642	41,463	108.6
⑤前年度収支差額	609	530	-687	1,320	-306	149	-521	—
⑥今年度収支差額	1,867	1,347	-768	541	1,920	-372	6,716	1,489



2. 令和4年度・令和5年度 利用人数比較 (人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
4年度実績	246	248	195	179	213	241	1,327
5年度実績	217	264	296	321	303	343	1,744
前年との差異	-29	16	101	142	85	102	417
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
4年度実績	247	250	264	264	240	213	2,805
5年度実績	362	379	242	315	290	321	3,653
前年との差異	115	129	-22	51	50	108	848

3. 令和4年度・令和5年度 宿泊人数比較 (人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
4年度実績	215	205	156	143	196	211	1,126
5年度実績	179	218	255	273	256	295	1,476
前年との差異	-36	13	99	130	60	84	350
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
4年度実績	220	224	232	226	205	177	2,410
5年度実績	315	334	220	277	263	287	3,172
前年との差異	95	110	-12	51	58	110	762

4. 令和4年度・令和5年度 月ごとの稼働率 (%)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
稼働率(4年)	82.0	80.0	65.0	57.7	70.3	80.3	
稼働率(5年)	72.3	85.2	98.7	103.5	97.7	110.6	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
稼働率(4年)	79.6	83.3	85.1	85.1	85.7	68.7	76.9
稼働率(5年)	116.7	126.3	78.1	101.6	100	103.5	99.5

5. 令和5年度年齢別・介護度別利用者数

	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
65歳未満							12 (2)	12 (2)
65歳以上～ 75歳未満				4 (1)	268 (20)	118 (7)	106 (4)	496 (32)
75歳以上～ 85歳未満		5 (1)	48 (19)	72 (21)	156 (26)	218 (15)	532 (24)	1031 (106)
85歳以上	4 (2)	57 (11)	631 (95)	399 (55)	442 (53)	461 (29)	123 (21)	2117 (266)
合計	4 (2)	62 (12)	679 (114)	475 (77)	866 (99)	797 (51)	773 (51)	3656 (406)

前半の数字は延べ日数、()内の数字は実人数を示しています

6. 令和4年度・令和5年度 事故件数比較

	A	B	C	合計
事故件数(4年)		1	24	25
事故件数(5年)	1		56	57

A：入院加療を要する事故 B：受診・通院を要する事故 C：受診・通院を要さない事故

R5年度

A 左足関節外踝骨折、左足脛骨遠端骨折

特別養護老人ホームサンライフ土山（医務）

令和5年度 事業報告書

R5年度は管理職・医務内でも大幅な人事異動があり、それに伴い、各事業所の長所を取り入れ、土山の改善点を定期的に提議・検討し積極的に改革を行った。

多職種と連携・協働し、安心・安全な医療・看護提供に重点を置き、看護師を各階担当制に変更することによりフロア滞在時間が増え、またユニット会議にも積極的に出席するなど介護士との連携を強化することができた。職員の体調管理についても相談しやすい環境づくりができ、適宜相談を受け必要時には受診をすすめ、時には付き添いも行った。

食事介助や嘱託歯科医院との連携等も強化する事により必要な食事形態の提供・誤嚥防止指導に積極的に取り組むことができた。医務内でも申し送り時間を設けることにより情報の共有・アセスメントすることができ、嘱託病院及び連携病院へ必要情報をより早く伝え対処できるようになった。

稼働率に貢献する為、ショートを受け入れ条件を再設定し、稼働率の上昇に努めた。

日々簡素化・効率化に留意しながら業務を行った。記録についても提議・検討を何度も行い日々の看護記録枚数を減少させることができた。利用者様の体調変化時にもすぐに受診が必要か1日経過観察可能か等を検討し、1日経過をみて必要時には受診するように変更することにより受診の件数を減らすことができ、また病院までの往復時間や待ち時間などをなくすことにより他の業務を行う事ができた。医務室内の必要書類の作成、分類、明確化を行うことにより業務の効率を上げた。陰部洗浄の時間の確保が以前からの課題であったが、洗い流さないタイプの洗浄剤を導入することにより業務の効率化を図った。便秘時には医務が毎回指示を出し便秘薬等配薬していたが、医師から便秘時の指示・指示薬を事前にもらいその旨記載した表と薬をフロアに配布することにより、介護士で管理することができ、介護職員・利用者様の都合に合わせて指示薬使用が可能となり、介護職員・看護師双方の業務の効率化につながった。処置車を2台に増やしたことにより同時に離れた2ユニットの利用者様の処置ができ（処置・移動時間・距離等）効率化ができた。医療用品の発注に関しても、やよいから関西医療へ変更することにより、依頼・発注の簡素化・効率化につながった。

職員や利用者様に度々、新型コロナウイルス感染やインフルエンザ罹患者が発生し他の業務が逼迫することがあった。施設内感染に対しても他職種間で問題提議・検討しマニュアルの改善・必要物品購入等を行った。

今後も感染予防・感染拡大予防ができ安心・安全な施設、そしてご家族様、利用者様目線に立ち不適切行為等がないよう日々責任と誇りを持った業務に心がけ、多職種と連携を強化し臨んでいきたい。

特別養護老人ホームサンライフ土山(厨房)

令和5年度 事業報告書

令和5年度は、新しいメニューを入れつつ、手間を省くために使用していた完全調理済み食品の使用頻度を下げ、できる限り手作りに努めた。しかし、物価高騰による食材の値上げにより単価の高い食材の使用頻度を下げた為、同じ食材を使用したメニューが増える結果になってしまった。生から冷凍に切り替えたり商品のメーカーを変えたり工夫もしたが、決められた栄養を満たさなければいけないことや安全に食事をするためには減らせないものもあり、食費の上昇を抑えることができなかった。

昨年、人員不足により調理を担当していなかった職員も調理に携わるようになった。その結果、メイン料理を担える職員が増え仕事の理解が深まったことで、次何をしたら良いか、何をしたら相手が助かるか等を考えられるようになり、仕事がスムーズに行えるようになったと思う。

厨房内の清掃については、十分な時間がとれなかった。

業務終了前のわずかな時間に少しずつ清掃は行ったが、フードや冷蔵庫のフィルター、壁等までは手が回らなかった。

月に2回程度清掃のできる日を作りたかったが、体調不良や怪我で休まれる等でなかなか思うように時間を作れなかった。

グリストラップ清掃については、年に2回業者に清掃を依頼し最低限の状態は保てるようになった。油が溜まっていくと詰まる恐れがあるため、自分たちでできる1層目のゴミ回収は月に1回確実にできるよう時間を確保したい。

厨房の体制づくりについては、昨年は1人でも長期で休んでしまうとシフトが回らない状態であったが、令和5年度は余裕はないが比較的安定した厨房運営が行えた。ただ、70歳を超えている職員も複数名いるため、体調・体力面の不安があり今後も同様に継続できるかは不透明なところもある。

また、消耗品の補充は管理栄養士が全て行っていたが、非常勤職員にも置き場所を伝え、なくなれば各自が補充を行えるようにした。

最後に、8月19日に労災事故が起きてしまった。

段ボール箱に躓いて転倒し、首を負傷した。いつも段ボール箱を置いている場所でもあるため本人の不注意もあるが、段ボール箱を置いていたことも原因と考えられる。

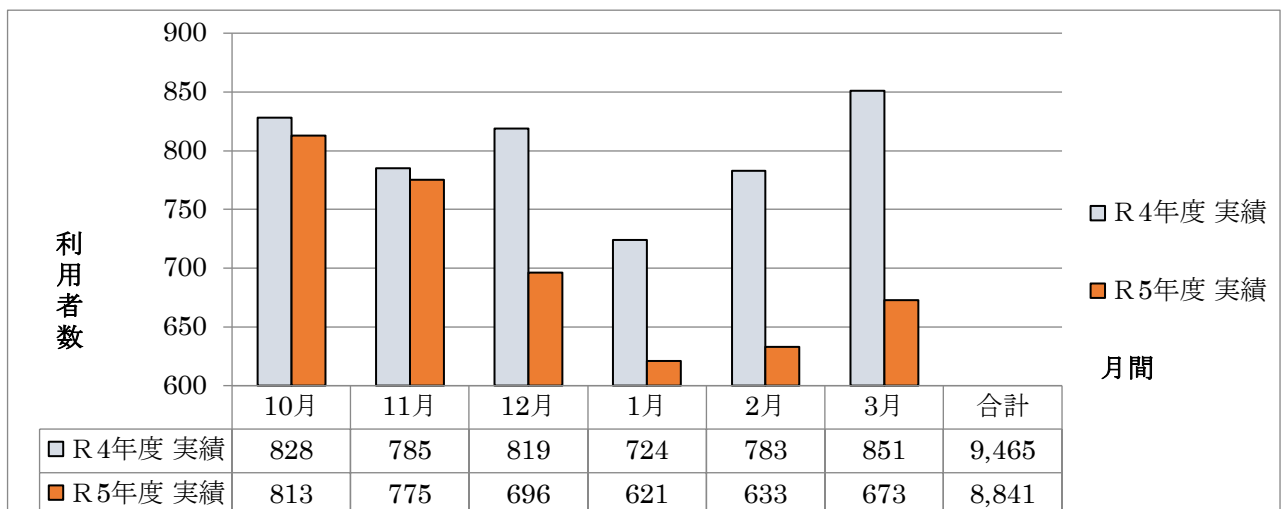
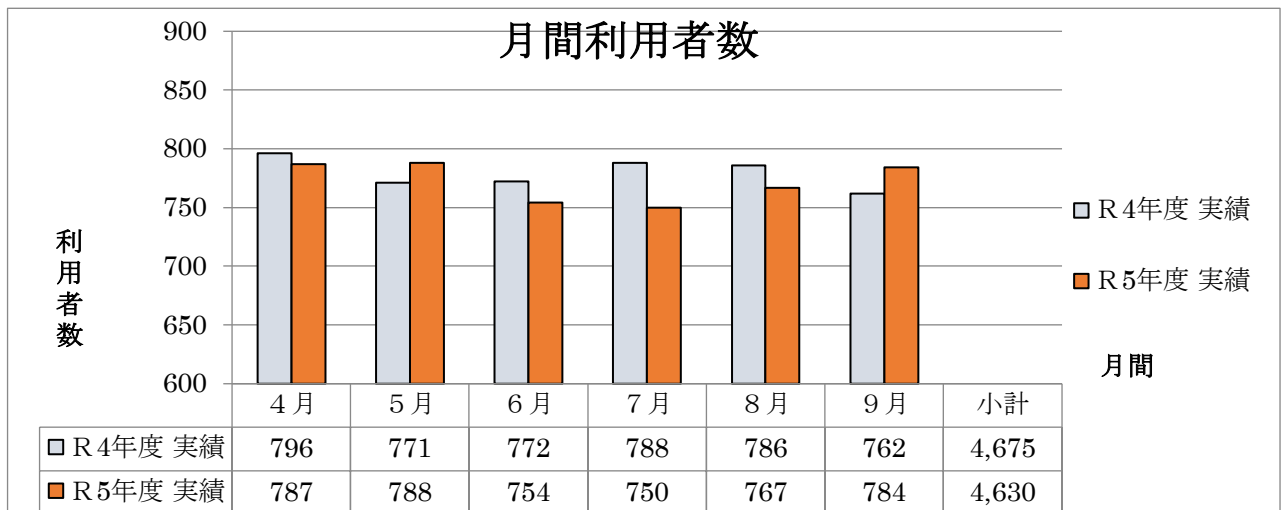
些細なことが大きな事故にもつながる為、整理整頓を心掛け同じ事故が起こらないよう、本人だけでなく周囲の職員にも注意を促した。

デイサービスサンライフ土山

令和5年度 事業報告書

感染対策を講じて事業を継続させることを最優先に、感染リスクを考慮しながら、コロナ禍でも安心してデイサービスをご利用いただけるよう努めた。これまでコロナ禍でできていなかった行事やイベント等を徐々に再開していった。外出レクや機能訓練を行い、意欲向上や残存能力維持に努めた。12月から入院者や利用中止者が合わせて11人になり利用人数減少となった。月平均利用者数28.4名となり、目標の31.6名を達成出来ず、収入増面ではわずかに減となったが支出面では前年度より人件費が抑えられる結果となった。結果収支差額は約8%増となっている。引き続き、介護支援専門員・他事業所との連携を図り、新規顧客の獲得に繋げていきたい。既存の利用者様においては、今後必要な感染対策を継続し、安心・安全に過ごしていただくことが出来るよう努めていきたい。

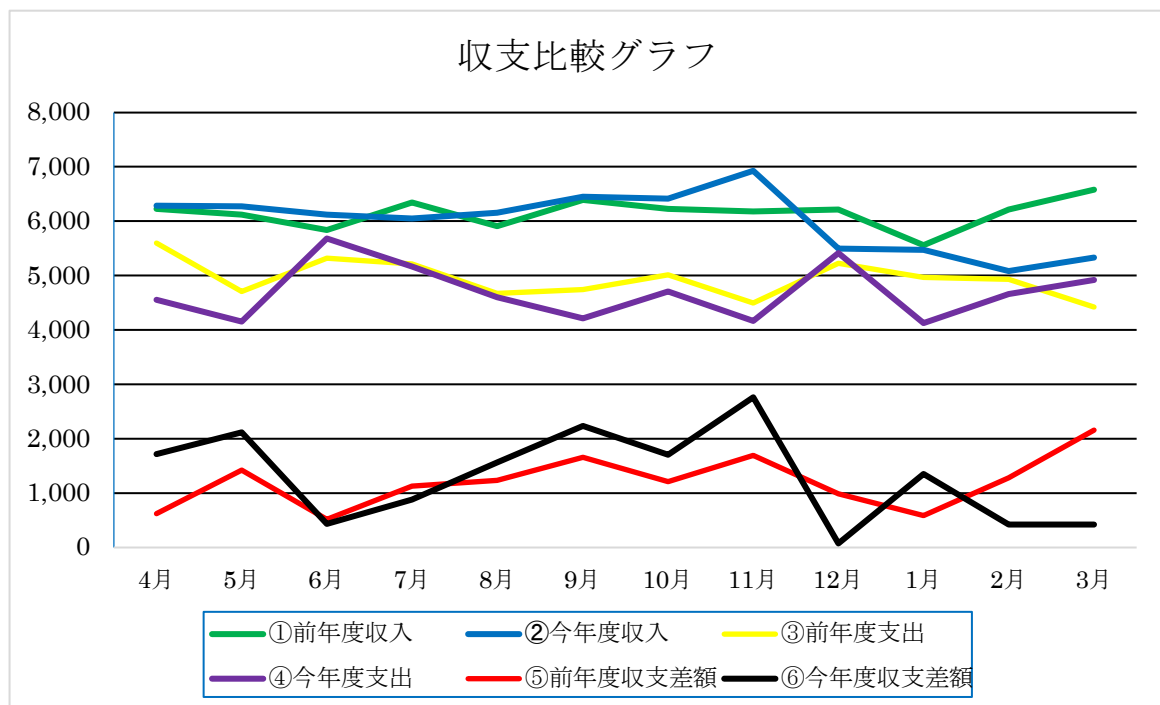
1. 利用者数



2. 年間収支比較

(千円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計	比率
① 前年度収入	6,226	6,125	5,844	6,346	5,913	6,397	36,851	—
② 今年度収入	6,283	6,278	6,120	6,054	6,162	6,453	37,350	101
③ 前年度支出	5,600	4,707	5,326	5,216	4,679	4,739	30,267	—
④ 今年度支出	4,560	4,157	5,684	5,169	4,598	4,215	28,386	94
⑤ 前年度収支差額	626	1,418	518	1,130	1,234	1,658	6,584	—
⑥ 今年度収支差額	1,723	2,121	436	885	1,564	2,238	8,967	136
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	比率
① 前年度収入	6,230	6,187	6,220	5,561	6,216	6,582	73,847	—
② 今年度収入	6,418	6,929	5,494	5,477	5,085	5,338	72,091	98
③ 前年度支出	5,021	4,498	5,229	4,968	4,936	4,423	59,342	—
④ 今年度支出	4,715	4,166	5,419	4,128	4,661	4,920	56,397	95
⑤ 前年度収支差額	1,209	1,689	991	593	1,280	2,159	14,505	—
⑥ 今年度収支差額	1,703	2,763	75	1,349	424	418	15,699	108



3. 年齢別・介護度別利用者数

	事業対象者	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
65歳未満									
65歳以上		58	71	178	142	7	115		571
75歳未満		(12)	(8)	(28)	(20)	(2)	(18)		(88)
75歳以上	92	81	462	900	405	349	185	20	2494
85歳未満	(11)	(21)	(61)	(89)	(30)	(31)	(27)	(5)	(275)
85歳以上		382	446	2085	1731	856	273	3	5776
		(87)	(61)	(210)	(136)	(74)	(38)	(1)	(607)
合計		521	979	3163	2278	1212	573	23	8841
		(120)	(130)	(327)	(186)	(107)	(82)	(6)	(969)

前半の数字は延べ回数、()内の数字は実人数を示しています

4. 職員充足度 (R6年3月現在)

職員 17名 (正職員 3名 非常勤看護師 3名 非常勤介護職員 11名)

個別機能指導員 (看護師) 1名含まない

	営業日数	利用者/月	職員総時間数/月	利用者/日	職員/日	職員一人対	職員/日	職員一人対
4月	25	787	2090.5	31.5	12.2	2.57	10.1	3.13
5月	27	788	2289	29.2	13	2.25	10.8	2.70
6月	26	754	2159	29	12.7	2.31	10.4	2.80
7月	26	750	2009	28.8	11.4	2.52	9.4	3.06
8月	26	767	1884	29.5	10.8	2.70	8.7	3.38
9月	26	784	2047.5	30.2	12	2.50	9.8	3.00
10月	26	813	2085.5	31.3	11.8	2.60	9.7	3.20
11月	26	775	1978.5	29.8	11.6	2.60	9.3	3.20
12月	26	696	1980.5	26.8	11.2	2.39	9.1	2.93
1月	25	621	2094.5	23.9	11.9	2.08	9.9	2.51
2月	25	633	1910.7	25.3	11.6	2.20	9.4	2.69
3月	26	673	2077.3	25.8	11.9	2.16	9.7	2.68

サンライフ土山居宅介護支援事業所

令和5年度 事業報告書

令和5年度は、職員の異動により上期は大幅に売り上げ減となった。新規利用者獲得の為、毎月営業活動を行い下期は徐々に利用者も増え、営業活動の結果が出ている。新規依頼は、要支援の利用者が多いが、地域包括支援センターとの連携により、要介護者の新規依頼も確実に増えてきている。困難事例であっても、各事業所・地域包括と連携し解決出来るよう、事業所全体で取り組みを行なってきた。今後も地域で必要とされ信頼される居宅介護支援事業所になるよう、介護支援の専門職である意識し、営業活動に取り組んでいくと共に、利用者のニーズに沿ったプランが提供できるように継続して取り組みを行なう。

1. 営業・新規獲得実績

(単位：件)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
営業実績	12	12	8	16	7	7	62
新規獲得	12	12	5	8	6	1	44
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
営業実績	5	7	8	8	6	7	103
新規獲得	4	6	6	2	2	5	69

2. 居宅介護料収入

(単位：千円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
令和4年度	881	852	813	897	779	933	5155
令和5年度	789	770	747	858	832	722	4718
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和4年度	856	956	957	989	967	1000	10880
令和5年度	938	917	948	856	823	861	10061

3. 予防委託料収入

(単位：千円)

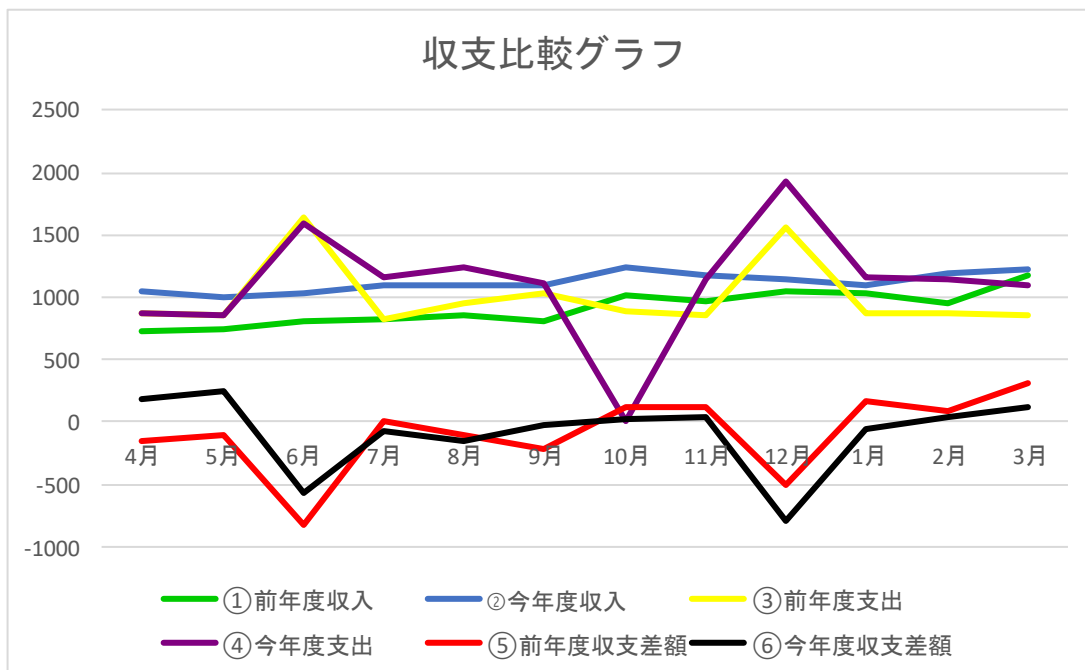
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
令和4年度	136	132	117	157	177	184	903
令和5年度	183	204	198	205	217	243	1250
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和4年度	215	174	170	175	192	187	2016
令和5年度	233	214	210	198	210	220	2535

4.年間収支比較

(千円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計	比率
① 前年度収入	1118	1137	1047	1142	1059	1239	6742	
② 今年度収入	1075	1005	997	1118	1132	1053	6380	94.6
③ 前年度支出	1894	935	2111	930	966	973	7809	
④ 今年度支出	1078	1014	1946	1542	1017	1026	7626	97.6
⑤ 前年度収支差額	-776	202	-1064	212	93	266	-1067	
⑥ 今年度収支差額	-3	-9	-949	-424	115	27	-1246	101.6

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	比率
① 前年度収入	1143	1230	1224	1299	1273	1311	14222	
② 今年度収入	1286	1191	1245	1149	1120	1175	13546	95.2
③ 前年度支出	977	947	1823	982	1524	1524	15046	
④ 今年度支出	1042	1012	1867	982	945	2297	15771	104.8
⑤ 前年度収支額	166	283	-599	317	-251	-213	-824	
⑥ 今年度収支額	244	179	-622	167	175	-1122	-2225	207.0

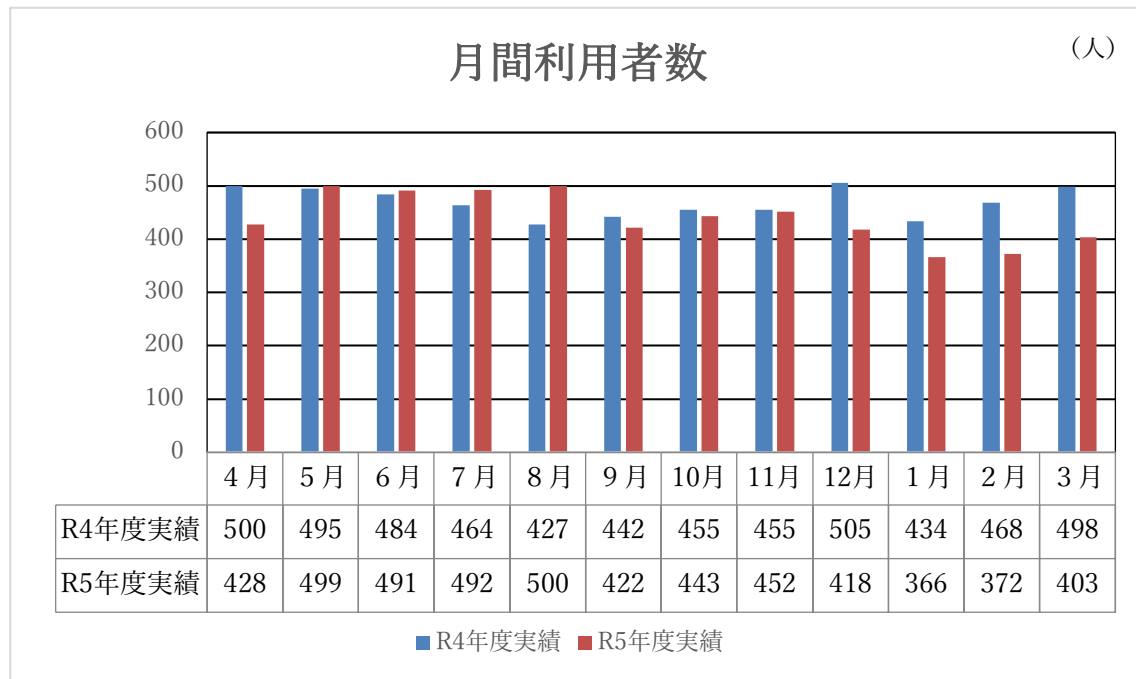


リハビリデイサービス サンライフ御立西

令和5年度 事業報告書

令和5年度経営スローガン「足腰頭と心を鍛えて、いつまでも元気に楽しく過ごす」をもとに、理学療法士による個別リハビリに加え、ご利用者から人気のレッドコードを活かし、身体機能の維持・向上を目指し、在宅生活を継続出来るよう支援した。また、季節を感じられる外出レクやボランティアによる創作活動、個別レクを通し、社会参加機会の少ないご利用者の気分転換や意欲の向上に繋げることが出来た。収入面では8月に発生した施設内でのコロナクラスターにより営業休止となってしまった為、引き続き必要な感染対策を実施し再発防止に努めたが、下半期は新規獲得するも週の利用回数の多いご利用者の入院や利用中止が重なり、月平均利用者数17.1名となり、目標の19.2名を達成出来ず大幅な収入減となった。支出面では修繕費や車両購入等経費は増加となったが、人件費、水道光熱費の削減によりわずかな支出減となった。引き続きリハビリテーションの充実など特色を活かした宣伝活動を行うことで新規利用者の獲得に努め、利用者増を目指す。ご利用者、ご家族からの要望や意見を傾聴し、問題点や改善点の発見に努め、迅速に対応することで信頼関係を構築し、継続利用に繋げていきたい。

1. 利用者数



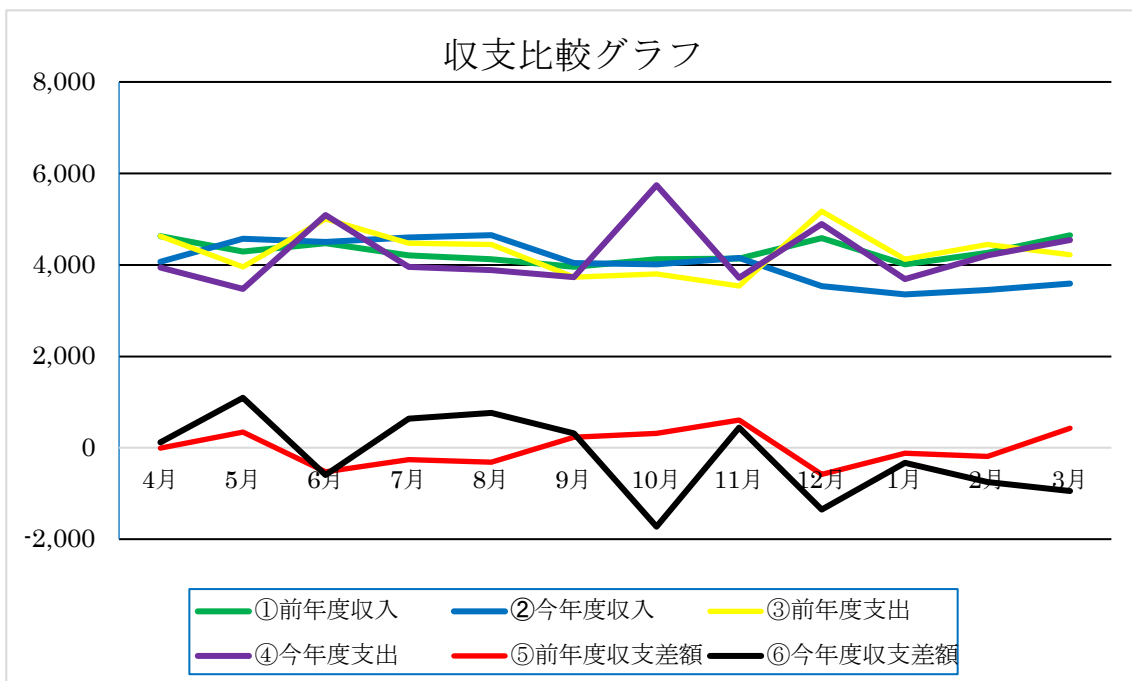
令和4年度実績 5,627人 令和5年度実績 5,286人 前年度比 93.9%

2. 年間収支比較

(千円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計	比率
① 前年度収入	4,622	4,296	4,479	4,205	4,126	3,957	25,685	—
② 今年度収入	4,063	4,565	4,499	4,595	4,649	4,040	26,411	102.8%
③ 前年度支出	4,624	3,961	5,003	4,472	4,444	3,728	26,232	—
④ 今年度支出	3,940	3,473	5,092	3,959	3,884	3,726	24,074	91.8%
⑤ 前年度収支差額	-2	335	-524	-267	-318	229	-547	—
⑥ 今年度収支差額	123	1,092	-593	636	765	314	2,337	—

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	比率
① 前年度収入	4,124	4,143	4,589	4,004	4,256	4,646	51,447	—
② 今年度収入	4,015	4,156	3,532	3,353	3,453	3,594	48,514	94.3%
③ 前年度支出	3,806	3,538	5,172	4,123	4,440	4,214	51,525	—
④ 今年度支出	5,742	3,715	4,891	3,682	4,209	4,536	50,849	98.7%
⑤ 前年度収支差額	318	605	-583	-119	-184	432	-78	—
⑥ 今年度収支差額	-1,727	441	-1,359	-329	-756	-942	-2,335	—



3. 年齢別・介護度別利用者数

	事業対象者	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合計
65歳未満						57 (7)	91 (10)	20 (1)	168 (18)
65歳以上 75歳未満			92 (11)	64 (8)	103 (14)	151 (21)	3 (2)	13 (2)	426 (58)
75歳以上 85歳未満		125 (34)	445 (69)	975 (115)	522 (68)	267 (33)	107 (14)		2441 (333)
85歳以上		125 (30)	511 (69)	1007 (112)	501 (71)	98 (12)	8 (2)	1 (1)	2251 (297)
合計		250 (64)	1048 (149)	2046 (235)	1126 (153)	573 (73)	209 (28)	34 (4)	5286 (706)

前半の数字は延べ回数、()内の数字は実人数を示しています

4. 職員充足度 (R6年3月末現在)

職員 16名【内訳】正職員 3名 非常勤職員 13名

							個別機能指導員 1名含まない	
	営業 日数	利用者/月	職員総時間数 /月	利用者/日	職員/月	職員一人 対	職員/月	職員一人 対
4月	25	428	1,472	17.04	8.8	1.9	7.8	2.2
5月	27	499	1,450	18.48	8.6	2.1	7.6	2.4
6月	26	491	1,503	18.85	8.9	2.1	7.9	2.4
7月	26	492	1,359	18.88	8.1	2.3	7.1	2.7
8月	26	500	1,490	19.23	8.9	2.2	7.9	2.4
9月	24	422	1,353	17.59	8.1	2.2	7.1	2.5
10月	26	443	1,456	17.04	8.2	2.1	7.2	2.4
11月	26	452	1,484	17.38	8.7	2.0	7.7	2.3
12月	26	418	1,408	16.08	8.0	2.0	7.0	2.3
1月	25	366	1,331	14.64	7.5	2.0	6.5	2.3
2月	25	372	1,354	14.88	8.1	1.8	7.1	2.1
3月	26	403	1,358	15.50	8.1	1.9	7.1	2.2

特別養護老人ホームサンライフ西庄

令和5年度 事業報告書

外国人労働者・リーダー・個々の職員の専門性を向上し、考え、行動できる自立した職員を育成することに努力をしてきた。また、新型コロナウイルスが2類から5類へ移行したため家族との面会や連携及びリストランテ・ヴォーノによる地域貢献を再開している。1月と3月に新型コロナウイルスの持ち込みがあったが感染対策で拡大を抑制できた。広域型ユニット型施設の全国人員配置基準（1：1.65）を目指し人員増加に努めたが外国人労働者の退職等で3月末時点で（1：1.88）と足りていない。また、電気代・ガス代・食材費などの高騰が続いている為、節約委員会を開きムダを省き対策を行うことで一定の成果が得られた。

1. 収入の確保と支出

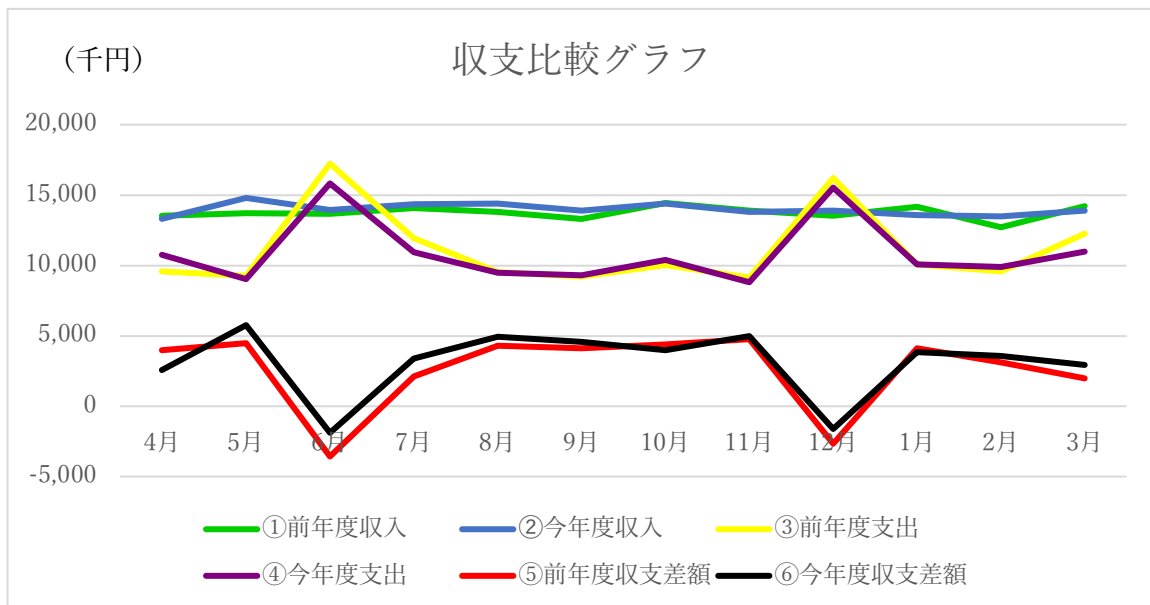
前年度は新型コロナウイルス感染者を受け入れたことや長期利用者の看取りによる退所が多かったことで新規受け入れが上手くいかず稼働率が97%であったが、今年度は98%を確保できた。また、看護体制加算Ⅱが算定できたことにより260万円ほど収入は増加している。支出面として、電気代が高騰する中、節約委員会を立ち上げ、施設全体で節電や節ガス、節水を行うことで光熱費が前年よりも約90万円程削減できた。防災食の入れ替え等で食材費は12万円程増加している。昨年は特定技能実習生や技能実習生を3名受け入れたことにより業務委託費や管理費で高額な支出があったが今年度は約50万円程減少している。収支差額としては約600万円の増加となっている。

I. 年間収入差額

●令和5年度年間収支 （単位:千円）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計	比率
①前年度収入	13,538	13,727	13,663	14,077	13,819	13,308	82,132	-
②今年度収入	13,310	14,797	13,942	14,361	14,413	13,879	84,704	103.1
③前年度支出	9,559	9,256	17,234	11,956	9,532	9,188	66,725	-
④今年度支出	10,762	9,037	15,828	10,953	9,497	9,299	65,379	97.9
⑤前年度収支差額	3,979	4,471	-3,571	2,121	4,287	4,120	15,407	-
⑥今年度収支差額	2,547	5,760	-1,886	3,407	4,916	4,579	19,325	125.4

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	比率
①前年度収入	14,437	13,902	13,532	14,188	12,713	14,236	165,141	—
②今年度収入	14,381	13,797	13,914	13,586	13,468	13,914	167,767	101.5
③前年度支出	10,051	9,138	16,193	10,070	9,591	12,275	134,044	—
④今年度支出	10,385	8,808	15,522	10,070	9,898	10,983	130,703	97.4
⑤前年度収支差額	4,386	4,764	-2,661	4,118	3,122	1,961	31,097	—
⑥今年度収支差額	3,996	4,992	-1,608	3,858	3,570	2,931	37,064	119.1



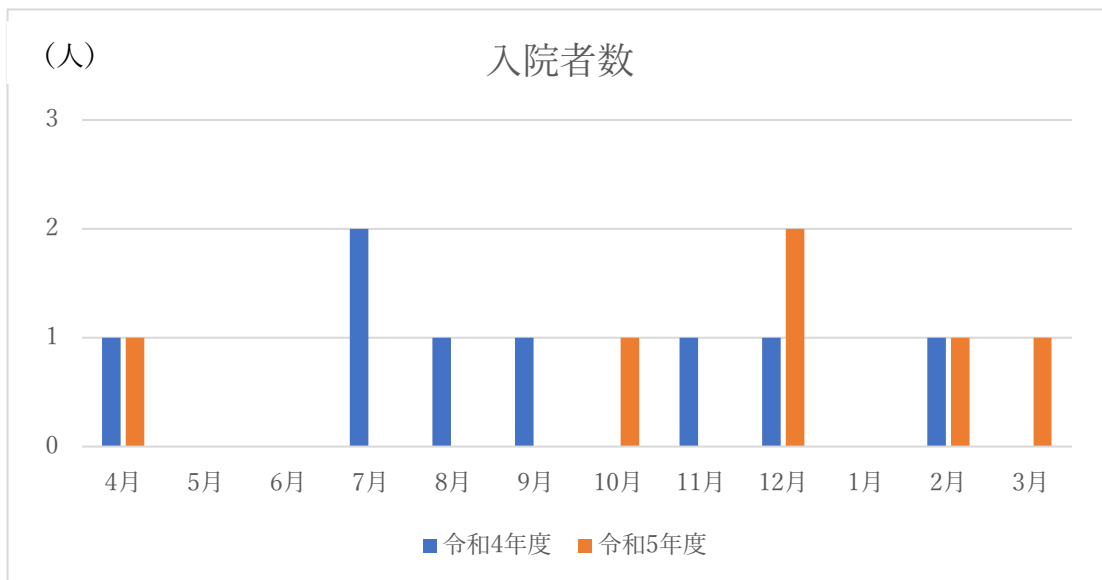
II. 入院者数

入院者数については、前年度が8名であったが今年度は6名となった。内容としては、てんかん発作、薬の調整、胆嚢炎、肺炎、コロナ肺炎による重症化となっている。それ以外の方は往診医の指示のもとに施設内で行う処置で健康管理が行えている。

●入院者数

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
令和4年度	1	0	0	2	1	1	5
令和5年度	1	0	0	0	0	0	1
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和4年度	0	1	1	0	1	0	8
令和5年度	1	0	2	0	1	1	6



2. 外国人労働者の能力の向上

I. 全ての勤務実施

外国人労働者に限らず、リーダー及びチューターが利用者毎、介助毎に「やって見せ」「やらせてみて」最後に両者からのチェックして合格していく。このような指導で入居者様の介助項目が一人で出来るようになり、安全で安心な介護提供が出来るようにしている。

ただ、緊急時の対応研修を実施しているが、電話対応等コミュニケーション能力に不安がある為、1フロア19名の利用者を1人で担当する夜勤はまだ勤務できていない。

II. 居室担当・ケアプラン作成

今年度受け入れた特定技能実習生2名については、1ヶ月毎に習得して貰う項目をチェックリストとしてリーダー外国人労働者に渡し、1～2週間毎にそれぞれが評価し何が出来ていて何が出来ていないかを擦り合わせを行い指導に当たっている。生活や語学支援についてはパソコンや教材を支給し日本語教室への参加が適う環境を整え、日本での生活や仕事に困らないようにしている。前年度受け入れた特定技能実習生、技能実習生については、日本語能力が向上してきており居室担当を日本人職員と共同で担当しフォローしながら対応している。ケアプランを含めまだ完全には独り立ちできていない状況にある。N2試験を合格した者については介護福祉士の勉強会への参加を勧めている。

III. 感染対策の強化

感染症委員会が主体となり、全職員にガウンテクニックの指導とチェックを行い、感染対応が不十分な職員（日本人を含む）が合格するまで指導、チェックをしているところにある。

令和6年1月に利用者1名職員3名が、令和6年3月に利用者9名職員5名が新型コロナウ

ウイルスに感染したが、フロアを隔離し感染対策を実施することで感染拡大を防止できた。

3. 生産性向上の取組み

施設長、生活相談員、ユニットリーダー2名がトヨタ生産方式による生産性の向上の取組みの研修を受け、業務の3ムダラリを無くしていく為、5S活動や改善活動に取り組んでいる。QC活動では食事準備の時間と後片付けの時間短縮についての活動を開始している。また、10月からはパッドの種類、料金が変更となっている為排せつ管理についても見直しを行いたい。

4. BCPについて

感染症BCPに加え、自然災害用BCPを作成している。水災害による避難訓練は実施できているが地震についてはまだ避難訓練が行えていない為。非常災害時にもサービスを継続して提供できるよう適宜変更及び訓練を実施していきたい。感染症については2階・3階ともにコロナ感染者が発生した際に感染対応を実践することで訓練の代用が出来ている。

5. 地域貢献

感染状況を勘案の上、運営推進会議を2か月に1回開催、子ども食堂を月1回20名定員で開催している。こども食堂については賑やかに開催しているが、8月開催時は夏休みであったためか子供が3名しか参加が無かったため来年度は8月を中止する方向で考えている。親子で参加される方が増えている。

6. 事故について

事故防止委員会で各ユニットごとに目標を立て事故予防に取り組んだ。令和5年度で一番多い事故は転倒事故で149件。いずれも自ら動こうとして低酸素やパーキンソン病による薬が切れてオフ状態となり転倒したような致し方ない事故が多く締めている。次いで表皮剥離が25件となった。皮膚の弱い方が身体を搔いての剥離事故や、転倒事故の際に手すり等で剥離してしまった内容が多く締めている。リスク回避が適わない場合にはリスクの低減を考えるようにしている。

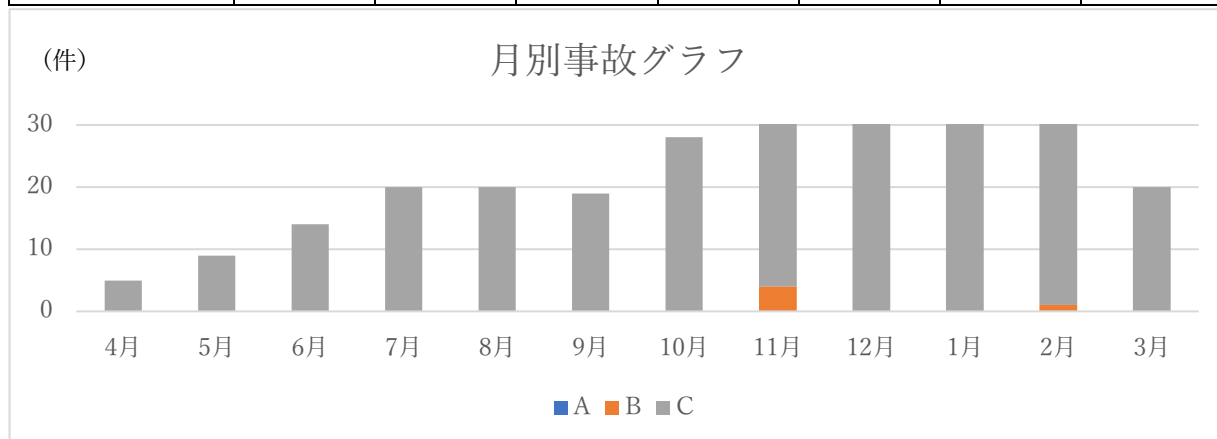
●事故件数

(単位：件)

令和5年度事故件数

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
総数	5	9	14	20	20	19	87
A	0	0	0	0	0	0	0
B	0	0	0	0	0	0	0
C	5	9	14	20	20	19	87
月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
総数	28	37	38	56	38	20	304
A	0	0	0	0	0	0	0
B	0	4			1		5

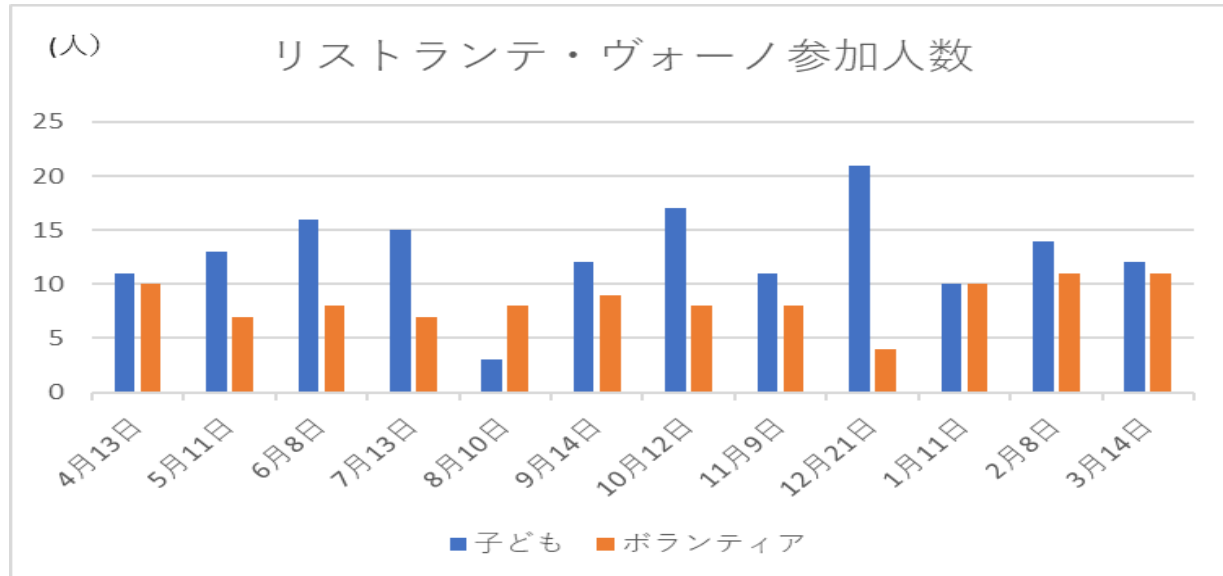
C	28	33	38	56	37	20	299
---	----	----	----	----	----	----	-----



- Aの事故は入院を要する事故
- Bの事故は通院を要する事故
- Cの事故は通院を要しない事故

リストランテ・ヴォーノ参加状況 (人)

	4月 13日	5月 11日	6月 8日	7月 13日	8月 10日	9月 14日	10月 12日	11月 9日	12月 26日	1月 11日	2月 8日	3月 14日
人数 子ども	11	13	16	15	3	12	17	11	21	10	14	12
人数 ボランティア	10	7	8	7	8	9	8	8	4	10	11	11



サンライフ西庄ショートステイ

令和5年度 事業報告書

令和5年度は、職員一人ひとりが考え行動できる人づくりを強化する為、外国人職員・リーダー・個々の職員が考え、行動することにより職員の持つ専門性を向上させ、入居者様一人ひとりに目を向けたサービス提供に繋がるように努めた。また、コロナが5類となることにより家族との面会や連携を再開した。光熱費・食材費などの高騰が続いている為、節約委員会を開き、ムダを省けるよう対策を行った。

1. 収入の確保と支出

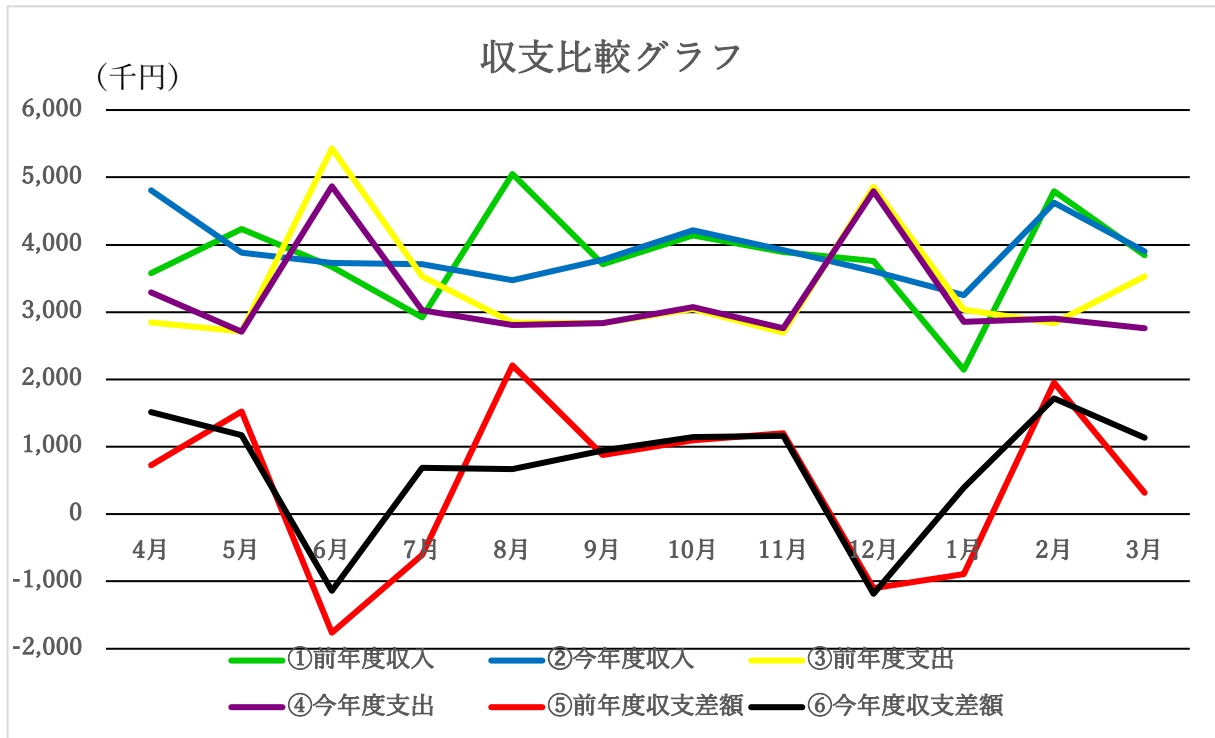
今年度の入所率は98.1%にて目標である入所率98%以上は達成できた。今年度はロングショートから特養入所された後の新規入所までに時間がかかり、ロングショート利用の方の入院にて空床がみられた。

収入面に関しては前年度に比べると利用者の介護度の変更により、令和4年度の収入が令和5年度に入った為、約115万円増加となっている。支出面としては節約委員会を開催することで光熱費が約25万円減り、業務委託費が約42万円、その他経費が約46万円減っている。特定技能生の受け入れ人数の増加により、くすのき管理費約20万円、パットやオムツ代の高騰で介護用品が約2万円、防災食の入れ替えや食材の高騰により食材費が約5万円増加している。今後もムダを省き節約に努めていきたい。収支差額としては約268万円の増加となっている。

●令和5年度年間収支

(単位：千円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計	比率 (%)
① 前年度収入	3,577	4,235	3,668	2,924	5,050	3,706	23,160	—
② 今年度収入	4,808	3,883	3,731	3,707	3,468	3,779	23,376	100.9
③ 前年度支出	2,849	2,708	5,430	3,534	2,842	2,832	20,195	—
④ 今年度支出	3,295	2,708	4,867	3,023	2,804	2,834	19,534	96.7
⑤前年度収支差額	728	1,527	-1,762	-610	2,208	874	2,965	—
⑥今年度収支差額	1,512	1,175	-1,135	683	663	944	3,844	129.6
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	比率 (%)
① 前年度収入	4,140	3,891	3,759	2,143	4,790	3,846	45,729	
② 今年度収入	4,212	3,921	3,606	3,251	4,620	3,897	46,883	102.5
③ 前年度支出	3,046	2,694	4,863	3,036	2,839	3,528	40,201	
④ 今年度支出	3,073	2,759	4,790	2,855	2,902	2,763	38,676	96.2
⑤前年度収支差額	1,094	1,197	-1,104	-893	1,951	318	5,528	
⑥今年度収支差額	1,139	1,162	-1,184	396	1,718	1,134	8,207	148.4



2. 外国人職員の能力向上

I. 全ての勤務実施

昨年就職した特定技能生は全ての勤務に入れるようにすることを目標にしていたが、コミュニケーション能力に不安が見られたり、特養への異動があり、予定通りに出来なかった。また、新しく7月に特定技能生が入職し、現在早出と遅出は一人で勤務が出来ている。

また、他の職員も含め緊急時の対応については確実な対応は難しい状況。

II. 居室担当の実施・ケアプラン作成

ショートステイ職員も4月から特養に移る方のケアプランの原案作成を実施し、特養職員に引継ぎができた。

昨年入職した外国人職員に居室担当を決め、日本人職員がサブに6ヵ月入るようにし、10月からは居室担当として独り立ちさせる予定だったが、特養への異動があり、予定通りに出来なかった。

III. 感染対策の強化

感染症委員会が主体となって、チェック月を決めて各ユニット職員のガウンテクニックの指導とチェックを行った。しかし、チェックをして合格しても日にちが経つと手順を忘れてしまっている職員がいた。

また、同じユニット職員のチェックばかりでなく、隣ユニット職員のチェックも行ったが職員同士だとチェックの合格基準が甘くなることがあった。

実際に3月にコロナ感染が起こり、職員2名と利用者1名が感染した。ガウンテクニックが全員合格できていない状態で感染対応をしないといけない状態であった。

3. リーダー担当者のチェック体制の向上

I. 業務バラツキの管理

職員間で業務のバラツキが見られる為、ユニットで統一できるようにOJTやQC活動を通して業務改善に取り組んだ。自己流で行うのではなく、ユニットで決められたことが守れ、統一した業務ができるという課題がある。

II. 誉め、そして注意しあえる環境づくり

退勤時間についてはお互いに声を掛け合うことで定時退勤が守れている。

III. 自分で考え、実行させる

ユニット会議では一人ひとりが自分の意見を出し合い話し合いができています。

IV. 居室担当・委員会担当の強化

委員会は施設長や相談員中心から委員長を中心に開催内容や進行を行う形式に変更できている。また、各委員会の職員が施設内研修を30分程度で実施している状況。また、居室担当についても担当入居者の1日及び週間スケジュールを作成していく予定だったが、まだ出来ていない。

4. 生産性向上の取組み

トヨタ生産方式の研修にユニットリーダー1名を参加させ、生産性向上の取組みの研修を受け、業務改善や5S活動に取り組んだ。5S活動によりユニット内やフロアーが整理整頓された。継続できるようにしていきたい。

また、10月よりパットの種類や金額が変更となり、パットの大きさや排泄時間の見直しを行った。

5. 自然災害BCP作成

感染症のBCPは作成し、自然災害BCPも作成できている。非常災害時にもサービスを継続して提供できるよう必要な訓練を行っていきたい。水災害による避難訓練も実施できている。

6. 事故について

一年間の事故件数は41件あった。一番多かった事故は転倒事故で13件、次いで多かった事故は服薬ミス（誤薬含め）による12件であった。転倒事故については12月に独歩の方が徘徊され転倒し骨折された為、入院を要する事故が1件あった。服薬ミスは服

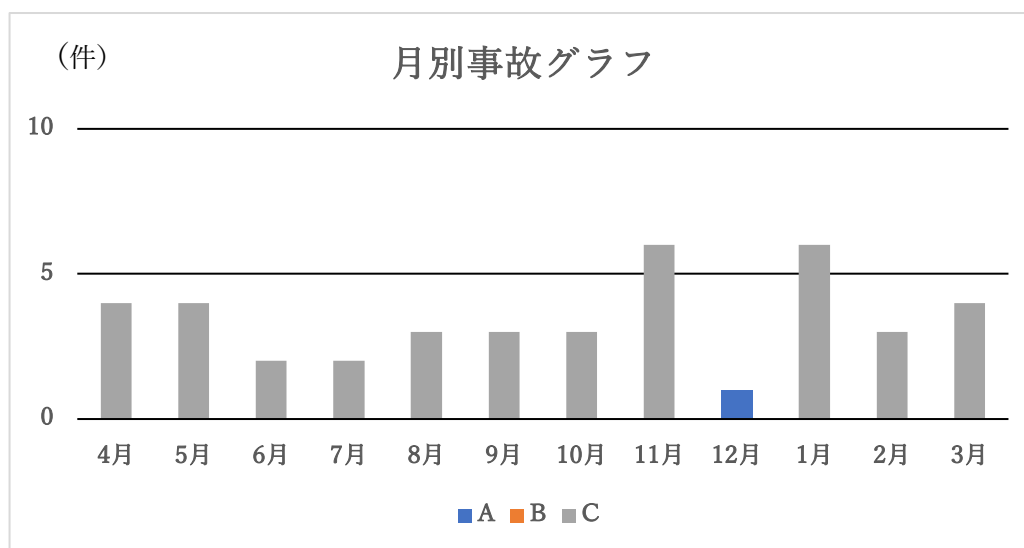
薬介助した後に飲み込み確認が出来ておらず口腔内から落薬していることがあったり、他者の薬を間違えて服薬介助させてしまったことがあった。

服薬介助の方法を再度確認し、同じ事故を起こさない、薬の間違いは危険なことと意識し、安全に介助ができるよう徹底していく。

●事故件数

(単位：件)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
総数	4	4	2	2	3	3	18
A	0	0	0	0	0	0	0
B	0	0	0	0	0	0	0
C	4	4	2	2	3	3	18
月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
総数	3	6	1	6	3	4	41
A	0	0	1	0	0	0	1
B	0	0	0	0	0	0	0
C	3	6	0	6	3	4	40



グループホームサンライフ西庄

令和5年度 事業報告書

日課としてラジオ体操や口腔体操、足の運動で身体を動かしたり「役割」を持ちながら職員と一緒に洗濯物を干したり畳んだり、食器洗い、台拭き等などを行い個々の残存機能を活かしながら元気に楽しく過ごしている。外出や散歩の機会を増やしながらか気分転換や刺激により認知症の進行を緩和していくように務めている。

1. 収入の確保と支出

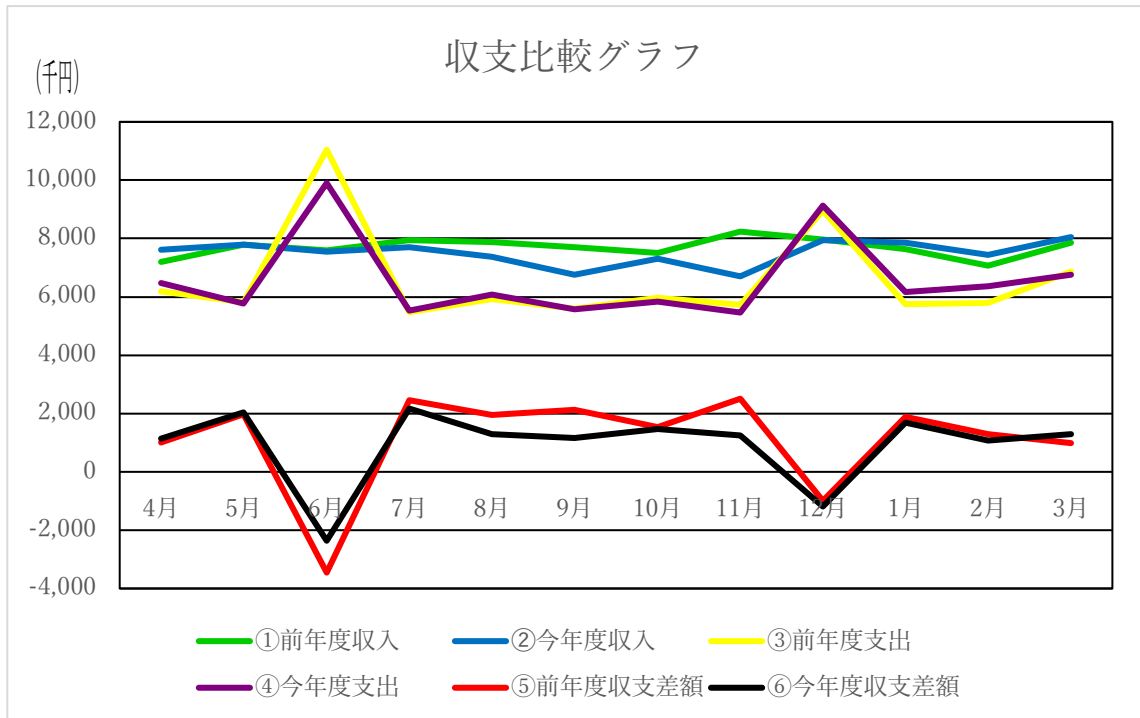
今年度の目標設定稼働率 98%以上に対して 95.1%だった。収入に関しては5月から11月末までの間、入院や退居が続き満床状態の維持が出来なく、昨年度に比べ268万円減少した。負担割合、介護度の高い方の退所や、新規入居も待機者とのタイミングが合わず入居とならなかった。支出は前年度と変わらなかったが、退職金掛金200万円、手当、賃金アップ、その他人員基準で計画作成担当者の人員配置の変更により2ユニットで832時間分(88万円)の人員配置が必要となった。人員確保での派遣費130万円、その他としてパソコン2台37万円、居室の洗面トイレ各12万円、ナースコール7万円などの修理があり、収支差額としては前年度に比べ約254万円減少となった。

I、年間収入差額

●令和5年度年間収支

(単位：千円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	合計	比率 (%)
①前年度収入	7,195	7,787	7,592	7,936	7,875	7,710	46,097	
②今年度収入	7,625	7,801	7,540	7,568	7,371	6,750	44,675	96.90%
③前年度支出	6,184	5,818	11,046	5,475	5,933	5,586	40,042	
④今年度支出	6,482	5,770	9,902	5,539	6,085	5,583	39,361	98.29%
⑤前年度収支差額	1,011	1,969	-3,454	2,461	1,942	2,124	6,055	
⑥今年度収支差額	1,143	2,031	-2,362	2,170	1,286	1,167	5,435	89.76%
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	比率
①前年度収入	7,508	8,237	7,966	7,634	7,070	7,861	92,373	
②今年度収入	7,032	6,704	7,939	7,852	7,436	8,050	89,688	96.7%
③前年度支出	5,964	5,729	8,953	5,748	5,784	6,878	79,098	
④今年度支出	5,843	5,462	9,129	6,168	6,356	6,754	79,073	99.90%
⑤前年度収支差額	1,544	2,508	-987	1,886	1,286	983	13,275	
⑥今年度収支差額	1,460	1,242	-1,190	1,684	1,080	1,296	10,736	80.88%



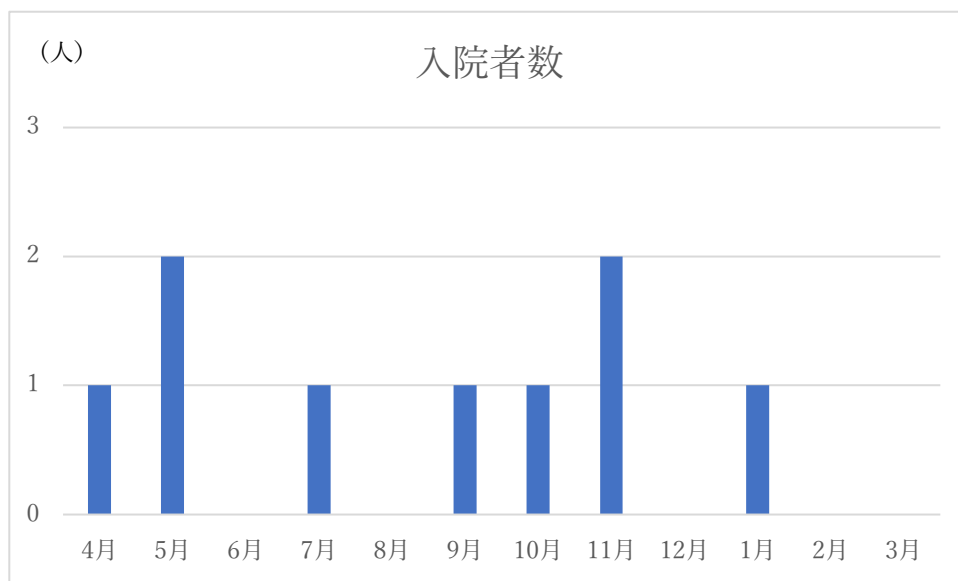
II. 入院者数

入院者数については、前年度は入院者が1名だったが、今年度は9名であった。骨折による入院と心不全が2名、その他同じ入居者が胆管炎・腎不全で2度入院している。家族様のグループホームへ戻りたいとの思いから早期から退院調整が出来た方もいるが、入院後亡くなられた方もいる。入院中にADLや嚥下機能の低下、認知症の進行が見られる為、今後も長期の入院とならないように家族様や病院との連携を図っていく。

入院者数

入院者数 (単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
令和5年度理由	1 胆管炎	2 大腿骨骨折	0	1 心不全	0	1 腎不全	5人
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和5年度理由	1 総胆管結石	2 胆管結石	0	1 再手術(胆管)	0	0	9人



2. 入居者様や家族様との信頼関係の構築

事業所だよりや手作りの葉書などで家族様に入居者様の施設での様子を知っていただいた。家族様からの「ありがとう」や「(入居者様の元気な様子が知れて) 嬉しい」との言葉をいただけることが職員のやりがいの一つになっているが、第三者評価の家族様アンケートの中に、「現場が見えて来ない」との意見もある。それに向け本来のグループホームらしく家族様の居室への訪室を、感染症に留意しながら再開する方向でユニット会議など、意見を聞きながら検討する。

3 レクリエーションや余暇活動の充実

感染症対策や隔離対応などにより中止となったレクリエーション企画もあったが、風鈴やしおりなどの工作、桜や蓮のお花見ドライブ、手作り餃子や紫陽花ゼリー作りなど季節を感じていただき、脳の活性化となるようなレクリエーション活動を行った。誕生会や敬老会等のユニット間交流などにより、入居者様同士の「顔馴染みの関係」も継続出来ている。さらに散歩や近隣への買物など、楽しみの機会が増えるよう個別の支援を増やして入居者様の生活の活性化を図っていく。

4 感染症対策の継続と自然災害 BCP の作成

感染症 BCP 訓練ではコロナ陽性者発生時の初動対応のディスカッションやゾーン分けのシミュレーションを行った。ガウンテクニックも月2回行っていたが、2月に職員1名から始まりクラスター発生となり最終、職員3名入居者16名の感染となった。実際に入居様が感染すると、随時変わっていく対応に困惑することが多くあった。自然災害訓練ではどの情報を見て初動にかかるか、どの物品が必要か考えながら物品を上へ上げる訓練を行った。職員間での情報共有や連絡手段を改善して緊急時に備えていく。ま

た、研修や訓練、委員会で改善点を見つけ業務継続ガイドライン（BCP）の見直しをしていく。

5. 人財育成

外国人特定技能実習生や資格を持たない職員の認知症基礎研修の受講により、認知症の入居者様に対する対応力やユニット間での発言が増えて、職員間でもコミュニケーションが活発となっている。また、外国人職員は、全ての業務を一人で出来るようになった。今後は家族様や外部からの電話の対応や救急時など、自ら動けるように指導していく。日本人職員についても施設外の研修も受講できるよう、人員の確保をしていきたい。

施設内研修

実施月	研修内容	参加人数	実施月	研修内容	参加人数
4月	就業規則	9名	10月	感染症/口腔ケア	6名
5月	緊急時の対応	10名	11月	褥瘡・排泄	5名
6月	衛生管理	9名	12月	虐待防止	9名
7月	看取り	8名	1月	不適切ケア	6名
8月	水害避難訓練	3名	2月	記録	5名
9月	消防訓練	11名	3月	認知ケア	5名

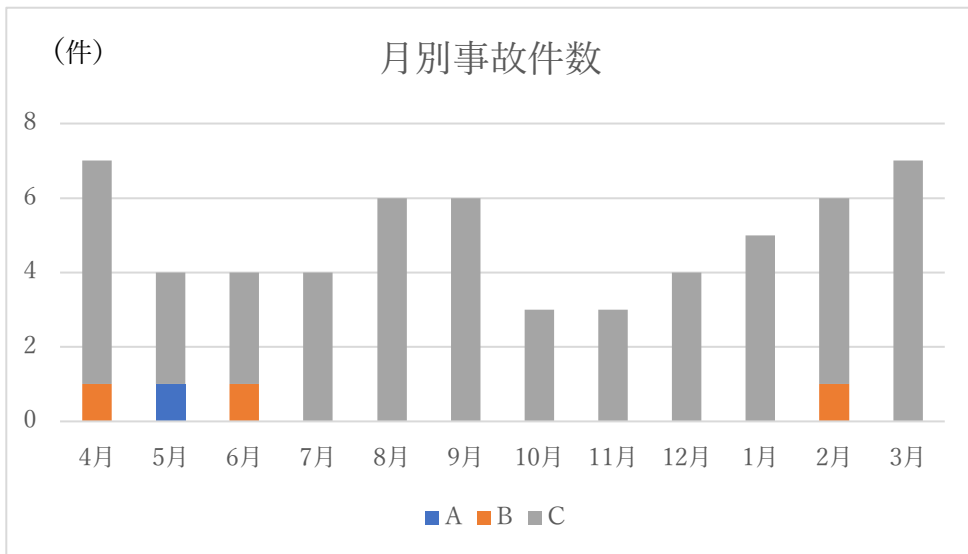
6. 事故について

前年度の事故件数は 66 件であったのに対して今年度は 59 件であったが、そのうち 26 件が転倒であり、事故総数での件数は減少しているものの前年度より転倒が 7 件増加している。年々下肢筋力が低下している入居者様が増えているため、下肢を使う機会を増やして筋力の維持を保ち、転倒件数の減少に繋げていく。

●事故件数

(単位：件)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
A	0	1	0	0	0	0	1
B	1	0	1	0	0	0	2
C	6	3	3	4	6	6	28
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
A	0	0	0	0	0	0	1
B	0	0	0	0	1	0	3
C	3	3	4	5	5	7	55



A:入院を要する事故 B:受診・通院を要する事故 C:受診・通院を要しない事故

特別養護老人ホームサンライフ西庄 医務

令和5年度 事業報告書

今年度より新型コロナウイルス感染症が5類引き下げとなり、医療現場での対応や生活様式も変化してきている。感染症対策として施設で出来る事は、ウイルスを外から持ち込まない、広げないことを基本とし、職員一人一人が感染症に対する正しい知識と対策ができるよう研修の実施やシュミレーションを行っている。

施設が5年目となり、入居者様のADLの低下に伴い、看取りへの移行時期となる方が増えている。穏やかな最期を迎えられるよう、家族様の思いも傾聴しながら充実した看取りケアを目指している。

1. 感染症対策に関する研修の実施、訓練（シュミレーション）、ガイドラインの作成

昨年度の集団感染での反省点を踏まえて、感染症拡大に備えPPE着脱方法を全職員が習得できるよう評価表を用い定期的に確認している。しかし、時が経つと手技を忘れてしまっている職員がいるため個別にポイントを押さえた研修を行い、今後も感染症に対する知識や行動力を向上させることが集団感染を防ぐためには必要である。また看護師が中心となり、継続した研修の実施や委員会の充実が必要である。

2. 心療内科 往診の充実

現在8名の入居者様が往診を受けられている。診療内容は不眠、認知症状のコントロール等である。介護職と連携を図りながら入居者様の状態変化あれば早めに精神科医に相談し薬の調整等行っている。そのため異常行為や問題行動の悪化を防ぐ事ができている。今後も入居者様が穏やかに過ごせるよう介護職と連携をとり、施設での認知症に対するケアを向上させていきたい。

3. 看取りへの対応の充実

全身の機能が徐々に低下することによって食事摂取困難になる入居者様が増えている。今年度新たに6名の同意をいただいた。看取りをされた方は5名。入居者様が穏やかな最期を迎えられるよう、家族様、介護職と共に話し合いながら、可能な限りできるケアを実践していきたい。またデスクカンファレンスを実施していく中で疑問点・反省点等を次の看取りに繋げていけるよう看取りマニュアルを見直していきたい。

4. 重度化防止への取り組み

高齢者は症状の出現がない場合が多かったり、認知症症状により体調不良の訴えができない事がある。そのため気付いた時には重症化していることがある。介護職の「いつも何か様子が違う」という気付きを拾い上げ異常があれば早期に嘱託医に報告・相談し入院することなく、施設で対応することができた。

また、褥瘡形成は上半期6名の入居者様がいたが早期に6名共治癒された。

しかし、下半期でも3名の入居者様の褥瘡形成があり、今年度9名と非常に多かった。その中で半年の間に再発されているケースもあった。リスクが高い入居者様であると把握しているにもかかわらず、発生してしまったことは問題であり、早急に改善すべき点である。褥瘡形成は栄養状態の低下、失禁等によるスキントラブル、ポジショニングが褥瘡発生の要因となっている。今後褥瘡予防、スキントラブルを起こさないよう、栄養士、理学療法士、介護職と連携をとり予防ケアの徹底を行うことで褥瘡発生

を抑えるようにしたい。

5. 職員の健康管理について

全職員が健康診断を適切に受けることができた。また日頃から何気ない会話の中で職員が体調不良を訴えられる環境作りやコミュニケーションを図っていくことができた。今後も職員一人一人が自分の健康意識を高めてもらうよう働きかけを行っていききたい。

特別養護老人ホームサンライフ西庄(厨房)

令和5年度 事業報告書

1 人材の定着・育成

職員同士コミュニケーションをはかり、質問しやすい雰囲気づくりを行った。確認不足や思い込みによる間違いを未然に防ぐことを心掛けた。調理できる人材の育成を行い、仕事の幅を広げ能力向上に努めた。

2 献立の充実

令和5年度は計10回の行事食を取り入れた。季節を感じるイベント食を提供し、食事の中で季節を味わって頂けるように努めた。また普段の食事の様子を聞き取り献立に反映させた。食材費に関して今年度も値上げされる食材が多く予想されるので、引き続き各業者から随時相見積もりを取り、良い品をより安い業者から仕入れる等の工夫を行い無駄のないよう管理する。

3 衛生管理

異物混入に関して報告はなかったが、魚に骨が混入していることに関してよく聞く報告であるため、魚を並べる時や盛り付けの際、骨が残っていないか意識して作業を行うようにした。6月に手洗いの重要性について施設内研修を行い職員にもより一層衛生管理に留意するよう指導した。

4 栄養ケアマネジメントの充実

介護士、看護師と連携を取りながら入所者様の状態の把握に努めた。低栄養状態や体調不良、嚥下困難な方やターミナル期の方など食事摂取量の減少している入所者様に対して、体重減少を少しでも防ぐ為、摂取しやすく栄養価の高いゼリーなどを個別で提供するなどの対応を行った。

5 食事形態

退院後は食形態が落ちている方が多かったことや体調不良により、極刻み食の喫食者の割合が増えていた。すべての食事の形態アップは難しくても、食べられるものだけでも形態をアップする対応を行った。水分摂取が難しい方にはゼリーやトロミを付け提供し個別対応に努めた。

そして、食思の低い方には必要に応じ栄養補助食品を提供し必要栄養量の確保に努めた。

6 子供食堂の充実

令和5年度は感染防止対策を徹底しながら開催することが出来た。参加者からは「美味しい。」との声も多く、おかわりする参加者も多数見られた。令和6年度に開催する際も引き続き手指消毒を徹底し、感染防止対策を行っていききたい。また、子供に人気のあるメニューを取り入れ、参加者の満足度、維持向上させていきたい。

小規模多機能ホームサンライフ岡田

令和5年度 事業報告書

今年度の「足腰頭と心を鍛えて、いつまでも元気に楽しく過ごす」という法人目標に沿い、利用者様が住み慣れた自宅や地域で健康に生活が継続できるよう、通い・宿泊・訪問を柔軟に組み合わせたサービスが提供できたと感じる。リハビリやレクリエーションに関しても、感染症対策に気を付けながら機器を使用した運動や体操、エレクトーン演奏による歌唱、園芸活動などを行い、利用者様にサービスを楽しんで利用して頂けるよう心がけた。

1. 個人に応じた利用計画作成

利用者様が在宅での生活が継続できるよう、個々の特性に応じた小規模多機能型居宅介護計画を作成し、支援の提供を行った。利用者様の希望に応えながらも、希望に添えない場合などは訪問に行くなどサービスの調整を行い、通い・宿泊・訪問3つのサービスのバランスの取れたプランを立てることに力を入れた。

2. 人材育成

e-ラーニングを使用した個別研修は継続出来ているが、zoom使用を含めた外部研修に参加する機会をなかなか作ることが出来なかった。来年度は管理者や相談員以外にも研修に参加できるように勤務調整を行っていく。

1日2回の申し送りは出来ており、出勤者に関しては情報が共有できている。休み明けで出勤した職員が休んでいた日の申し送りを読まずに仕事を始めてしまうことがよく見られたため、指導を行っていく。

3. 事故の防止

事故件数は前年度23件、今年度27件と少し増加した。事故内容としては剥離や内出血、転倒、ずり落ち等が見られた。今年度は同じ利用者様の転倒や転落が多く見られ、リスク・事故対策委員会や小多機会議などで再発防止案を検討し対策を実行した。状態に合わせた対策を行うことが出来たと感じる。ヒヤリハットに関しては、ヒヤリハットノートに記入できていないだけなのか、ヒヤリに気付いていないのか、ほとんどなかった。大きな事故につながるリスクを予防するためにもヒヤリハットノートをもっと活用していくよう今後指導していく。

4. 忘れ物防止

荷物チェックアプリの使用や、荷物の置き場所の徹底等により、荷物の返却忘れや荷

物の混同などは減少した。今後も忘れ物や荷物の返却間違いなどが起こらないよう、物品の管理をおこなっていく。

5. 感染症予防

感染症対策として、職員のうちがい・手洗い・更衣・体温測定や、利用者様のうちがい・手洗い、定時のバイタル測定等を行い、感染症の予防、状態異常の早期発見に努めた。1年を通して、施設内で感染症が流行することなく過ごせたので、今後も対策を継続していきたいと思う。

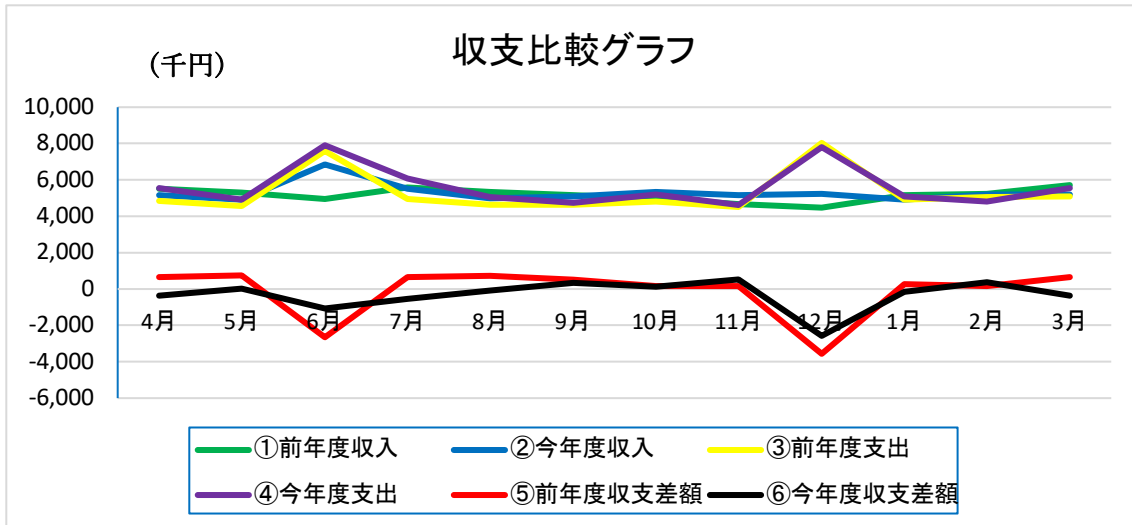
6. 収入・利用者様の確保

今年度目標としていた利用登録者25名は達成することが出来なかった。問い合わせはあるが、利用者様・家族様の利用希望と施設側の空きが合わないことが原因。今後も営業活動を行い利用者様の獲得に努めていく。収入に関しては昨年度より140万円程増えたが、支出の増加により大幅な赤字となった。収入は、新規加算の取得や、要介護度の見直し、新規利用者の獲得を行い、来年度はさらなる増加を目指す。支出の増加の多くは人件費が占めている。小規模多機能は、通い、訪問、宿泊とするべきことが多く、なかなかパートを募集しても人が集まらないため社員の割合が多く、人件費の増加に繋がっている。来年度は水道光熱費や食材費など節約を行うとともに、人件費の見直しも行っていきたい。

1. 年間収支比較

(千円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計	比率
①前年度収入	5,519	5,301	4,940	5,602	5,340	5,168	31,870	—
②今年度収入	5,175	4,913	6,852	5,525	4,981	5,094	32,546	102%
③前年度支出	4,855	4,551	7,594	4,942	4,620	4,648	31,210	—
④今年度支出	5,545	4,900	7,907	6,076	5,055	4,745	34,228	110%
⑤前年度収支差額	664	750	-2,654	660	720	520	660	—
⑥今年度収支差額	-370	13	-1,055	-551	-74	349	-1,682	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	比率
①前年度収入	4,996	4,672	4,476	5,160	5,219	5,716	62,109	—
②今年度収入	5,335	5,148	5,234	4,915	5,200	5,197	63,575	102%
③前年度支出	4,816	4,511	8,038	4,907	5,071	5,077	63,630	—
④今年度支出	5,208	4,620	7,809	5,079	4,826	5,548	67,318	106%
⑤前年度収支差額	180	161	-3,562	253	148	639	-1,521	—
⑥今年度収支差額	127	528	-2,575	-164	374	-351	-3,743	



2. 令和4年度・5年度登録者数 (MAX29名) (名)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
R4登録者	22	21	22	22	23	23
R5登録者	23	24	23	22	21	23
	10月	11月	12月	1月	2月	3月
R4登録者	22	22	21	22	23	23
R5登録者	22	21	22	21	21	21

3. 令和4年度・5年度延べ利用人数 (通い・訪問・宿泊) (名)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
R4通い	467	442	403	458	457	431	2,658
R4宿泊	227	235	197	229	218	182	1,288
R4訪問	197	188	153	192	183	158	1,071
R5通い	447	503	482	468	394	403	2,697
R5宿泊	184	226	234	227	167	180	1,218
R5訪問	194	210	193	206	216	270	1,289
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R4通い	437	378	394	424	415	500	5,206
R4宿泊	195	134	140	174	169	210	2,310
R4訪問	157	161	151	154	157	174	2,025
R5通い	447	414	404	379	401	442	5,184
R5宿泊	203	189	181	169	176	185	2,321
R5訪問	266	252	257	217	274	307	2,862

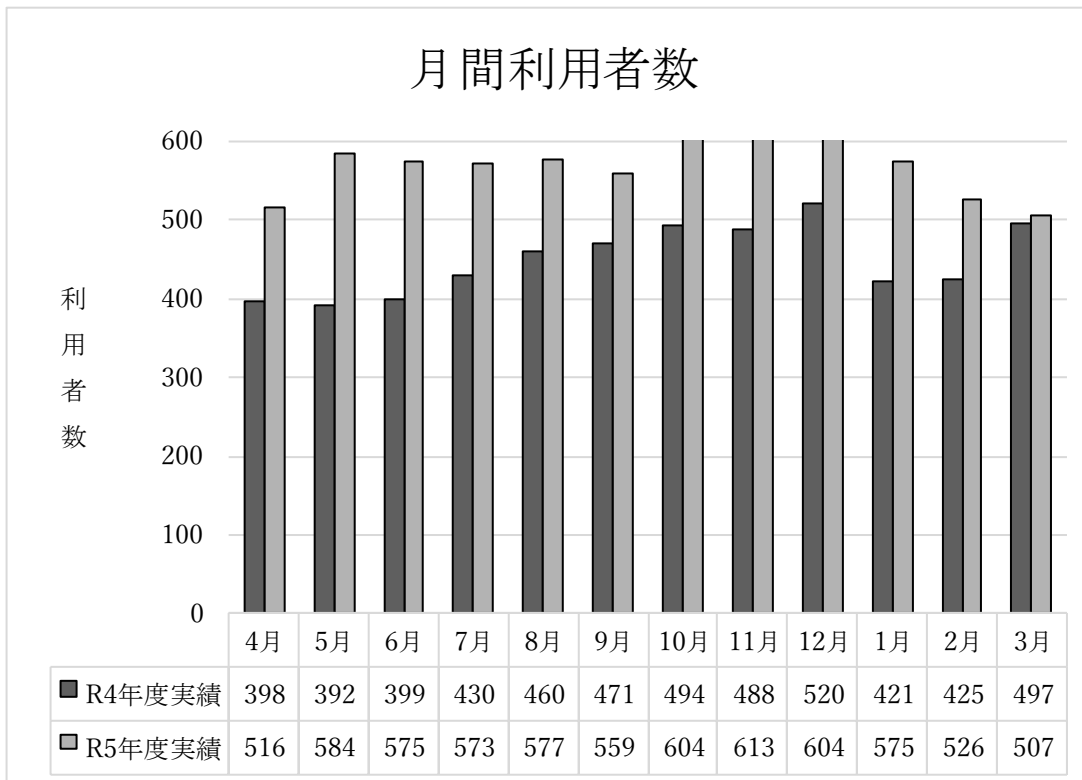
デイサービスサンライフ岡田

令和5年度 事業報告書

令和5年度は、午前、午後ともに体操を行うことで、運動不足の解消に努めた。また、一人暮らしの方への買い物支援に繋げるため、近隣スーパーへの買物外出を継続し、楽しみを持っていただけるよう景色を観る外出や施設見学の外出も企画・実施した。未経験の職員が多く、介護技術や知識についてバラつきがみられていたため、毎月職員研修を行い、職員の能力向上を図っており、今後も継続していきたい。

また、利用定員を30名から35名に変更し、登録利用人数が増え、平均利用人数も前年度に比べ増加した。それに伴い、収入が増加し、収支差額も前年度に比べ上回る事ができた。令和6年度は利用人数の更なる増加が図れるよう、営業活動やサービスの質の向上に努めていきたい。

1. 利用者数

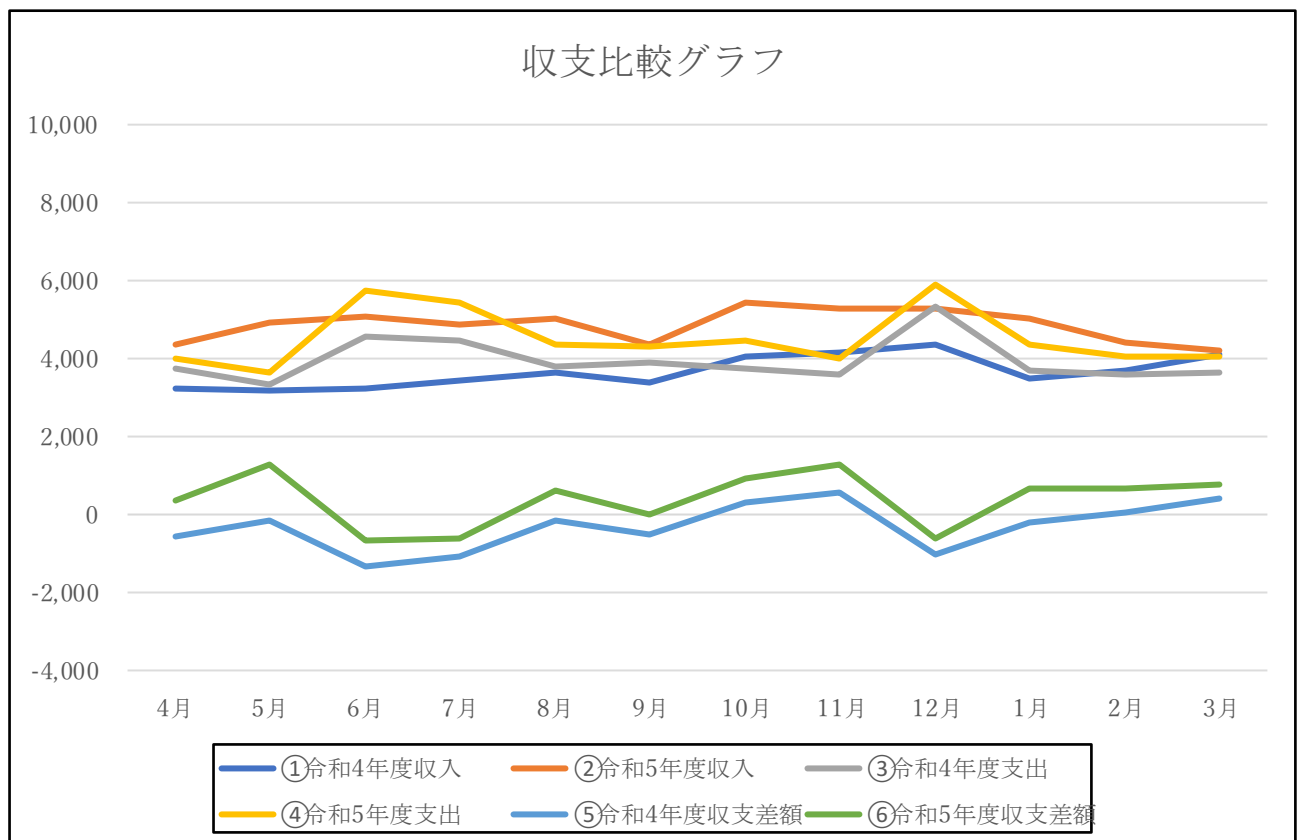


2. 年間収支比較

(千円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計	比率
①前年度収入	3,240	3,211	3,257	3,451	3,656	3,410	20,225	—
②今年度収入	4,401	4,924	5,094	4,874	5,024	4,364	28,681	141.8
③前年度支出	3,769	3,338	4,563	4,503	3,817	3,904	23,894	—
④今年度支出	4,040	3,637	5,762	5,454	4,373	4,328	27,594	115.5
⑤前年度収支差額	-529	-127	-1,306	-1,052	-161	-494	-3,669	—
⑥今年度収支差額	361	1,287	-668	-580	651	36	1,087	

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	比率
①前年度収入	4,076	4,156	4,350	3,490	3,698	4,094	44,089	—
②今年度収入	5,443	5,311	5,324	5,032	4,410	4,222	58,423	132.5
③前年度支出	3,765	3,593	5,361	3,690	3,630	3,645	47,578	—
④今年度支出	4,497	4,040	5,901	4,361	4,064	4,052	54,509	114.6
⑤前年度収支差額	311	563	-1,011	-200	68	449	-3,489	—
⑥今年度収支差額	946	1,271	-577	671	346	170	3,914	



3. 介護度別平均年齢及び利用者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均 (合計)
要支援 1	84.56 (8)	84.65 (8)	84.75 (10)	85.28 (9)	85.36 (9)	82.89 (7)	85.04 (6)	85.33 (6)	85.32 (5)	85.40 (5)	86.30 (5)	86.47 (6)	85.21 (84)
要支援 2	82.68 (7)	82.76 (7)	82.85 (7)	82.93 (7)	83.01 (7)	82.66 (9)	83.61 (9)	83.69 (9)	85.23 (10)	85.32 (10)	85.40 (10)	85.48 (10)	83.96 (102)
要介護 1	87.63 (21)	87.71 (21)	87.47 (21)	87.25 (22)	87.48 (23)	87.30 (23)	86.60 (25)	86.77 (22)	86.67 (23)	87.23 (21)	86.20 (22)	86.32 (19)	87.05 (263)
要介護 2	88.25 (8)	88.33 (8)	88.68 (9)	89.47 (6)	87.99 (7)	89.64 (6)	89.45 (10)	90.64 (10)	88.51 (12)	89.49 (12)	89.23 (11)	88.81 (11)	89.06 (110)
要介護 3	84.70 (7)	84.79 (7)	84.34 (8)	84.24 (8)	84.32 (8)	84.95 (7)	84.21 (6)	84.29 (6)	84.38 (6)	84.10 (5)	82.83 (3)	82.92 (3)	84.32 (74)
要介護 4	82.94 (4)	83.07 (6)	83.15 (6)	83.43 (5)	86.56 (3)	83.97 (3)	84.06 (3)	84.14 (3)	84.22 (3)	80.08 (2)	85.35 (4)	87.44 (3)	83.98 (45)
要介護 5	84.50 (1)	84.58 (1)	84.67 (1)	89.33 (2)	89.42 (2)	89.50 (2)	89.58 (2)	89.67 (2)	89.75 (2)	85.06 (3)	85.14 (3)	85.13 (2)	87.35 (23)
合計	85.90 (56)	85.89 (58)	85.82 (62)	86.00 (59)	86.28 (59)	86.13 (57)	86.21 (61)	86.52 (58)	86.44 (61)	86.58 (58)	86.36 (58)	86.60 (55)	86.23 (702)

上段の数字は平均年齢、()内の数字は実利用者人数を示しています

4. 職員充足度（令和6年3月現在）

職員 16 名（正職員 3 名 非常勤看護師 3 名 非常勤介護職員 10 名）

機能訓練指導員を
含まない

	営業 日数	利用者/ 月	職員総時間数/ 月	利用者/ 月	職員/ 月	職員 一人対	職員/ 月	職員 一人対
4月	25	516	1223.0	20.64	7.3	2.8	6.3	3.3
5月	27	584	1695.5	21.63	10.1	2.1	9.1	2.4
6月	26	575	1358.8	22.12	8.1	2.7	7.1	3.1
7月	26	573	1319	22.04	7.9	2.8	6.9	3.2
8月	26	577	1567	22.19	9.3	2.4	8.3	2.7
9月	26	559	1324.5	21.50	7.9	2.7	6.9	3.1
10月	26	604	1213	23.23	7.2	3.2	6.2	3.7
11月	26	613	1462	23.58	8.7	2.7	7.7	3.1
12月	26	604	1574	23.23	9.4	2.5	8.4	2.8
1月	25	575	1524	23.00	9.1	2.5	8.1	2.8
2月	25	526	1554.5	21.04	9.3	2.3	8.3	2.5
3月	26	507	1406	19.50	8.4	2.3	7.4	2.6

サンライフ岡田居宅介護支援事業所

令和5年度 事業報告書

今年度初めに管理者変更があり、上半期は新規利用者の受け入れ体制が整わなかった。少しずつ要支援、要介護者の新規利用者の受け入れを増やし、事業所の上限件数に達する事ができた。毎月の総収入の約80%が要介護者計画費、残り20%が予防委託プラン、認定調査委託料で安定し、前年度収入を上回る事ができた。支出は人件費が主で、前年度の支出と大きな変化なく収支はマイナスとなってしまった。認定調査委託依頼については、本来の業務に支障が出てきた為、受け入れ件数を減らし対応した。

次年度から担当上限件数が増えるため、引き続き営業活動を行い、常に新規依頼を受け入れ出来る体制を整え、収入が安定するように努めていく。

1. 介護度別利用者推移

(単位：人)

介護度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
1～2	41	40	42	40	43	45	251
3～5	16	13	13	12	14	13	87
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
1～2	43	48	50	48	55	52	547
3～5	13	16	17	14	15	19	175

2. 居宅介護料収入

(単位：千円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
令和4年度	467	464	557	698	741	693	3,620
令和5年度	775	649	670	635	704	646	4,079
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和4年度	732	729	641	601	605	549	7,477
令和5年度	742	763	846	742	706	756	8,634

3. 予防委託料収入

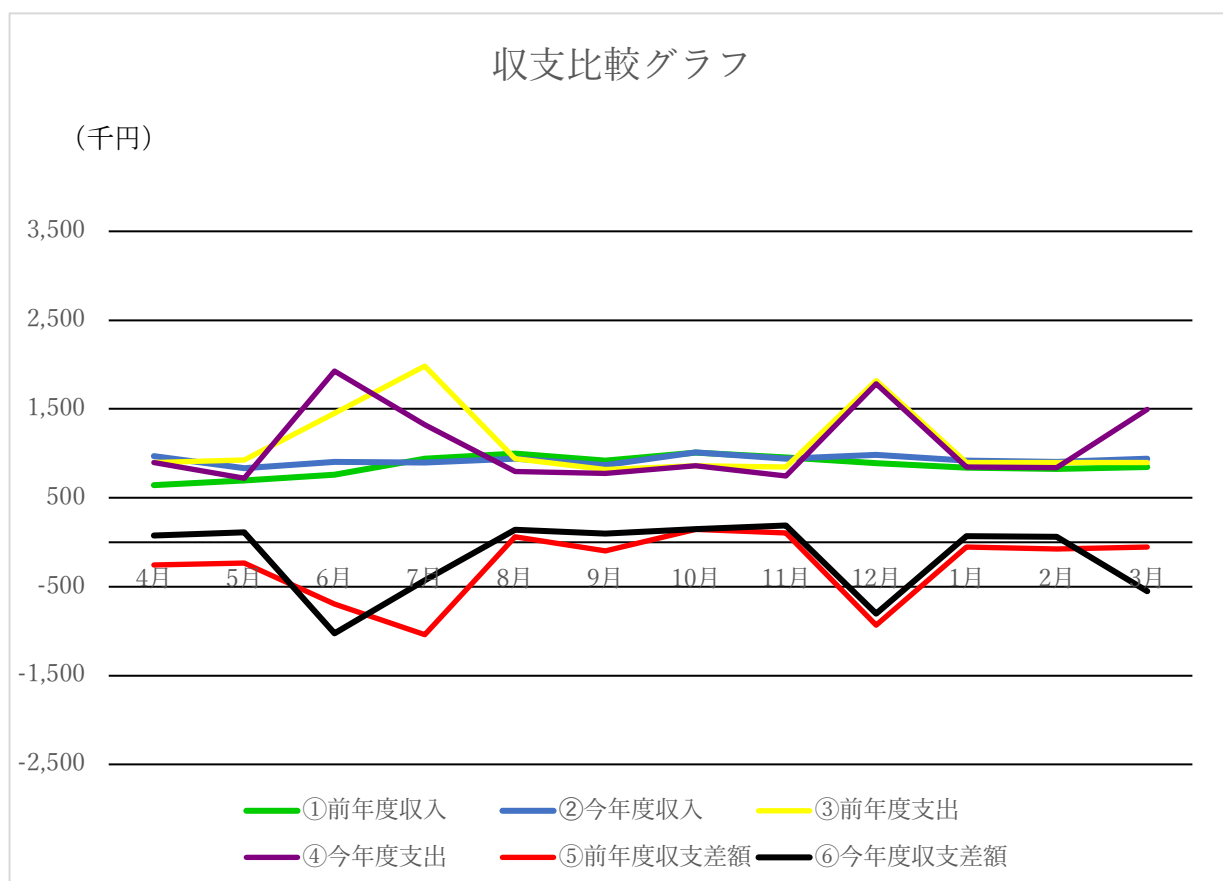
(単位：千円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
令和4年度	92	106	110	147	153	137	745
令和5年度	132	142	141	156	150	140	861
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和4年度	166	175	172	169	151	202	1,780
令和5年度	137	124	137	136	131	132	1,658

4. 年間収支比較

(千円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計	比率
①前年度収入	643	696	760	943	1,002	919	4,963	—
②今年度収入	973	834	902	899	939	870	5,417	109.1%
③前年度支出	898	929	1,456	1,983	940	819	7,024	—
④今年度支出	900	721	1,927	1,325	799	774	6,446	91.8%
⑤前年度収支差額	-255	-233	-696	-1040	62	-100	-2,062	—
⑥今年度収支差額	73	113	-1,025	-426	140	96	-1,029	—
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	比率
①前年度収入	1,009	953	891	841	827	846	10,330	—
②今年度収入	1,012	938	983	917	906	940	11,113	107.6%
③前年度支出	864	848	1,822	894	900	900	13,253	—
④今年度支出	862	749	1,784	849	842	1,494	13,026	98.3%
⑤前年度収支差額	145	105	-931	-53	-73	-54	-3,123	—
⑥今年度収支差額	150	189	-801	68	64	554	-1,913	—



特別養護老人ホームサンライフ魚崎

令和5年度 事業報告書

今年度は「足腰頭と心を鍛えて、いつまでも元気に楽しく暮らしましょう！」を経営スローガンに掲げ、日常の生活動作に身体を動かす機会を増やし、健康維持に努めた。歩行訓練やラジオ体操、立位保持訓練等、日常生活の中で入居者様の残存機能が活かせるよう、入居者様一人ひとりに適した介助方法で支援を行う事ができた。また、感染症対応として、一部生活区域を制限しているフロアにおいては、入居者様が閉塞感を感じることなく、生き生きと生活する事ができるよう、広々としたエリアで食事が提供できるよう、タイムスケジュールを計画し実施する事ができた。家族様の交流においても、対面面会をできる限り制限する事なく、施設内の感染症の状況に応じて、入居者様と家族様がコミュニケーションを図れる機会を設ける事ができた。コスト削減に関しては、入居者様の排泄回数の見直しを行い、平均5.5回から3.5回に減らす事ができた。排泄回数を減らす事により、業務進行の時間にゆとりができ、業務改善のミーティングや各職員が受け持つ担当業務に振り分ける事ができた。次年度も継続して、排泄回数を見直しを実施していきたい。

1. 足腰頭と心を鍛えて、元気に楽しく生活ができる取組

- ①入居者様個々の身体状況に応じた、日常生活の中にある動作を意識し、立位保持訓練（手摺を持って立位を行い際、長めに保持する。移乗時やトイレ誘導時等）、定時での歩行訓練（午後のおやつ後）、寝たきりにならないよう離床機会の計画等を実施する事ができた。過剰な介助に繋がる可能性を考慮し、食堂で過ごす際、車いすから椅子の移り変わりを行い、常時車いすに座ることがないように、車いすを適切に使用する事ができた。ベッドで過ごす事の多い入居者様においては、電動エアマットを使用し、褥瘡予防に努めている。
- ②排泄回数を見直しにより、時間が効率化された事で、入居者様と関わる時間を増やす事ができた。午前にラジオ体操を行い、午後入浴後に軽作業（洗濯物たたみや袋作り等）を実施し、職員と入居者様がコミュニケーションを図る機会を設ける事ができた。
- ③特養Bユニットにおいて、感染症対策の為に一部生活区域を設定し、過ごして頂いていたが、特養Aユニット（本館2階）のエリアまで誘導し、昼食とおやつを提供する事ができた。採光が良く、座席のレイアウトをゆとりのある配置で行い、広々とした空間で気分転換を図って頂く事ができた。不要な物品を撤去し、居室の整理整頓（衣類や雑貨の収納）、照明の随時点検、床の随時清掃等を行い、施設内の美化を意識している。
- ④家族様と入居者様と交流の機会を設ける為、施設内の感染状況に応じて、対面面会を実施する事ができた。面会は家族様の要望も多く、できる限り制限を緩和しながら、面会を実施している。年度末からは面会方法を緩和し、玄関ホールで面会を行っている。散歩や外出も再開し、家族様や入居者様が交流を図る機会を設ける事ができた。

2. 感染症予防対策及び災害発生時における事業継続の取り組み

- ① 7月と11月にコロナ感染症が発生した為、感染症対策の初動マニュアルに沿って、ゾーニングや防護服の着脱等を実践する事ができた。5類感染症となった現在においても、コロナ感染症が発生した場合、2類感染症と同様に対応している為、備品の消費、ゾーニング等の対応については見直す必要がある。(コロナ感染症に係る補助金が終了) 感染対応の隔離期間が長くなると、入居者様の心身状況に影響を及ぼす為、感染症対応についての緩和を検討していく必要がある。
- ② 入居者様の健康観察の為、1日2回の検温は継続して、実施する事ができた。健康観察が習慣化されていた為、発熱の入居者様に対して、直ぐに異変を察知する事ができ、感染症の初動対応の実践に繋がっている。
- ③ 適切な冷暖房(冷やしすぎず、温めすぎず)使用の為、冬季においてはタイマースケジュールではなく、手動管理で対応する。室温計を参考に手動管理する事で温め過ぎずに対応する事ができた。一時的な寒波があったが、例年に比べて暖房を使用する時間は減少している。
- ④ 災害時の避難訓練(火災、水害又は地震等)、基幹福祉避難所開設訓練を10月に行い、初動対応、備蓄品管理場所の確認、避難所の設営等、災害時のシミュレーションを行う事ができた。

3. 経営の安定化への取り組み

I. 入居者様の確保拡大への取り組み

- ① サンライフ魚崎独自のホームページを開設する事で、日常生活の様子、美味しい食事の提供(厨房の様子)、施設内での感染症対策等を外部に発信していく事ができた。施設内部の情報を発信する事によって、電話やメールからの問い合わせも多くなっており、施設見学の依頼があれば、直ぐに対応している。
- ② 病院や老人保健施設からの申し込みが多く、申し込みがあった直後にショートステイ管理者とともに面接を実施し、ロングショート利用へ繋げる事ができた。次年度もロングショート利用者確保を積極的に行っていきたい。

II. コスト削減への取り組み

- ① 全入居者様の排泄回数の見直しを行い、コスト削減及び時間の効率化に取り組む。適切な排泄物品の選定、物品の使用方法(介助の手技)を周知徹底した結果、平均5.5回から平均3.5回へ排泄回数を減らす事ができた。排泄回数を減らす事によって、作られた時間を人員が手薄になる時間帯に割り当てる事ができた。(入浴介助、業務改善ミーティング、受け持ちの担当業務等)次年度も継続して、排泄回数を見直しを行い、排泄物品の削減、時間の効率化を図っていきたい。

Ⅲ. 年間稼働率目標値 99%以上への取り組み

		稼働率 (%)						
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	上半期
令和5年度	日数	900	930	900	930	930	900	5490
	利用日数 (人)	879	886	876	886	885	806	5218
	稼働率 (%)	97.7	95.3	97.3	95.3	95.2	89.6	95
	入院者数 (人)	9(1名)	26(2名)	17(1名)	32(2名)	19(2名)	46(3名)	149
	空室数 (人)	12	18	7	12	26	48	123
	入所者数 (人)	2	3	1	0	2	4	12
	退所者数 (人)	2	3	1	1	2	4	13
	看取り人数 (人)	2	1	1	1	1	3	9
		10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	日数	930	900	930	930	870	930	10980
	利用日数 (人)	869	887	922	876	862	918	10552
	稼働率 (%)	93.4	98.6	99.1	94.2	99.1	98.7	96.1
	入院者数 (人)	16(1名)	0	3(1名)	11(1名)	0	0	179
	空室数 (人)	45	13	5	43	8	12	249
	入所者数 (人)	1	2	1	1	2	1	20
	退所者数 (人)	1	2	0	3	0	1	20
	看取り人数 (人)	0	2	0	3	0	1	15

- ① 年間通して20名が退所となり、ロングショート利用からのスライド入所でも追い付かずに空室数が増加となった。次期入所者として決定していた候補者が、入所直前に入院となっているケースも数件あり、早期の入所に繋げる事ができなかった。次年度は入所検討会において、今までよりも次期入所者の候補者数を増やし検討していく。
- ② 長期入院の可能性がある入居者様に対しては、施設生活継続の可能性や退所を含めた相談対応を行っている。施設生活が困難な状況であれば、早期に退所支援を行っているが、対象となる入居者様の経過観察が長引くこともあり、長期入院による空室数が増加している。
- ③ 今年度もロングショート待機者確保が困難な期間が生じ、ロングショート利用を希望する対象者と居室確保のタイミングが一致しない状況が多く、空室が増加となった。次年度はロングショート利用者数と通常ショート利用者数のバランスを常時考慮しながら、ロングショート利用者を確保していく。

IV. 令和5年度収入・支出・収支差額

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	合計	前年度比
令和4年度収入	12,029	12,244	11,751	11,966	12,370	12,034	72,394	
令和5年度収入	12,090	12,091	11,752	12,017	12,013	11,232	71,195	-1199
令和4年度支出	9,262	8,797	15,875	9,441	8,661	8,812	60,848	
令和5年度支出	10,742	10,208	15,733	8,512	8,111	8,323	61,629	781
令和4年度収支差額	2,767	3,447	-4124	2,525	3,709	3,222	11,546	
令和5年度収支差額	1,348	1,883	-3981	3,505	3,902	2,909	9,566	-1980
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	前年度比
令和4年度収入	12,551	12,136	12,064	12,303	11,258	12,503	145,209	
令和5年度収入	12,760	12,134	12,425	12,091	11,680	12,451	144,736	-473
令和4年度支出	8,743	9,208	15,772	9,362	8,428	9,362	121,723	
令和5年度支出	9,643	9,331	14,576	8,651	8,546	8,499	120,875	-848
令和4年度収支差額	3,808	2,928	-3708	2,941	2,830	3,141	23,486	
令和5年度収支差額	3,117	2,803	-2151	3,440	3,134	3,952	23,861	375

※補助金事業収益及び減価償却費を除く

収入・支出・収支差額についての管理者意見

令和5年度の収入において、令和5年度は稼働率(96.1%)が目標数値に達成しなかった。通年よりも退所者が20名と多く、直ぐに入所に繋がらないケース(次期入所者候補者の入院、ロングショート利用者の確保が困難等)があり、空室数が増加し介護保険事業収益が減少している。

支出において、退職者及び産後・育児休業者を含め4名程度おり、人件費が減少している。光熱費においても冬季の暖房使用が減り、光熱費の目標予算よりも支出を抑える事ができた。次年度はコロナ感染症に係る補助金が終了する為、感染症対応に関する見直しを行い、必要以上のコストが掛からないよう、感染症対策を緩和しながら、事業を継続していきたい。

以上

魚崎高齢者介護支援センター(短期入所生活介護)

令和5年度 事業報告

令和5年度経営スローガン「足腰を鍛え、いつまでも元気に楽しく過ごそう」に基づき、感染予防対策を継続しつつ、フロア内での歩行リハビリや屋外への散歩・身体を動かす機会を増やした。また、YouTubeを用いての体操や脳トレ問題、実施し、午後からの職員による体操も不定期ではあるが行う事が出来た。掲示板の飾りつけの手作業や脳トレにも取り組んで頂き、職員も利用者様と関わる機会を増やす意識を持つことが出来た。感染症発症などもあり、レクリエーション等は一時的に行わない期間があると終息後に再度職員が通常の業務に戻り余暇活動への取り組みができるまでに時間を要している。通常業務としての定着ができるようにすることが課題である。

令和5年度は二度利用者様よりコロナ感染が発症。7月の発症時には拡大もあり、収束までに半月以上の時間を要していたが、12月の発症時にはすぐに完全居室対応を実施。ショートステイとしては一名の罹患。感染の拡大もなく10日ほどの感染対応での影響にとどまることができた。

全体的なご利用状況として他部署や他施設への転居も昨年に引き続き多く、定期利用の方の利用終了（永眠や医療的ケアなどでの入院など）が多くみられた。

ご利用者様の入れ替わりが多く、職員間での情報共有や新規利用者様の固定での利用になげられるようなアプローチが今後の課題である。

1. 楽しく快適で安全な生活を提供

- I. 朝のラジオ体操の他に、午前中と午後に体操の時間を設け実施した。職員が行えない場合でも、YouTubeを活用し体操の機会を増やした。日曜日にロングの方を中心に天気のいい日には散歩を行い、気分転換を図った。
- II. 月ごとの掲示板の作業や色塗り、脳トレをその方に応じて提供し、取り組んで頂いた。洗濯たたみやその他の軽作業を積極的に手伝って頂き、役割を持って頂いた。
- III. 各居室、フロアの整理整頓の意識づけが、まだ根付いていないのが現状。管理者がフロア内や居室を回り、物が置きっぱなしになっていたり、物品が整っていない等受けられた際、環境整備についてその都度指導を行った。物品の管理も含め環境整備が次年度の課題となった。

2. 災害や感染症対策にかかわる体制整備

- I. ロングショートご利用の利用者様でコロナ感染症が発症、これ以上の感染者を出さないよう、全居室を感染対応とし、全利用者様に対して防護服での対応を行う事で、感

染者を最小限に抑える事が出来、入所制限も週間で終息させることが出来た。また、医務との連携を密にし、速やかに感染者への対応が行えた。

- Ⅱ. 感染対応セットをあらかじめセットして置く事と、使用後に補充する事で次使用する際に物品不足が発生する事なく対応する事ができた。

3. 安定した利用者確保

単位 (人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和3年度	509	515	513	531	528	504	555	572	594	595	523	533	6,472
令和4年度	577	597	524	588	577	540	512	493	465	517	511	563	6,464
令和5年度	606	585	584	552	587	540	539	485	486	580	490	604	6,638

稼働率 (一日平均宿泊数)

単位 (%)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
令和3年度	69%	77%	86%	86%	85%	84%	90%	95%	99%	96%	93%	86%	87%
令和4年度	84%	84%	76%	82%	79%	74%	70%	70%	65%	70%	78%	78%	83%
令和5年度	88%	82%	85%	79%	82%	77%	72%	68%	65%	79%	73%	83%	77%

Ⅰ. 感染状況による利用率の減少

令和5年度は7月と12月の二度にわたりコロナ感染症の発症。

7月17日ショートのご利用者様からのコロナ感染発症。ロングショートへの感染があり、合計5名うち4名が入院にて10日ほど療養。(ショート利用:1名、セミロング1名、ロング利用3名うちセミロングとロング入院3名)複数の居室への広がりもあり、2週間以上収束までかかり、入院者だけでなく、ショートご利用者様への影響もあり大幅な利用者・収入減となってしまった。

12月7日にロングショートのご利用者様より一名コロナ感染者が発症。(施設にて療養)全室居室対応実施。発生後からご利用の自粛や対応困難な方への調整などもありキャンセルが増加つなごったものの10日程度の影響で収まった。

発生後約2週間ほど利用希望も含め調整を要しているのが現状。館内に陽性者がいることを懸念され、利用の自粛にもつながっている。初期対応を行い、一日も早く拡大していない現状をご家族様やケアマネジャーへ初動の対応が重要と思われる。

II. ロング利用の転居状況

ロング利用からの他部署・他施設への転居も引き続き多く（昨年の2名増）17名の方が転居。時期ロングのスムーズな確保ができず、新たなロング候補を確保のために時間を要し、空室につながった。ロング利用の期間2か月程度の方が多く、おられた。

ロング候補の確保がうまくいかず、新たなロング候補の確保するために時間を要している。又、ロングの利用の要望があってもタイミングが合わず、すぐの入所につながられなかった。

III. ショート利用について

準ロング利用の方の入院に伴うキャンセルや永眠により定期的利用が終了したことや急な永眠や入所が決まるなども多くみられた。

令和4年度に比べ年間の総利用人数は174名の増加ではあった。感染症やロング利用の一時的な減少があり、ご利用の状況にばらつきが見られたことから、引き続き、安定したご利用者様の確保への対策が課題である。

次年度も新規利用者を受けながら、固定利用や時期ロング候補を受け、ベットコントロールを行っていきたい。

4. 収支金額

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計	前年度比
令和4年度収入実績	6,980	6,808	6,381	6,747	7,341	6,651	40,908	
令和5年度収入実績	7,077	7,392	7,219	6,630	7,261	6,495	42,074	102%
令和4年度支出実績	5,871	5,173	9,439	5,725	5,448	4,896	36,552	
令和5年度支出実績	6,007	5,372	10,375	5,470	5,282	5,771	38,277	104%
令和4年度収支差額	1,109	1,635	-3,058	1,022	1,893	1,755	4,356	
令和5年度収支差額	1,070	2,020	-3,156	1160	1,979	724	3,797	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	前年度比
令和4年度収入実績	6,537	6,557	5,700	6,354	5,865	8,060	79,981	
令和5年度収入実績	7,253	6,024	6,117	6,985	6,302	7,119	81,874	102%
令和4年度支出実績	5,601	4,993	11,016	5,492	5,344	7,062	76,060	
令和5年度支出実績	6,462	5,033	10,970	5,253	5,189	6,761	77,945	102%
令和4年度収支差額	936	1,564	-5,316	862	521	998	3,921	
令和5年度収支差額	791	991	-4,853	1,732	1,113	358	3,929	100%

5. 人員構成力の強化

- I. 管理者による営業強化研修や、職員の ZOOM での研修に前年度よりは参加する事ができたが、まだ全職員ではない為、次年度も外部研修への積極的に参加し、その内容を発信し現場に生かせる職員育成に努めたい。
- II. 介護支援専門員資格取得受験講座に 3 名参加。資格取得に向けシフト調整を行った。合格まではあと数点足らずの結果。令和 6 年度も受験に向けてバックアップに努めたい。
- III 運転・送迎指導を実施。2 名の職員を対象に運転や送迎の指導・練習を行った。来年度より、一名は送迎対応ができるように指導している。

以上。

特別養護老人ホームサンライフ魚崎特養・短期入所 医務

令和5年度 事業報告書

「足腰頭と心を鍛えて、いつまでも元気に楽しく過ごしましょう！」をスローガンとして足元に重点を置いたケアを継続、第5類移行によって施設での療養となったコロナ感染症の流行を夏・冬2回経験し乗り切った1年であった。

1. 感染症対策について

12月に特養1階で夜勤職員が帰宅後にコロナ陽性判明、直後から初動のマニュアル通りにフロアごと感染対応とし、同室者の感染に留まっている事を確認して部屋単位の対応に切り替え、発症日0日とした7日間の経過観察期間終了者から対応解除し、17日間で終息した。その間に2階特養1名ショート1名の感染者が発症し、同様の対応でその後の拡大無く、この時の感染者数は合計8名であった。初動の確実な対応が重要であると認識した結果となった。コロナ以外では尿路感染疑いの発熱が後期は1件のみであった。

冬季はインフルエンザの流行もあったが特養・ショートでの発症者は職員共になかった。

2. 看取りにつて

今までに例のない1年に16名、前年度の倍以上と非常に大勢の方々を見送った。4月の嘱託医が変更になった直後から立て続けであったが医師との連携も問題なく、スムーズに看取る事が出来た。

新たな入居者を受け入れるために病院から退院後、ショートロングで受け入れても短期間で特養入所となる方や、退院後直接受け入れる事となり、体調が改善しきらずそのまま亡くなる傾向が続いているのが一因となっている。

非常に困難ではあるが、入居候補者を一定期間ごとに訪問・面談し、病歴・現病の情報収集を確実にを行い判定して、待機者を確保していく事が課題と考える。

3. 事故について

足爪関連の事故防止のために定期的な入浴後の爪のカットを行い、関連した事故は3件と減少はしたが、今後も細目な観察と注意喚起を継続し、発生ゼロを目指したい。

服薬事故で、人違いが1年に2回繰り返され、落薬は特養・ショート合わせて16件、確認する為のルールを守る事が継続されていないのが現状であり、事故があつてからではなく、常時声に出して、確認作業がルール通りに行えているか発信していく必要がある。

スキンケアに関しては発生件数は減少はしているが、毎日一定数の処置が行われており、処置ゼロは実現できていない。

又、処置に使われる衛生物品も施設の持ち出しとなっている為、コスト削減の課題

となる。

予防策として皮膚を露出しない衣類の選別をご家族に説明し、理解していただいて協力を得る事を入居当初に働きかけていきたい。

4. 令和5年度上半期 特養・ショートステイ看護及び研修状況

(1) 傷病発生状況									
	上半期	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	前年比
発熱・嘔吐等感染対応者数	22	0	4	13	0	0	3	42	190
尿路感染(疑い)の発熱	4	0	1	0	0	0	0	5	83
加療を要する外傷(下段褥瘡)	86	9	14	4	8	6	4	131	62
	6	1	1	2	2	1	2	15	107
Ns付き添い受診回数	9	0	0	0	2	3	3	17	154
(3) 特変緊急対応の回数									
	上半期	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	前年比
特養	5	0	0	1	0	0	0	6	75
ショートステイ	4	0	2	0	1	1	0	8	88
(2) 入院 ・ 退院 ・ 入退所者数									
	上半期	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	前年比
入院者数	9	0	0	1	0	0	0	10	100
退院者数	6	0	0	0	1	0	0	7	87
退所・死亡者数	13	0	2	0	3	0	1	19	211
入所者数	12	1	2	1	1	2	1	20	222
(4) 医療診療件数(受診・往診)・診療人数									
	上半期	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	前年比
特養ショート件数	193	28	37	21	36	33	40	388	82
特養ショート人数	674	128	167	93	109	121	119	1411	91
(5) 研修受講状況									
	上半期	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	前年比
外部件数	1	1	0	0	1	0	0	3	300
外部人数	1	1	0	0	2	0	0	4	133
内部件数	9	1	1	1	1	1	1	15	166
内部人数	27	4	4	4	4	4	4	51	188

以上

魚崎高齢者介護支援センター（通所介護）

令和 5 年度 事業報告書

今年度の経営スローガンである「足腰頭を鍛えて、いつまでも元気に楽しく過ごしましょう」の元、リハビリの強化を目的に、理学療法士を 1 名採用し個別機能訓練を実施したが、週 3 回の実施と、実際に個別機能訓練加算を算定出来た利用者様は計 9 名であった。また、理学療法士を採用してから半年間は個別機能訓練加算の算定が行えておらず、その半年後には理学療法士が退職となり個別機能訓練加算が算定できたのは実質半年のみとなってしまった。引き続き、生活リハビリの強化、レクリエーションでの体操の充実を図っていく必要がある。

利用者減少、人件費の増加により令和 5 年度も大幅な赤字となってしまった。下半期からはドライバー・看護師の勤務時間削減と、職員の部署異動等人件費削減に取り組んだ。来年度は業務削減を徹底して取り組み、少数精鋭でのデイサービスへと切り替えていく事が急務である。

1. 楽しく元気になるデイサービスを目指して

- I. デイサービスの基本方針「いつまでの元気に楽しく」のもと午前・午後における体操や棒、チューブ等を使用した体操も充実させ、「出来るようになった」と達成感を味わって頂く為にも 1 ヶ月間同じリズム体操を定期的に行う事で、筋力維持や低下を予防し、自宅でもできるよう YouTube を活用し実施した。その音楽・映像が流れる事で、利用者様も抵抗なく積極的に体操に取り組むことができた。
- II. デイサービスのレイアウトを変更し、利用者様との距離が近くなり、利用者様の行動が見やすくなった。またトイレや浴室の誘導が短縮され、職員の動線も短くなった。だがその反面、生活リハビリとしての利用者様の歩行距離が短くなってしまった。また、今後利用者数を増やすことを目標とすると、現時点でのフロアでは狭くなってしまふ為、利用者数の増加目標はもちろん、レイアウト等の変更も視野に入れていく必要がある。
- III. 「職員から提供される限定された楽しみ」から「利用者様がしてみたい自己決定したたのしみ」を実現させるため、下半期より午前レクの作業レクを一旦中止し、脳トレや色塗り工作と、様々なレクをこちらが提供するのではなく、ある程度用意し、本人様にその中から選択して頂く様に変更。また、レクにこだわらず雑誌や新聞を読んだり、テレビを観たりマッサージチェアで過ごす等、本人様が希望される事、本人様がお好きな事、ルーティンとしている事を見つけ出しいつでも提供できる環境づくりに努めた。

2.利用者数

利用者数 (目標差)	4月	5月	6月	7月	8月	9月
	516名 (16)	588名 (35)	584名 (-38)	564名 (8)	530名 (-91)	542名 (-82)
	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	549名 (-101)	573名 (-90)	575名 (-75)	521名 (-91)	553名 (-72)	567名 (-109)

- I. 今年度は、1日の平均利用人数を23.5名、1ヶ月の利用人数500～670名とし、利用者増加を目標としていたが、殆どの月で目標値を大きく下回る結果となった。
- II. 利用者獲得に向けての具体的な取り組み
 - ① 引き続き毎月、居宅事業所への訪問を行う事で「毎月必ず訪問してくるデイサービス」という印象付けを行った。ケアマネジャーとコミュニケーションを取ることで信頼を獲得し、新規利用者獲得へと繋げていった。状況報告や空き情報等のチラシ配布等を実施。
 - ② 家族様やケアマネジャーからショートステイや入所に関しての相談があった場合、スムーズにご案内できるようある程度の説明を行い、相談員への情報提供を行った。デイサービスのみ利用者増加を目的とするだけでなく、施設全体の窓口である事を意識し営業を行った。

3. 感染防止対策

- I. 引き続き、お迎え時の検温・体調確認、来所時のうがい・手洗いの徹底。1時間おきの換気の施行、利用中の検温を実施する事で、感染拡大の予防に努めた。
- II. 体調不良等が見られた際でも、すぐにお断りするのではなく、発熱等なく経過観察で対応出来る利用者様に対しては感染対策を講じながら、他の利用者様の感染予防も確保しながら、こちらで過ごして頂けるよう対策を行った。また、感染されても、症状がなければ感染対策の元療養期間終了後は速やかにご利用頂き、家族様の介護負担軽減に努めた。

4. 人材育成、人材確保、資格取得

- I. 職員の無資格者（運転手を中心に）に対して、認知症介護基礎研修のeラーニングを受講し取得した。
- II. 希望する休暇が取れる様、少人数でも行える業務調整を行い、希望する有給を取得してもらう事が出来た。

5. 業務継続計画

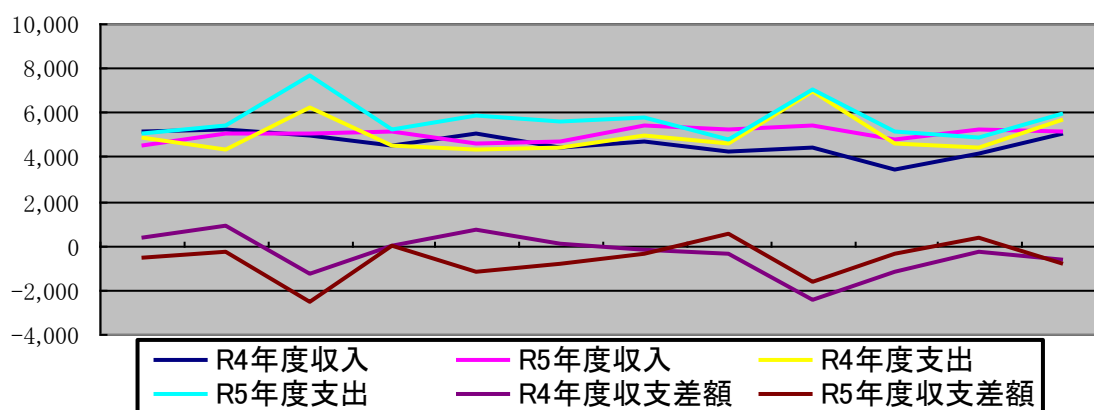
感染症や災害が発生した場合においても、デイサービス事業を止めずに継続して利用様に必要なサービスを提供するためのBCPの作成と体制作りを、入所部門とすり合わせて作成を行った。

6. 令和5年度利用者状況と収支状況

令和5年度 収入・支出 (単位：千円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	合計	前年比	
R4年度収入	5,166	5,180	4,924	4,456	5,041	4,436	29,206	-7,310	
R4年度支出	4,843	4,325	6,202	4,496	4,347	4,410	27,124	-4,086	
R5年度収入	4,511	5,060	5,067	5,128	4,615	4,706	29,087	119	
R5年度支出	5,034	5,398	7,615	5,186	5,832	5,588	34,653	7,229	
R4年度収支差額	323	855	-1,278	-40	694	26	580	-4,726	
R5年度収支差額	-523	-338	-2,548	-58	-1,217	-872	-5,556	4,976	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	前年比	
R4年度収入	4,703	4,259	4,401	3,386	4,154	5,038	55,651	-12,859	
R4年度支出	4,938	4,618	6,903	4,567	4,410	5,682	58,242	6,894	
R5年度収入	5,367	5,194	5,419	4,774	5,180	5,141	60,162	4,511	108%
R5年度支出	5,736	4,780	7,043	5,145	4,861	5,935	68,153	9,911	117%
R4年度収支差額	-230	-359	-2,502	-1,181	-256	-644	-4,592	-4,212	
R5年度収支差額	-369	476	-1,624	-371	319	-794	-7,991	-3,399	-174%

収支比較グラフ (単位：千円)



以上

フレール魚崎中町（認知症対応型共同生活介護）

令和5年度 事業報告書

「足腰頭を鍛えて、いつまでも元気に楽しく過ごそう！」をスローガンに、感染対策強化に努めながらも、コロナ禍による入居者様のストレス・認知症状の進行緩和の為、制限緩和を模索しながら、引き続き体操・口腔体操・廊下歩行・日光浴・日常生活動作等毎日行っている。また、華道教室を再開し書道・手作業・おやつ作り等楽しみごとを強化し取り組んだ。

資格取得においては介護福祉士国家試験に3名受験し3名合格する事ができた。

感染症については6月末に4階で職員2名・入居者様2名がコロナウイルス感染が発生し、12月に4階で職員2名がインフルエンザ感染が発生したが、それ以上の拡大なく終息できた。

1. 感染対策強化と足腰頭を鍛えやりがい・楽しみ作りで心身共に健康を

- I 感染症対策緩和に伴い、3月より直接面会・家族様との散歩(30分以内)・家族様との買物や外食(2時間以内)を再開した。引き続き家族様へ毎月の手紙に日常のご様子の写真を掲載し、喜んで頂けている。
- II 手洗い・うがい・換気・消毒の徹底、入居者様は10時と15時に検温を行う等、体調管理に努め、職員の体調管理も注意していたが、6月末に職員2名、入居者様2名にコロナウイルス感染が発生した。12月には職員2名にインフルエンザ感染が発生。その都度感染対策強化を行い、感染拡大することなく終息した。
- III 免疫力向上・健康維持・ストレス軽減の為、極力日光浴(青空喫茶)・散歩・廊下歩行・体操を積極的に行い、適度な運動や楽しみ作りを実施した。
- IV 季節の掲示物作成等も積極的に取り組み、個々のできる事、やりがい作りに取り組んだ。折り紙・パズル・編み物など個々で楽しめるレクを多く提供していきたい。
- V 華道教室を再開し、皆様とても楽しみにされ喜んでおられる。音楽療法再開に向けて取り組んでいきたい。
- VI 食の楽しみ方の取り組みがあまり出来ていない為、出前や郷土料理の実施、外食外出を進めていきたい。

2. 入居者様の安定的確保

- I 見学时、気持ちの良い対応・説明を心がけ、見学者はほぼ申し込み頂けているが、介護度が高い方等、現在のグループホームの状況にあった候補者の申し込みが少ない。在宅でぎりぎりまで頑張られてからの申し込みが多い。利用者様にとってもグループホームで良い環境で生活しやすい入居申し込みのタイミングの話等させて頂き、あんしんすこやかセンターに発信している。
- II 状況に応じて円滑に入居して頂けるよう、他部署と連携を図っていく。
- III 管理者、リーダーが現場業務に入る為、中々確保業務をする時間が確保できなかった。

3. 認知症ケア統一に向けての人材育成

- I 認知症研修を実施し、認知症ケアの認識・ケアの統一に取り組んでいるが、不安定な入

居者様や数名の ADL 低下による介護力増の状況により中々会議や研修が実施できていないが、引継ぎや申し送りの場で認知症ケアについてカンファレンスを行っている。

II 3年目の EPA 職員は順調に業務をおこなえている。EPA 職員 2 名介護福祉士受験し、合格する事ができた。急変時や事故の対応・連絡、電話対応等指導にあたっている。

4. 介護保険法遵守の為の進捗状況

I ケアプランは3ヶ月に1回見直し作成実施。コロナ感染症対策の為、家族様へは郵送している。次年度は出来る限り直接説明を行っていく予定。居室担当者会議は毎月実施。

II 認知症研修はコロナ感染症対応の為時期がずれたが、2回実施。職員会議は1回実施。身体拘束適正化研修は全職員実施。

5. その他

I 物価高騰の為、節電、物品の節約を全職員に啓発し、エアコンのタイマー運転及び計画的な稼働、不必要な照明の削減に取り組んだが、夏の猛暑、入居者様の状況による窓が開放できない状況等の為、節電は中々実績に繋がらなかった。引き続き全員で意識強化し取り組んでいきたい。

II R5年7/1より2床増床した為、収入増となった。

6. 要介護者の年齢・介護度

平均年齢 3階 87歳・4階 89.3歳 平均介護度 3階 2.9 4階 2.2 (R6.3月末)

7. 事故発生状況

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
転倒	R4年度	2	0	1	1	0	1	2	5	3	5	3	2	25
	R5年度	2	8	10	2	3	2	2	6	4	1	4	2	46
転落	R4年度	1	0	0	0	1	0	0	1	1	0	0	0	4
	R5年度	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	2
内出血 打撲	R4年度	0	0	2	1	1	2	2	3	1	1	3	2	18
	R5年度	6	2	4	7	6	3	6	4	2	2	5	2	49
傷 裂傷	R4年度	0	2	1	2	0	1	0	0	1	0	0	2	9
	R5年度	0	4	1	1	0	3	2	1	1	1	0	0	14
異食 誤嚥	R4年度	0	1	0	0	0	0	0	1	2	1	0	0	5
	R5年度	1	1	1	0	1	0	0	0	1	0	0	0	5
薬	R4年度	0	0	0	1	1	0	0	0	1	1	0	2	6
	R5年度	2	1	0	1	1	5	1	1	1	5	5	2	25
その他	R4年度	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	R5年度	1	1	1	2	0	1	0	0	0	0	1	0	7
合計	R4年度	4	3	4	5	3	4	4	10	9	8	6	8	68
	R5年度	12	17	17	13	12	14	11	13	9	9	15	6	148

I 転倒…左大腿骨転子部骨折(入院)1件・右大腿骨頸部骨折(入院)1件・左橈骨遠位端骨折・左大腿骨骨幹部骨折(入院)1件・右大腿骨骨折(入院)1件

II 誤嚥…喉詰り・義歯外れ 異食…ポリグリッ・青梅

III 薬ミス…服薬忘れ 10 件・飲みこぼし 13 件・持ち出し 1 件・他者の食前薬を服用 1 件

IV その他…行方不明・無断外出・他者の歯ブラシ使用・加害行為等

8. 利用者数

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
総日数		480	496	480	558	558	540	558	540	558	558	522	558	6406
利用日数 (日)	R4 年度	480	496	480	496	482	480	480	478	475	496	448	496	5803
	R5 年度	444	496	457	529	558	539	558	534	558	550	518	544	6285
入院 (日)	R4 年度	0	0	0	0	0	0	0	2	7	0	0	0	9
	R5 年度	36	0	23	11	0	1	0	0	0	8	4	14	97
空室(日) (退居)	R4 年度	0	0	0	0	14	0	0	0	14	0	0	0	28
	R5 年度	0	0	0	18	0	0	0	6	0	0	0	0	18
稼働率 (%)	R4 年度	100	100	100	100%	97%	100%	100%	99%	96%	100%	100%	100%	97%
	R5 年度	93%	100%	95%	95%	100%	99%	100%	98%	100%	98%	99%	97%	97%

I 入院 7 件…病気 2 件・骨折 4 件・その他 1 件 II 入居 4 件・退居 4 件

9. 年間収支結果

単位 (千円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月		
令和 4 年度収入	5,749	5,797	5,701	5,817	6,170	6,078		
令和 5 年度収入	5,514	5,982	5,306	6,698	6,787	6,942		
令和 4 年度支出	5,094	4,753	8,455	5,162	5,144	5,378		
令和 5 年度支出	5,219	4,758	8,675	5,277	4,796	5,296		
令和 4 年度収支差額	655	1,044	-2,754	655	1,026	700		
令和 5 年度収支差額	295	1,224	-3,369	1,421	1,990	1,646		
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	前年度比
令和 4 年度収入	6,006	6,261	6,019	6,016	5,528	6,491	71,633	
令和 5 年度収入	7,015	6,701	6,996	7,053	6,419	7,080	78,493	110%
令和 4 年度支出	5,242	4,969	9,210	5,093	4,784	8,718	72,002	
令和 5 年度支出	5,006	5,047	9,129	5,532	5,338	4,888	68,961	95.8%
令和 4 年度収支差額	764	1,291	-3,191	923	744	-2,227	-369	
令和 5 年度収支差額	2,009	1,654	-2,133	1,521	1,081	2,192	9,532	268.3%

※減価償却費等は計上せず

※収入は令和 4 年度と比べ 110%、支出は 95.8%、収支差額は 268.3%の結果となった。

以上

介護型ケアハウス サンライフ魚崎

令和5年度事業報告書

「足腰頭と心を鍛えて、いつまでも元気に楽しく過ごしましょう！」をスローガンとし、散歩・体操・書道などのクラブ活動の計画的な実施に加え、立位・歩行訓練及び計算や塗り絵等施設内でできる活動を毎日行っている。

4月にミャンマーからの特定技能生2名が入職、健康面や日本語の理解で心配な面もあったが、概ね順調に業務理解・日本語の理解が進んでいる。資格取得においては介護福祉士国家試験に2名受験し2名合格、介護支援専門員は3名受験し1名合格する事ができた。

感染症については7月下旬から8月にかけてケアハウス1階、3月中旬にケアハウス2階と3階で職員・入居者様にコロナウイルス感染が発生した。

1. 入居者様の健康・喜ばれる介護支援

- I. 歩行・立位・座位保持・体操等、入居者様の出来る事を個別に整理した上でチェック表を作成し、日課で日常生活リハビリ担当職員を割り振り、毎日実施できるようにした。
- II. 近隣もしくはケアハウス4階への散歩を毎月最低2回（第2・第4火曜日）計画し実施した。職員への意識付けにより計画以外にも天気の良い日は散歩や日光浴を行えている。
- III. 外出や外食の企画、ボランティアの方等の受け入れには至らなかったが毎月2回（第1・第3火曜日）に入居者様と職員と一緒に簡単なおやつを作るレクリエーションを実施し、入居者様の楽しみや意欲向上に繋がった。
- IV. 「ありがとうございます。」の言葉を介助ごとに入居者様にお伝えするよう職員に意識付けを行った。少しずつではあるが意識できるようになってきており良好な雰囲気・入居者様との関係構築に繋がっている。

2. 入居者様の安定的確保・感染防止

- I. 前年度入院日数234日に対し今年度は386日、空床日数は前年度110日に対し101日となった。入院に関してはできるだけ早期退院ができるよう病院や家族様と連携・調整を図ったが、2週間以上の中・長期的な入院になるケースが10件あった。
- II. サンライフ魚崎事業所のホームページを8月に開設した。施設の特徴をできるだけわかりやすく掲載し、パソコンだけでなくスマートフォンでも見やすいようにした。ホームページ開設以降、見学の等の問い合わせに繋がっている。
- III. 毎月初め、デイサービス管理者と共に近隣の居宅介護支援事業所への営業活動を行っている。また見学を希望される方においては、ケアハウスの特徴をできるだけ丁寧に説明し、ゆっくりと施設内を見学して頂けるように心がけた。

- IV. ショートステイと連携し、ケアハウス待機でのロングショートを利用して頂き状況に応じて円滑に入居して頂けるようにした。新規入居者様8名中3名がロングショート利用者様となった。
- V. 感染症において手洗い・うがい・換気・消毒の徹底、職員の体調管理へ注意をしていたが7月中旬から8月初旬にかけてケアハウス1階、3月中旬にケアハウス2階及び3階で入居者様・職員にコロナウイルス感染が発生した。目立った風邪症状がない場合でも職員から入居者様に感染してしまったと思われる。入居者様への個別対応、感染防護セットの着脱、職員の勤務調整等に多くの時間・労力を要した。

3. 活力ある職場作り・業務改善

- I. 4月下旬よりミャンマーからの特定技能生2名が入職。体調面や言語の理解で心配される事はあったが、概ね順調に業務及び日本語の理解が進んでおり、順次業務を任せる事ができている。
- II. 特定の職員において他フロアで業務ができるよう調整を行った。今後もフロアの状態を見ながら、欠勤がでた場合等に柔軟に対応できるよう調整を行いたい。
- III. 本部長代理・施設長を中心とした介護福祉士・介護支援専門員試験講座や学習の進捗状況の確認、勉強方法のアドバイスをを行い、介護福祉士2名が受験し2名合格介護支援専門員に3名が受験し1名合格する事ができた。
- IV. 労働環境改善支援事業の申請を9月に行い、離床センサー内蔵ベッドを2月に6台を導入した。

4. その他

- I. コスト削減の為、空調の時間差運転や温度・風量固定を行った。また蛍光灯からLEDへの交換を少しずつ進めている。
- II. 重大事故については入院に至らない事故が4件、入院に至った事故が1件発生した。

5. 利用日数・稼働率・入院日数・外泊日数・入退所人数・看取り人数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
日数	1,440	1,488	1,440	1,488	1,488	1,440	8,784
利用日数	1,431	1,482	1,410	1,430	1,393	1,402	8,548
稼働率	99.4%	99.5%	97.9%	96.1%	93.6%	97.4%	97.3%
入院日数	2	0	30	58	80	18	188
外泊日数	0	0	0	0	0	0	0
空室数	7	6	0	0	15	20	48
退居者数	0	1	0	0	2	2	5
新規入居者数	1	1	0	0	2	1	5
看取り人数	0	1	0	0	2	1	4

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
日数	1,488	1,440	1,488	1,488	1,392	1,488	17,568
利用日数	1,442	1,399	1,452	1,427	1,377	1,436	17,081
稼働率	96.9%	97.1%	97.6%	95.9%	98.9%	96.5%	97.2%
入院日数	43	30	0	61	15	49	386
外泊日数	0	0	0	0	0	0	0
空室数	3	11	36	0	0	3	101
退居者数	0	2	0	0	0	1	8
新規入居者数	1	0	1	0	0	0	8
看取り人数	0	1	0	0	0	0	5

6. 年間収支結果

(単位：千円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計	前年度比
令和4年度収入	19,798	20,853	19,939	20,367	20,801	20,596	122,354	
令和5年度収入	19,281	20,807	19,338	19,551	19,377	20,956	119,310	97.5%
令和4年度支出	14,277	14,699	23,954	15,571	14,260	14,000	96,762	
令和5年度支出	15,807	14,515	25,304	14,189	13,729	14,107	97,651	101%
令和4年度収支差額	5,521	6,154	-4,015	4,796	6,541	6,596	25,593	
令和5年度収支差額	3,474	6,292	-5,966	5,362	5,648	6,849	21,659	84.6%
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
令和4年度収入	20,389	21,003	22,974	19,676	18,438	24,004	248,838	
令和5年度収入	21,415	19,791	21,638	21,257	19,488	21,086	243,985	98%
令和4年度支出	16,233	14,147	27,137	14,650	13,783	14,637	197,348	
令和5年度支出	15,060	13,863	25,537	13,918	14,296	14,036	194,361	98.5%
令和4年度収支差額	4,156	6,856	-4,163	5,026	4,655	9,367	51,490	
令和5年度収支差額	6,355	5,928	-3,899	7,339	5,192	7,050	49,624	96.4%

※減価償却費等は計上せず

※収入は令和4年度と比べ98%、支出は98.5%、収支差額は96.4%の結果となった。

以上

介護型ケアハウス サンライフ魚崎医務室

令和5年度 事業報告書

スローガン：「足腰頭を鍛えて、いつまでも元気に楽しく過ごそう！」

1. 令和5年度受診・往診・入院・救急・看取り件数等

月	往診 件数	受診 件数	入院 件数	救急 件数	看取り 件数	薬管理 件数	入居数	退所	入所
4月	97	8	0	0	0	48	48	0	1
5月	103	11	1	1	1	47	47	0	1
6月	101	8	0	1	0	47	47	0	0
7月	94	3	4	3	0	44	44	0	0
8月	102	6	1	0	2	47	47	0	2
9月	119	8	0	0	1	47	47	1	1
10月	129	5	3	0	0	47	47	0	1
11月	108	12	0	0	1	46	46	1	0
12月	100	2	0	0	0	48	48	0	2
1月	110	7	4	3	0	47	47	0	0
2月	109	10	1	1	0	47	47	0	0
3月	108	8	3	1	0	46	46	1	0
合計	1280	88	17	10	5	561	561	3	8

2. 令和5年度 看護業務の総括

I. 入居者様の健康管理

- ① 入居希望者様の面接は出来る限り同席し、現状態の把握と入居後必要な医療的支援についてのアセスメントを行い安心して入居して頂くことが出来た。
- ② 入居者様の体調確認を行い異常の早期発見に努めた。異常があれば速やかに医師に連絡し、指示に従い対応した。
- ③ 毎月主治医に医療連携報告書を提出し医師との情報共有に努めた。
- ④ 口腔ケアは2カ月に1回は必ず行えるよう計画し、異常が見られた場合は歯科医師につなげ、口腔内トラブルの予防と早期治療に努めた。
- ⑤ 褥瘡に関しては見つけ次第、処置を毎日行い、除圧の為臥床時間を増やし、悪化が見られれば皮膚科医の往診を依頼し、改善に向けて努力している。しかしなが

らなかなか良くなならない方がいて皮膚科医と連携を取りながら治療中。

- ⑥ 転倒リスクについてアセスメントを行い予防しているが、避けられない転倒もあり、事前にご家族に十分説明し理解を得るようにした。転倒時は見守りカメラを確認し、介護職員と一緒に原因と対策を検討した。

入居時は特に慎重に転倒リスクについて介護士と話し合い、センサーなどは積極的に活用していている。

II. 看取りの対応

看取り介護への移行時期を見極め、早めにご家族と看取りについて相談をさせていただき、コロナ禍ではあるが感染対策を行いながらなるべくご家族様と面会出来るよう配慮したことで、穏やかに居室で最期を迎えることができた。

III. 感染対策

- ①手洗い、うがい、換気等の基本的な感染対策は習慣化出来ており共用部消毒や換気で感染経路の遮断に努めた。

- ②職員、入居者ともに毎日体温測定実施し、職員は発熱時や風邪様症状、下痢等あれば出勤せず報告するよう徹底した。感染流行時は、急を要する受診以外は控え、なるべく往診で依頼した。

- ③コロナワクチンの6回目、7回目接種は希望者全員に問題なく終了した。

感染対策の研修としてガウンテクニックの動画を作成し、職員にみてもらったうえで防護服着脱の研修を行った。

- ④7月に1Fの入居者様6名がコロナ陽性となったため、感染対策を徹底した。

2名の入居者様が入院され、1名は回復し退院、もう1名嚥下状態が悪化し退居となった。そのほか4名の感染した入居者様は重症化せず、経過出来た。

2024年3月に3F 2名、2F 3名の入居者様がコロナ陽性となったため、感染対策を行った。1名が肺炎を併発し入院となったが、他の方は順調に回復した。

- ⑤10月から新しい看護師が入職し、順調に勤務内容を覚え日曜の一人勤務もできている。

以上

サンライフ魚崎 厨房

令和5年度事業報告書

今年度、ささゆり会の経営スローガンである「足腰頭と心を鍛え、いつまでも元気に楽しく過ごしましょう」を実現するため、厨房職員の人材育成・職場環境改善を重点に置き、業務内容改善と指導方法の見直しを行った。また、入居者様に好まれる安心・安全・美しく・美味しい食事の提供を目指し、他職種や利用者様の要望に応えた新たな献立の実施を行った。3月に調理器具や食器を多数交換し作業に費やす時間短縮を図った。食材費高騰は続いており、前年度と比較して3,666,630円増額となっている。

1. 新たな人材育成・ハラスメント予防に対する周知

- ・昨年度に引き続き職員の入れ替わりが多くあった為、基礎的な給食業務・衛生面の知識等の指導を徹底して行った。業務の効率化という面に関しては、朝食の準備を行う早出勤員の業務負担軽減のため他部署の職員の力も借り、3月より配茶の担当を変更することとなった。これに伴い、全ての時間帯でマニュアルの見直しを行い、時間内に業務が収まるよう試行錯誤しながら調整していている段階である。
- ・高齢の職員の退職もあり、現段階では昨年度と比較すると平均年齢は低くなっている。ただ、経験年数や前歴の違い等で個々の技量差に関しては変わらず課題としてある状況である。個々の『出来る事』を増やすために、業務の割り振りを変更し、新たな業務の取得を目指して指導を行った。個々で『来る事』が増えたことにより、職員間でフォローし合える仕事も増えており、状況に応じて声を掛け合い助け合える環境が出来上がってきている。担当業務に縛られず、全員で協力し合える環境作りを今後も強化していくことに努める。

2. 厨房設備機器・物品の更新・改修の検討

- ・長期使用による経年劣化がみられる調理器具・食器について施設長・本部長代理・事務長・管理栄養士で見直しと検討を行った。創業時より使用している物品も多くあったため、職員の怪我に繋がるもの・衛生的に保つのが困難になってきている物を中心に入替を行った。3月から配茶の担当が変わったことにより、回転釜を調理で使うことが可能となり、それに伴い必要となる物品についても新たに購入した。
- ・経年劣化しており修理を行った物品としては、利用者様の食事を乗せているトレイがあげられる。左右の手を触れる部分が割れており、利用者様や職員が怪我をする恐れがある。業者に素材の配合を変えた試作品を頂いたためそちらを使用しつつ、壊れた物に関しては修理を行う又は別の種類のトレイで代用中。今後も壊れる頻度が高いようであれば、使用するトレイを変更する等検討が必要かと思われる。

3. 食材価格高騰に対する対策

- ・天災やウクライナ戦争等の世界情勢・円安の影響により、食材費の大幅な高騰は続いている。今年度も主な納入先2社で比較し、調味料や食材費等をより安価に仕入れられる方へ納入先を変更する・使用する食材を変更する等の工夫を行ったが、食材費増額となっており年間で12%の上昇がみられる。米や牛乳・砂糖や油等の調味料類等他食品で代用出来ない食品の値上げも重なっている。生鮮野菜についても、天気や気候に左右されやすく変動が激しいため、食材発注段階で予測するのが難しい状況である。朝食の果物缶の種類を変える・価格が安定している冷凍野菜を活用する等工夫を行い、出来るだけ食材費を抑えられるよう努める。
- ・コロナが5類感染症に移行し、今年度は食事レクやおやつレク・特別食の実施を積極的に行った。また、2月より職員食の実施日を増やした。食数も増えているため来年度は食材費の増額が予想されるが、一人当たりの価格が今年度を超えないように努める。

〈R5年度 食材料費実績〉(円)

	R5年度	R4年度	増減(%)
4月	2,535,448	2,580,135	-1.7
5月	2,744,626	2,623,072	+4.4
6月	2,417,446	2,463,349	-1.9
7月	2,742,802	2,670,910	+2.7
8月	2,476,285	2,700,216	-9.2
9月	2,632,103	2,522,779	+4.3
10月	2,632,274	2,361,025	+11.5
11月	2,517,109	2,274,856	+10.6
12月	2,729,628	2,652,445	+2.9
1月	2,589,595	2,512,759	+3.1
2月	2,369,627	2,315,150	+2.4
3月	2,806,713	2,482,428	+13
合計	33,825,754	30,159,124	+12.2

※昨年度比較、3,666,630円増額

以上

サンライフ魚崎居宅介護支援事業所

令和5年度 事業報告書

今年度の法人経営スローガン「足腰頭と心を鍛えて、いつまでも元気に楽しく過ごそう」に沿ってケアマネジメントを行い、昨年に引き続き黒字をできるだけ増やす方向進めています5月にコロナ感染症が5類に移行し、今年は例年のない猛暑の夏を過ごされ、お亡くなりになったり、施設入所となった方も大勢おられ、7月8月9月の利用者様の減少となっています。

1. 感染症や災害への対応力強化

感染症や災害の発生した場合であっても、日頃から地域にある介護サービス事業所や福祉用具事業所と密に情報交換をすることにより、利用者様に必要なサービスを継続的に効率よく提供できるようにします。本年もケアマネロッカーに災害時、持ち出し可能な名簿を作成保管し、避難訓練と併せて年1回の名簿更新を行いました。9月の津波訓練には3名参加10月の基幹福祉避難所の水害訓練には1名参加しました。3月にBCP（業務継続計画）を策定しました。来年度はBCPにそって研修、訓練等行っていきます。

2. 令和3年4月改定の介護保険報酬に則り、適正なケアマネジメントを行います

- I. 生活援助の訪問回数の多い利用者様等のケアプラン変更の度に検証を行い、5月と6月に神戸市へ書類提出しています。（1名）。
- II. 看取り期でのサービス利用前の相談、モニタリングの評価を行い、本人の意思を尊重した支援をしましたが（通院時情報連携加算）はいただけていません。1件の看取り事例があり、家族、支援者とともに見送ることが出来ました。

3. 研修・その他

- I. 高齢者虐待防止、身体拘束適正化、ハラスメント研修など必須研修に全員参加しています。
- II. 高齢者虐待、ハラスメント、困難事例等、人権尊重に基づいたケアマネジメントについて地域包括支援センターと連携をはかりケアマネジャーだけでは抱えきれないと判断したケースは、早めに対応しています。
- III. 訪問時により良い情報の配布物を持参するという計画は毎月は出来ませんでした。魚崎北部あんしんすこやかセンターからの案内チラシや自宅で出来る簡単な体操のチラシなどは持参し喜ばれた。今後も情報提供していきたい。

IV. 研修

令5年4月	介護支援専門員更新研修	佐藤
7月	主任介護支援専門員研修	齋藤
9月	認定調査員現任研修	島田
12月	事業者連絡会（魚崎北部）	島田
令6年1月	介護BCP策定支援セミナー	岩佐・島田
2月	法令遵守と運営指導	岩佐・島田
3月	介護保険法と介護報酬改定	岩佐・島田

4. 収支結果

(単位：千円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
令和4年度収入実績	1,516	1,499	1,411	1,451	1,505	1,512	8,894
令和5年度収入実績	1,497	1,442	1,496	1,389	1,422	1,309	8,555
令和4年度支出実績	1,270	1,106	2,376	1,274	1,065	1,128	8,219
令和5年度支出実績	1,240	1,056	2,720	1,049	1,087	1,319	8,471
令和4年度収支差額実績	246	393	-965	177	440	-197	675
令和5年度収支差額実績	257	386	-1,224	340	335	-10	84
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和4年度収入実績	1,533	1,374	1,452	1,489	1,521	1,573	17,970
令和5年度収入実績	1,432	1,357	1,342	1,346	1,499	1,440	16,972
令和4年度支出実績	1,355	1,134	2,629	1,080	1,113	1,367	16,947
令和5年度支出実績	1,200	1,200	2,600	1,200	1,200	1,200	17,000
令和4年度収支差額実績	178	240	-1,110	409	408	206	516
令和5年度収支差額実績	17	207	-1,307	202	233	320	-243

○ 収入（居宅介護支援費・介護予防支援業務委託料・認定調査委託料）

管理者意見

令和5年度は前年度より収入が少し減り、支出が増えています。結果243,000円の赤字となりました。令和6年度は介護支援専門員が全員専任業務となる為、黒字となる予定です。

以上

地域包括支援センター 魚崎北部あんしんすこやかセンター

令和5年度 事業報告書

経営スローガン「足腰頭と心を鍛えて、いつまでも元気に楽しく暮らしましょう！」

サブ「全職員が専門力向上し感染防止し楽しい生活を提供する！！」

今年度も、感染症に配慮してイベント開催し、感染発症等問題なく実施できた。

また今年度も、魚崎地域、甲南地域、北青木地域に分けて分析し地域にアプローチをしている。

魚崎地域の校北公園で毎週水曜日の9時半よりラジオ体操を継続実施し介護予防啓発に努めることができた。住民がラジカセやのぼりの準備や片付けもできるようになり住民主体に移行できた。

甲南地域では、去年の地域ケア会議でできたプロジェクト甲南と言うネットワークのメンバーと連携し、甲南商店街にて「ふらっと立ち寄れる居場所」を開催する事になり甲南商店街のイベント、七夕フェスタ、ハロウィンフェスタ、クリスマスフェスタでブースを出し立ち寄れる居場所として開催できた。また地域包括、介護予防、認知症予防などを、幅広い世代に広報できた。

プロジェクト甲南の一員でもあるコープ甲南店でも、多世代交流できる居場所を目指すことになり、「ゆるーくつながるお楽しみ会第1回」を開催し相談対応や広報ができた。

北青木地域は、センターより離れている為、西青木総合会館で毎月第3水曜日の午前、高齢者出張相談会を継続開催している。地域役員からの助言あり「高齢者出張相談会」から「シニア元気相談会」と名称を改めた。参加者が少なく、今年度はイベント開催も計画し4月、9月、12月、1月に実施でき、介護予防や防災について取り組み、イベント時は参加者も多く、好評であった。

昨年できた広報ルートを上手く活用し広報ができた。

また北青木の地域役員や防災福祉コミュニティ役員と連携し北青木の防災の取組について情報収集や対応を検討できた。2月に地域ケア会議を開催し、北青木の防災の取組について、地域住民に情報提供し一緒に考えることで防災への意識を高める事となった。

1年間で虐待通告12件や困難事例22件と多かったが、随時情報共有し対応を検討し、迅速かつ素早くチームワークを発揮して連携し実践できた。

1. 高齢者への虐待防止、消費者被害防止、成年後見制度の活用等の権利擁護支援

・消費者被害注意喚起の広報については、つどい場、介護リフレッシュ教室、給食会、相談対応時、また地域の広報ルートを活用し、掲示板や回覧や配布等で頻回に注意喚起した。今年度は区内の消費者被害情報の件数そのものが多く、点検商法、押し買い等の情報が寄せられたので、出来るだけタイムリーに起こっている犯罪の情報とその対処方法を独自作成のチラシを使って広報した。

・東灘区のアんしんすこやかセンター社会福祉士と立命館大学産業社会学部との協働で2年かけて作成した虐待防止パンフレット「家族を支えるあなたへ」が完成、刷り上がった。内容的には地域の人々や家族介護者、これから介護をする家族の方にお渡ししやすい養護者支援の内容を色濃く反映したものになったので、家族からの相談の際は、必ず渡すようにした。

また、実際の虐待ケースにおいて、養護者への面談をする際に虐待防止パンフレット「家族を支えるあなたへ」を活用した。パンフレットの中にあるチェックリストを使って丁寧に面談することで、養護者をねぎらいながら、注意喚起や気づきを促すことが出来た。

虐待ケースが増加傾向にあるが、複数人数対応と迅速な初動対応は実現できている。一時的に業務過多になることがあり、優先順位を決めて業務するようにしている。

成年後見を含む権利擁護相談は9名。その中には家族信託や事業承継に関するものもあったが、日頃から司法書士とセンターがつながりを持っていたため特に問題なく、相談対応を実施することが出来た。

2. 認知症サポートネット「お魚の会」の更なる推進

・7/27 第1回「地域ケア会議」開催 26名参加。プロジェクト甲南と言うネットワークで、認知症の人も住みやすい町となるように「ふらっと立ち寄れる居場所」を開催する事となり、10/28 甲南商店街のハロウィンフェスタにて、ブース参加し、仮装した子供家族や高齢者に、認知症クイズを出し、143名に認知症について啓発、高齢者の相談窓口である地域包括の事を107名に広報できた。12/17 クリスマスフェスタでも同様に認知症クイズや地域包括の広報が62名にできた。

3. 健康寿命延伸の推進に関する業務（神戸市年間 85 万円委託料あり）

・6/27:介護予防普及啓発事業「元気いきいき講座」を西青木総合会館にてシンコースポーツによるフレイルチェックと健康体操を実施。11名参加。

・魚崎北町の校北公園にて毎週水曜日の9:30からラジオ体操を実施。6~17名参加。

・北青木地域の西青木総合会館で「シニア元気相談会」を毎月第3水曜日午前開催し、相談だけでなく、神戸市の元気いきいき体操も一緒に実施したが、来所者が昨年度0~

5名と少なく、今年度は「イベント」開催を企画し実施した。

4月理学療法士による「楽にできる立ち座りとスクワット方法」18名参加。

9月薬剤師による「薬の疑問に答えます！フレイルと運動」14名参加。

1月福祉用具事業所による「トルト歩行解析で転倒リスクを知ろう」20名参加。

イベントの無い月は、1～5名参加。上半期より下半期の方が参加者微増傾向。

4. 地域包括ケアシステム構築の為、地域ケア会議等を開催していく。

(神戸市から年間最高 50,000 円開催経費あり。)

・7/1 甲南商店街のイベント「七夕フェスタ」にてブースで参加し、商店街利用者にアンケートをとった。アンケート回答者 14 名全員が、「甲南商店街に立ち寄れる場所があれば良いと思う。」にチェックがあった。

7/27：第1回「地域ケア会議」「甲南地域に、立ち寄れる場所を増やし利用しやすい町にする」をテーマに開催。26名参加。昨年できたプロジェクト甲南のネットワークを利用し、場所や物品の提供など協力できることを事前に聞き取り共有し、居場所について意見をいただいた。10/28、12/17、2/2 居場所として開催できた。

・2/27：第2回「地域ケア会議」「北青木の防災を考える。防災に関する関心を高めるには？知らなかったを減らすには？」をテーマに地域ケア会議開催し15名参加。

事前に福池小学校区防災福祉コミュニティの方、地域の方々と聞き取りや打ち合わせを何回も行った。その結果、防災情報に関心を寄せることが出来ていない人が多い事が、課題と分かった。防災についての意識を高める仕組み及び情報を得やすくする仕組みづくりについて検討し、色々なアイデアが出た。令和6年度取り組む事となる。

・3/14：第3回「地域ケア会議」「高齢者夫婦の見守りどうする～私達どうしたらいいの～」高齢者夫婦の見守り問題は高齢者男性と地域の繋がりが希薄であることと関連しているという話しが出た。仕事を辞めた男性が地域と繋がり、活躍したり、楽しめる場所が重要だね。という意見が出た。圏域内の3地域の民生委員が12名参加されての地域ケア会議は初めてで、交流もできたと喜んでおられた。

・包括的継続的ケアマネジメント（ケアマネ等支援）

東灘区あんしんすこやかセンター合同主催にてケアマネ支援の立場から研修会実施。

・7/6：ACP（アドバンス・ケア・プランニング）について学ぶ。73名参加

・9/12：ハザードエリア居住者の個別避難計画作成と活用について。48名参加。

・11/29：知ってほしい、利用者さんのお口の中、訪問歯科をもっと身近に 26名参加。

・2/21：障害福祉サービスから介護保険移行について学ぶ 44名参加。

・12/13：事業者連絡会開催。20名参加。ケアマネジャー同士で、困りごと等ざっくばらんにフリートークして頂いた。また小規模多機能ホームや医療介護サポートセンターにも話をしてもらい、ケアマネジャーが連携を取り易いよう関係性づくりに努めた。

5. 地域での見守りと居場所づくりや地域活動を後方支援する。

・地域活動の「かしまし処」「UMEのつぶやき」「Let's ゴー体操」「うおざきご近助さん」「東灘こどもカフェ」「サロンさかなちゃん」「魚崎ひととき会」の後方支援を実施継続している。

・法人事業として「ふれあい喫茶カフェ魚崎」は、感染症予防の観点から、施設内利用の調整が難しく再開は断念している。地域貢献としてラジオ体操は継続している。

・プロジェクト甲南ネットワークを活用しつつ、コープ甲南主催の「ゆるーくつながるお楽しみ会」や甲南本通商店街主催の甲南フェスタへの参加を通して地域活動を後方支援行っている。

・「魚崎つどいばめぐり」は実行委員が主体となり活動行う中で、情報提供や活動形態の検討を続けている。

6. 介護リフレッシュ教室の開催（神戸市より基本1開催2万と講師料・会場費1回1万円上限、年額6万円を上限。委託料あり。）

介護者を対象にした介護リフレッシュ教室企画開催

- ・ 5/15：「すぎちゃん法 フレイル予防」5名参加。
- ・ 7/31：「フルーツアンサンブルによる音楽鑑賞会」 21名参加。
- ・ 9/26：「フラワーアレンジメント+茶話会」 8名参加。
- ・ 11/30：「茶話会」12名参加。

3 回目のフラワーアレンジメントでは製作イベントに受動的に取り組むような時間だけでなく、「最近うれしかったこと」と題して、介護者同士お話しする機会を別途作ることが出来た。4 回目の茶話会では、家族を見送った介護経験者も交えて参加者同士で思いを共有し、お互い労い情報交換の場にもなり、好評であった。

7. 介護予防マネジメント 総合相談支援

令和6年3月末現在、サービス利用者224件（受託172件、委託52件）（前年比115%）委託割合23%。委託事業者（当法人含む）契約件数14件。介護予防支援165件。総合事業59件。新規件数93件。要介護に移行した件数40件。中止件数39件。

8. R5 年度収支報告

(単位:千円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計	前年度比
① 前年度収入	732	9,288	825	782	8,813	793	21,234	
② 今年度収入	754	9,268	779	793	8,686	765	21,045	99%
③ 前年度支出	2,086	1,977	3,677	2,238	2,025	2,056	13,234	
④ 今年度支出	2,080	1,959	4,038	1,948	2,000	2,102	14,127	106%
⑤前年度収支差額	-1,354	7,311	-2,852	-1,456	6,788	-1,263	8,000	
⑥今年度収支差額	-1,326	7,309	-3,259	-1,155	6,686	-1,337	6,918	86%

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	前年度比
⑤ 前年度収入	781	748	8,654	722	711	732	33,585	
⑥ 今年度収入	850	806	8,755	855	871	870	34,052	101%
⑦ 前年度支出	2,126	2,014	4,064	2,049	1,971	2,187	27,648	
⑧ 今年度支出	2,216	2,019	3,978	1,984	2,101	2,435	28,860	104%
⑤前年度収支差額	-1,345	-1,266	4,590	-1,327	-1,260	-1,455	4,397	
⑥今年度収支差額	-1,366	-1,213	4,777	-1,129	-1,230	-1,565	5,192	118%

今年度収入は 467,000 円増え、支出は 1,212,000 円増えたが、収支差額 5,192,000 円プラスとなった。

収入は、昨年より 1.3%アップし、目標収入である 1%アップを達成できた。

以上